

コミュ障口り魔王様のVtuber生活 in地球

波土よるり

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

異世界で勇者に敗れた魔王様♀が現代に転生。

魔王の力をつかって悠悠自適なニートぐらしをしていたら極度のコミュ障になってしまったので、克服のためにVtuberになりました。

こんな感じのゆる〜い魔王様の日常。

以下作者の魔王様のイメージ図←

小説家になろう様・カクヨム様でも投稿

(<https://ncode.syosetu.com/n2729gy/>)

(<https://kakuyomu.jp/works/1177354055089144527>)

目次

キャラ紹介

キャラ紹介 挿絵あり (3. 13更新) | 1

第一章 コミュカ Lv. 1

1 配信目 じゃあまず年齢を教えてくださいかな? | 8

2 配信目 【初配信】我こそ、ニーナ・ナナウルムである! 【キラキ

ライブ】 | 16

3 配信目 【初配信】我こそ、ニーナ・ナナウルムである! 【キラキ

ライブ】 2 | 25

4 配信目 【V t u b e r】キラキライブを語るスレ Part.

??? | 35

5 配信目 【レーペックス】雑談しながら銃を撃つのは【キラキラ

イブ／ニーナ・ナナウルム】 | 46

6 配信目 【レーペックス】雑談しながら銃を撃つのは【キラキラ

イブ／ニーナ・ナナウルム】 2 | 53

7 配信目 【レーペックス】雑談しながら銃を撃つのは【キラキラ

イブ／ニーナ・ナナウルム】 3 | 59

8 配信目 アンニユイな魔王様 | 68

9 配信目 【雑談】新しい家族じゃ【キラキライブ／ニーナ・ナナウ

ルム】 | 74

10 配信目 【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達 Part.

○▽【キラキライブ】 | 83

11 配信目 【雑談】マシユマロ焼いて食べるのは【キラキライブ

／ニーナ・ナナウルム】 | 92

12 配信目 【雑談】マシユマロ焼いて食べるのは【キラキライブ

／ニーナ・ナナウルム】 2

13 配信目 【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達 Part.

○▲【キラキラライブ】

14 配信目 【#魔王様の宴】5万人記念で凸待ちじや！【キラキラ

イブ／ニーナ・ナナウルム】

15 配信目 【#魔王様の宴】5万人記念で凸待ちじや！【キラキラ

イブ／ニーナ・ナナウルム】 2

16 配信目 【#魔王様の宴】5万人記念で凸待ちじや！【キラキラ

イブ／ニーナ・ナナウルム】 3

17 配信目 【#魔王様の宴】凸待ち釈明会見をいたします【キラキ

ライブ／ニーナ・ナナウルム】

18 配信目 【#魔王様の宴】凸待ち釈明会見をいたします【キラキ

ライブ／ニーナ・ナナウルム】 2

19 配信目 【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達 Part.

@*【キラキラライブ】

20 配信目 【I W A N N A B E T H E S A T A N】鬼畜

ゲーをプレイするのじゃ！【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】

153

21 配信目 【I W A N N A B E T H E S A T A N】鬼畜

ゲーをプレイするのじゃ！【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】 2

22 配信目 【告知】臣下の皆に、重大発表があるのじゃ【キラキラ

イブ／ニーナ・ナナウルム】

23 配信目 てんこうせい

24 配信目 わたしのまおうさま

98

Part.

106

115

122

127

135

140

146

鬼畜

鬼畜

159

165

172

179

25	配信目	誰じやお主	185
26	配信目	5年で人はあまりにも変わる	190
27	配信目	オフコラボ成功大作戦	195
28	配信目	【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達 Part.	200
!!【キラキラライブ】			
29	配信目	オフコラボ前哨戦 — 旅立ちの日 —	208
30	配信目	オフコラボ前哨戦 — エンカウント —	213
31	配信目	【#異世界たこパ】オフでたこパを開催じや【レイ・ブ レイブ／リリイ／ニーナ・ナナウルム】	219
32	配信目	【#異世界たこパ】オフでたこパを開催じや【レイ・ブ レイブ／リリイ／ニーナ・ナナウルム】	226
33	配信目	【#異世界たこパ】オフでたこパを開催じや【レイ・ブ レイブ／リリイ／ニーナ・ナナウルム】	232
34	配信目	【#異世界たこパ】オフでたこパを開催じや【レイ・ブ レイブ／リリイ／ニーナ・ナナウルム】	238
35	配信目	【#異世界たこパ】オフでたこパを開催じや【レイ・ブ レイブ／リリイ／ニーナ・ナナウルム】	245
36	配信目	魔王様のペットになるボイス	251
37	配信目	【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達 Part.	257
# \$ 【キラキラライブ】			
38	配信目	【雑談】オフコラボの振り返りがメイン【キラキラライブ ／天使リリイ】	264
39	配信目	ビッグイベントを企画中なんです！ぜひ！	269
40	配信目	魔王様3D	273
41	配信目	ライブの練習	277

4 2 配信目	ライブの練習2	282
4 3 配信目	【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達 Part.	286
！；【キラキラライブ】		286
4 4 配信目	本番	294
4 5 配信目	B A R キラキラライブ	304
第二章	コミュカ Lv. 2	
4 6 配信目	【#魔王様の雑談】今夜も色々適当に！【キラキラライブ】	309
／ニーナ・ナナウルム		314
4 7 配信目	だだだ大丈夫だ、も問題ない（震え声）	314

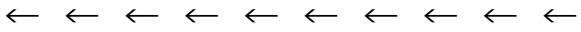
キャラ紹介

キャラ紹介 挿絵あり (3. 13更新)

以下はネタバレを含む箇所もあります。

最新話まで読んでから基本的に見てください。

また、挿絵も載せているので、自分のイメージを崩したくない方は【挿絵表示】を誤って押さないようにご注意ください。



もくじ (押すと各ページにジャンプします)

主人公 (4期生)

：ニーナ・ナナウルム

1期生

：白月ノゾミ

2期生

3期生

：近野千香

：桃内百太

：立花十華

：一二三四

4期生

：リリイ（天使）

：レイ・ブレイブ（勇者）

「主人公」

ニーナ・ナナウルム（にーな・ななうるむ）

twitter @nina_nanaulm

ハッシュタグ 配信タグ：#魔王様の宴

イラストタグ：#絵ーナ

ファンの呼称等 ファンの呼称：臣下

公式紹介文

一見幼い容姿をしているが、千年を生きる異世界の魔王。

地球のYoutubeで流行っている『配信』をやってみたくて思
い、魔王城から魔法で地球のインターネットにつないでいる。魔法力
に秀でており、異世界から地球に一瞬でレポートすることもできる
とか。

プロフィール

年齢：1001歳

誕生日：12月20日

身長：145cm

体重：40.9kg

種族：魔王

チャームポイント：右目の泣きぼくろ

イラスト

備考

本作の主人公。

前世は異世界の魔王様で、勇者に敗れて死んだが地球に人間の赤ん坊として転生した。普通に人間としての生活を謳歌していたが、高校卒業後引きこもりニート生活を5年間していたら極度のコミュ障になっちゃった。

コミュ障を治すきっかけになればと、キラキライブのVtuberになる。なんの因果か前世と同じく『魔王』としてVtuberになった。

3

渾名(あだな)

- ・ AI2回行動音響兵器
- ・ プレデター(魔王)

「1期生」

白月ノゾミ(しらつきのぞみ)

プロフィール

年齢：19歳

誕生日：2月21日

身長：162cm

職業：大学生

ノゾミちゃんの良さはその清楚さにあるんじゃないかな。もちろん取ってつけたようなキャラクターじゃないぞ？ あれは根っからの清楚じゃ。その所作一つ一つに気品が溢れているわけじゃ。ザ・清楚。清楚という言葉はノゾミちゃんのためにあるような言葉じゃ。その清楚さと素晴らしいきハーモニーを奏でるあの溶けるような甘いヴォイス。たまらんのう…！ああ、もちろん、ノゾミちゃんの良さはそれだけではないぞ？ ときどき抜けているのも我的にポイント高いのう。時々ゲーム配信で発揮する所謂いわゆるポンコツがもうすっごいカワイイのじゃよな！ あれこそ萌えじゃな。普段がしっかりしているがゆえに生まれるそのギャップ！ギャップ萌えは良いとされているが、ほんとに良いものじゃな。この地球に生を受けて本気で良かったと思う瞬間の一つじゃ。

ノゾミちゃんの魂が良いのは言うまでもないのじゃが、所謂「ガワ」も素晴らしいな。ノゾミちゃんのパパはあの有名な『白い豆腐』先生じゃな。で、ノゾミちゃんのお母さん…ふへへっ。あのおっぱい良いもんじゃよな。デカすぎず小さすぎず。程よく大きい。素晴らしいおっぱいじゃ。マジでノゾミちゃんの子宮に宿ってノゾミちゃんの子になつて吸い付きたいのよな。あんな甘々ヴォイスですよすよすされた日にはふへっ、たまらんのお。そうじゃそうじゃ、よすよすといえれば、ノゾミちゃん時々ASMR配信とかしてくれらんじゃけど、あれええよな（恍惚）。

by魔王様

「3期生」

近野千香（ちかのちか）

プロフィール

年齢：16歳

性別：女

誕生日：10月1日
身長：159cm
職業：高校2年生

桃内百太（ももうちももた）

プロフィール

年齢：17歳
性別：男
誕生日：7月24日
身長：172cm
職業：高校3年生

渾名（あだな）

・百太郎（ももたろう）

立花十華（たちばなとうか）

プロフィール

年齢：15歳
性別：女
誕生日：6月10日
身長：156cm
職業：高校1年生

一二三四（にのまえふみよ）

プロフィール

年齢：16歳

性別：女

誕生日：5月6日

身長：150cm

職業：高校2年生

「4期生」

リリイ（りりい）

プロフィール

年齢：2525歳

誕生日：12月29日

身長：170cm

種族：天使

渾名（あだな）

- ・異常性癖ペドフィリア天使
- ・ロリコン天使
- ・性癖の禁書目録
- ・異常性癖のバーゲンセール
- ・どうしてこいつが天使なんだろう？

レイ・ブレイブ（れい・ぶれいぶ）

プロフィール

年齢：17歳

誕生日：1月1日

身長：176cm
職業：勇者

渾名（あだな）

- ・シンプルにサイコパスだと思う
- ・本当は魔王に入れるはずだった魂

第一章 コミュカ L.V. 1

1 配信目 じゃあまず年齢を教えてくださいかな？

「じゃあまず年齢を教えてくださいかな？」

少し広めの会議室でスーツを着た男性が静かに問いかける。

手を組み、肘を机につき、メガネを光らせ問いかけるその様は、さながら尋問。

最近急成長中のV t u b e r 企業『キラキラライブ』の第4期生の最終面接が今まさに行われていた。

問いかけるスーツの男性の他、左右に二人。

いずれもスーツに身を包み、自分の机の上に置かれた採用候補生の資料を眉間にシワを寄せてパラパラとめくり、撫でるように見る。

そんな『怖い』雰囲気醸し出す三人に相対するは一人の少女。

肩まで有る、まるで濡鳥ぬれがらすのように綺麗な黒髪に、どこまでも見据えていそうな真紅の瞳。身長は低く、胸も控えめだが、それはむしろ彼女にとっては長所でも有るだろう。

スーツの三人に臨むにはあまりにも幼く見えるその少女は、まるでどこ吹く風といった感じで三人を一瞥いちべつするだけ。

目を見て話せ、とは古くから言われる言説だ。

一見すれば失礼とも取れるこの行動は、しかし彼女のその豪胆さを表しているのかもしれない。

「に……」

少女の可愛く小さな唇が動き始める。

資料を読んで彼女の情報を知っている三人は、これから彼女の口が紡つむぎ出す言葉を聞き逃すまいと傾聴する。

「に→、22しやい…！ つ…！ え、と…あの… 22歳……で
す」

これまで応募してきた候補生の誰よりも上ずった声で、そして、盛大に囁んだ少女は、それはそれは赤くなり、頬に紅葉もみじを散らしまくっていた。

「に→、22しやい…！ つ…！ え、と…あの… 22歳……で
す」

ウオオおおおおおおい！

ああ、終わった。

私の完膚なきまでに完璧な社会性更生プログラムがあっけなく散った。

ふええええ…

やっぱり人間怖いよ。目を見て話すとか無理だよ… もうまじ無理。ケルベロスの三首撫なで回して落ち着きたいよおおお。この世界にはいないけど…

マジでまずいんじゃない？

案外行けるかなって思ってた我が馬鹿でした。どう考えても無謀でしたね、本当にありがとうございました。

引きこもりニート生活5年はここまで私の対人性能を破壊していたのか…

勇者打倒決起集会の演説とかもう二度とできない気がするわ… あんな大勢の前で演説とか気絶してしまうな。まあ今世でする必要まったくないわけじゃが。

「緊張するのも無理ないですが落ち着いてください。我々はあなたのありのままの姿を見たいのです。」

別に噛んでしまったことや声が上がったことなどでは採用の可否には全く影響しません。ゆっくりで大丈夫です。私の質問に焦らず答えてくださいね」

3人のスーツの真ん中の人が優しくしゃべる。

確かメガネを掛けた初老のナイスガイだったと思う。入室してほんの一瞬見ただけなのであまり確かではないが、メガネをしていたのは間違いない。

いやてか聖人かよ。優しいかよ。

小汚い手を使う教会の人間にその優しさ見せてやりたかったよ。

「は、はい……」

「で、えっと、年齢は22歳ですね。」

すみません、書類にはもちろん記載されているのですが、その……

随分とお若く見えたので一応確認のために」

「し、身長は、ちゅ、中学生くらいから伸びなくて、ずっと149センチで……む、おっぱいもあまりないですし……へへ……」

「なるほど」

なにか『へへ……』だよ、気色悪い！ 我、自分の事これほどまでに自己紹介できないのびっくりなんだけど！

我はきつと未成年が間違つて応募してきてないかって思われてるんじゃない。いやまあ、その感想は間違いではないと思うぞ。前世と違つて今世の我は完全にロリじゃからな。

中1のときにピチピチお肌を守ろうとして肌だけに不老魔法かけたつもりじゃったけど、もしかして我ミスってたか？ 魔法かけるときにクシャミしちゃったのがあかんかったかもしれない……うーむ、解呪しようにも今世の我ではまだできんからなあ……ああ、前世のナイスバディの我が恋しいのう……

「では続いて。高校を卒業されたあとは特に進学や就職はされていな

いようですが、その間は何を？」

「えっと、その、株とか、あとビットコインみたいな仮想通貨で投資を…… あ、あの！なので！結構お金、あります！ で、でしゆので！ お賃金は低くても問題ないです！ むしろなくても大丈夫です！」

「いえ、そういうわけには参りません。ライバーの皆さんにはしつかりと賃金をお支払いせねばなりません。仕事に対価を払うのは当たり前です。」

それにしても株や仮想通貨ですか。私はやったことがないのでいまいちどういったものか把握しておりませんが、かなり勉強をしないと難しいものだと聞いています。きつと勉強家なのですな」

「た、多少は勉強したけど、水晶でおおよその運命は見られるから……」

前世で勇者に敗れて気がついたらこの世界に転生していた我じやが、この世界の生活が楽しくて普通に人間の生を謳歌していた。サブカル文化最高じゃよね。

で、小学校中学校高校と普通に進学。

じやが、高校を卒業したあとは進学も就職もしなかった。というより必要なかった。

ラノベやアニメでよく舞台になる高校生活を体験するのは我的には必須だったが、別に大学には興味なかったし、お金もちよーつと運命を覗いて投資すれば面白いように金が手に入るんじゃないかな。

ポチッとボタン押して大金が入るとか我ってばまっこと天才！

まあ、そのお金で自堕落な生活して部屋の外に5年間出てない結果、今の我が出来上がったわけじゃがな……

「これは単純に疑問なのですが、十二分なお金が有るのに当社の採用に応募した理由は何でしょうか？」

「お、お金があるから、生活には、困らないけど、そのせいでほんとに外に出なくて、いわゆるひ、引きこもりで、ニートで、社会性皆無で、

会社員になれば多少は、強制的に良くなるかなって……

でも、普通の会社員でOLは、もう、無理ってやる前から分かるから、会社員と引きこもり、の間みたいなV t u b e rならいいかなって……」

「そうですか。ですが、ライバーになったあとはもちろんリスナーに向かって配信をしていただくことになりましたが、大丈夫でしょうか？」

「そ、それはダイジョブです！　じ、実際に声で話すのは無理だけど、リスナーは文字だから、そんなのレツサーゴ布林みたいなものですよ！」

あ、あとー！ちちゃんねるでレスバレスポンスバトルのこと。要するにチャットでやる口論。あまり強い言葉を使うと弱く見えるので程々にしようね！とかもしょっちゅうしてるので、アンチにも動じないですよ！」

我が今回の採用に応募した理由は単純だ。変わるため。

引きニートの我が社会性を取り戻すには会社員になるのが手だと思った。まあただ、普通の会社でOLやるのはハードルがエベレストなの自明の理。

うーんと悩みながら、お気に入りのV t u b e rである『白月ノゾミ』ちゃんの配信を見ていたらノゾミちゃんが4期生募集のことをちらっと言っていてコレだ！と思ったわけじゃ。

自堕落な引きニート生活に幕を引くにはコレしかない。

それに、我には結構V t u b e r適正があると思う。前世での力を使うこともできるし、人間にはなかなかできぬ芸当も何のそのじゃ。「オフコラボ等をやられるライバーの方もいますが、そのあたりはどうですか？」

「お、オフコラボはできれば、い1年後くらいで……」

うん、オフは無理じゃな！

「では通話をしながら一緒に企画をやるとか、そういったことは大丈夫

夫ですか？」

「いや、あの、その、コラボ的なのはもうちよつとなれてからで……」

オンラインでもコラボはハードル高いのじゃ……

チャットで仲良くなつてからならまあ、頑張れると思う。

なんてつたつて、今でこそコミュ障の我だが、前世では勇者率いる人間軍と立ち向かう魔王軍の最高司令官その人じゃったのだからな！ 感覚を取り戻せばコラボなぞ余裕ぞ！ 今は無理じゃけど、いづれな。いづれ。

「ライバーは見た目をいくらでも『創る』ことができます。だからこそ、創る事ができない『魂』が魅力的であることが必要です。リスナーは『心』を見ます。」

何かアピールしておきたいことなどはありますか？」

「あ、えと、我！ 水晶で運命見たり得意です！ ああと、ゲーム得意で、レーペックス一人称のシューティングゲーム。A p e x 楽しいよね。P S 4 でもできるぞ！ みんなもやろう！ 俺もやったんだからさ（同調圧力）のプレデターA p e x の一番上のランク帯こと。だいたい上位0.1%〜0.3%くらいの上手な人。このランクの人はたぶんみんな人間じゃない。です！」

「なるほどなるほど、F P S ゲームがお得意なんですね」

「他にも魔法、じゃなくて、マジックもできるし、魔獣、でもなくて動物と心通わせるのとか得意！ です！ 他にも気配消すのとか！ 握力500kgとか！ それとか、声真似とかアニメ声みたいなのとか出せるし、あ、そうなんですよアニメとか結構好きで、なのでサブカル系の話にもついていきますね！ 好きなジャンルとかはまあ王道を征く勧善懲悪もいいんですけど、悪役側、ヴィラン側を描いてくれるのが好きですね！ やっぱ正義の反対は悪じゃなくて正義みたいな？ 正直我魔王だから悪側の気持ちわかりまくりんぐなんですよね。一口に悪って言ってもその悪にも人間関係や他の人には打ち明けられないくらい過去があつたりするわけで、そのあたり、描写をう

まくやっている作品は名作の割合が高いですね打率8割はあります。
ああもちろん気に入った作品はBDを買うのはもちろん原作も買いますし何なら観賞用保存用布教用の3つは基本買いますね。まあ布教する相手があんまりいないのでSNSで主に布教でプレゼントしたり。ああSNSについていても主に使うのはトゥウウィッターですね。フェイスブックとかはちょっと。チケットとかもありえないですね。やっぱり民度というか、ああもちろんトゥウウィッターも低レベルなのはいくらでもありますけどなんていうかSNSもそれぞれ空気があってやっぱり我にはトゥウウィッターがあつてみたいな」
「なるほどなるほど。独特な世界観もありますね」

……
……
……

「終わったのじゃ…… 我はヒキニートから脱出なぞできぬのじゃ……
なぜ世界はこんな試練を我に与えるんじゃ……」

自分の家に帰ってきて我はすぐベッドにダイブした。

ああああああああああ恥ずかしい！ ヒートデーモン並に顔真っ赤になつてしまふわ！

上がってしまったて声は上ずるし、かみまくるし、終始気持ちの悪い笑みを浮かべてしまふし…… 拳句の果てには得意なこと聞かれて余計なことまでしゃべるし。もうあれはアピールとかじゃなかったしね…… 気持ち悪い自分語り。隙きを見せた面接官が悪いと責任転嫁してもこのもやもやした気持ちは決して晴れることはない。

ていうか今にして思えばダボダボなTシャツ着て面接受けたのは完全に失敗じゃなからうか？ お金はあるのだからスーツ買うべきだったような……

「まあ今日は我頑張ったほうじゃろう…… 久しぶりに昼間に外に出

たし、面接もブツセずに受けたし…… 及第点どころか100億点
くらいじゃ……

はあ…… ノゾミちゃんの配信見よ……」

そう言つて我は去年組んだ自作PCをいつもどおり起動する。

すると1件メールが届いていた。

どうせいつものクレジットカードの利用通知かソシヤゲのイベン
ト案内じやろうな。あー、もしかしたら同人ショップのクーポン券と
かかもしれん。久々になにか買おうかな。

優先 その他

▽今日

キラクライブ 16:09

キラクライブ第4期生最終面接結果のご案内

▽昨日

○?カード株式会社 21:31

速報版:カード利用のお知らせ(本人)

DLマイショッププレミアム 02:35

【DLマイショッププレミアム】回答で割引クーポンプレゼントのア
ンケート実施中!!

2 配信目 【初配信】我こそ、ニーナ・ナナウルムである！【キラキラライブ】

Now Loading...

：待機

：待機

：ヒヤッハー！新鮮な黒髪ロリだぜえ！

：角あるけど悪魔だったけ？

：待機

：→トウウィッターでは魔王って書いてあった

：？+(0°・▽・)+ wktk?

：異世界の魔王が戯れで配信やるみたいな漢字やったな

：→めちやくちや画数多そうな漢字やな

：待機のドヤ顔かわいい

：これはいいメスガキの予感。ワシにはわかる。

：待機

：メスガキソムリエかな？

：お巡りさんこいつです

「よし、いよいよ私の初舞台じゃ……！ ここから私の日本での伝説が始まるのじゃな……!!」

Youtubeにはすでに待機している人たちのコメントが流れている。私は大手Vtuber企業『キラキラライブ』の4期生なので配信を始める前から注目されているのじゃ。さすがはキラキラライブ。配信開始前に約3,000人も待機している。

んん

いやあ……緊張しておるな(笑)。

画面の向こう側に人がいるとはいえ、所詮は文字だ。5年の間にコ

ミユ障になってしまったが文字ならば問題ない。案ずることはないぞ、我。

普段どおり、5ちゃんねるで爆速レスバをするときにように、己に自信を持つのじゃ。

そう思うとキラクライブの面接もチャットでやりたかったのう……せめてリモートで面接してほしかった。いやリモートでも肉声で声かけられたら死か。肉声で会話とかむずすぎじゃろ。陽キャ共は何食ったらあんなコミュ力上がるんじゃ。

……つと。

いかにいかに。あまりにも待たせるのは悪いな。そろそろ始めようぞ！

：お、きたか？

：キタ——— (。△。) ——— !!

：きた

：きたね

：キタ——— (。△。) ——— !!

：キタ——— (∩。○=。(。△。) =○) ∩) ——— !!

：きた

：キタワア。*:.:.:. *:.:. (n☒△☒) η. *:.:. *☆

「よく集まったな皆の衆！

魔王の中の魔王！ ニーナ・ナナウルムである!!」

：うるせえ！ w

：うるせえ！ w

：初手鼓膜破壊はNG

：うるせえ！（腹パン）

：うるせえ！ w w

：うるせえ！

：みんな何言ってるんだまだ何も喋ってないぞ？

：→鼓膜破れたニキは今すぐ耳鼻科行って

：うるさw

「あれ？ すまん！音量調整が良くなかったようじゃな！ すぐに直す！」

：うるさいw w w w

：喋る前に直せ！w w w

：なあ、何も聞こえないよな？

：A I 2 回行動

：音響兵器魔王

：→鼓膜破裂ニキは強く生きて

「い、ごめんて……」

いかんいかん。音量調整がおかしかったようじゃ。

うーむ、配信なんぞ初めてじゃからな。まあしょうがないしようがない。むしろ音量調整くらいミスるぶんには何も問題ない。

えーつと、ここをこうして……

あれ、音量ミキサーってどこでやるんじやったかな。マイクとか普段弄らないからわからんじやないか。

ああ、これかな。これじゃな（確信）

「こんなもんでどうじゃ？ 良さそうかの？」

：いい感じ

：ほどよい

：ていうか声可愛いですね

：声かわいいな

：ロリコンの私から言うとまだまだただけど、まあ100点かな。

：満点じゃないですかやだー

：ちよつと舌つ足らずでカワイイ

：メスガキソムリエもいるしロリコンもたくさんいそうだな

：何も聞こえないと思つてたらミュートにしてたわwww

：声かわいい

：→鼓膜破壊ニキおちやめかよw

：ニキwww

「よしよし良さそうじゃな。それじゃえーつと、まずは自己紹介からじゃな。」

我の名はニーナ・ナナウルムじゃ！

えーつと、異世界の魔王で、地球のYouTubeで流行っている配信をやってみたいと思つて、異世界から魔法でインターネットにつないでいる。のじゃ！

：…え魔法で接続しているのか。そんな便利な魔法有るか？ まあそんな感じ…なのじゃ！」

：めつちや棒読み感w

：のじゃ！ですべてをごまかすな

：絶対メモ見ながら話してるw

：配信開始3分で自分の設定に疑問を呈す女

：なのじゃ！（天下無双）

「いやあ、あれ、もしかしたら魔法の接続状況が良くないのかもしれないなあ！ 我の感情のこもった自己紹介が棒読みなわけないからなあ！ あっはっはー！」

：急に都合良く魔法のせいにするなw

：草

：草www

：めつちや快活に笑うなw

：イメージする魔王様の笑いだわ

いかんいかん、自分のプロフィールとかさらつとしか読んどらんからな。ちよつと焦ったぞ。我の前世と似たような感じじゃったからまあ行けるじやろつて思つたらあかんかったやん。

まあでも正直魔法で接続している設定はどうかと思うぞ？

そんな便利な魔法あったら前世で我が使わないわけがないからな！
こっちの世界に転生してきて幾度となく思うたが、まっことインターネッツは最高じゃ！
日本のアニメ文化を堪能し放題じゃからのう！

「で、まあ自己紹介はそんな感じでいいとして、今日あとはタグ決めとマシユマロマシユマロ：匿名で質問できるメッセージサービス。ネガティブなメッセージがあまり届かないようにAIがある程度投稿されたメッセージを選別する。マシユマロではメッセージを送ることを『マシユマロを投げる』と表現するが、マシユマロなのでチクチク言葉が来ないあたつても痛くないよ！を読んで終わるぞ！

そうじゃなく、とりあえずリスナーの皆みなの呼称と、ファンアート用のタグを決めたいな」

：魔界の民とかどう

：どうせみんなオークみたいな顔だからオークでええやろ

：→事実陳列罪

：→全俺が泣いた。

：そのカワイイボイスでお兄ちゃんって呼ばれたいからお兄ちゃん

：お姉ちゃんを忘れるな（憤怒）

：オークなら豚だから豚どもとか罵ってほしい

「あれ、おかしいな。見た感じまともなのが全体の1割くらいなんじゃが？

ていうかお主ら、お兄ちゃんって甘えてほしいのか豚と罵られたいのかどっちなんじゃ」

：どっちも欲しいに決まってるだろ！

：欲張りで何が悪い！

：1回言ってみてくれない？罵るときはちよつと低めの声で

：とりあえず1回どんな感じかお兄ちゃん呼びと罵倒よろ

「え、我がそれいいのか？ 我一人っ子じゃし、別に悪いことしとらん

奴らに怒るほど心せまくなんじやが」

：まあまあ、騙されたと思つて

：一人っ子なのか

：お願い！先つちよだけでいいから！

「別にやるのは構わんが… まあよい。ただしやるなら全力じやからな！ ……んんツ」

『お兄ちゃんたち、今日も配信見てくれてありがとう！』

『お姉ちゃんもありがとう！ 後でギューつてしてあげるね！』

：ヌツ！

：あ……（尊死）

：ヌツ！

：何だこの甘々ロリボイスは…！（真理への到達）

：エツツツ！

：エツチコンロ、点火！ エチチチチチ

：ヌツ

「何を鼻の下を伸ばしておる！ 気色の悪い豚どもめ！ ……なんじやあ？ また顔をニヤつかせて… ははーん、さてはお主、罵られて快感を覚えておるなあ？」

どうしたんじや、ほれ。我みたいおなじな小さな女子おなじに罵られてなんにも言い返さんとは情けないのお。貴様はいわゆるザコなつじやな。ほれ、ザあコ♡ どうした？ 我に屈服するのか？」

：ヌツ！

：ヌツ！

：エツツツ！

：その、下品なんですが…フフツ

：ヌツ

：エツチコンロ、点火!!! エチチチチチチチチチチチチチ

「えつと、喜んでくれるのは良いのじやが、こういうのは今回で終わりにしよう。どつちも完全に我のキャラじやない。」

……じゃあ真面目に決めようぞ。何か案のあるものは書き込んでくれ」

：お兄ちゃん呼び助かるのに…

：異世界人

：もつと罵ってほしいのに…

：童貞とかどうでい？

：魔界人

：民民（たみたみ）

：魔王様親衛隊

：下僕

：家臣

「うーん、異世界人とか家臣とかが今の所ビビツと我のセンスにキテおるな。下僕はなんか言葉が下品でいやじゃのう」

：家臣ええやん

：家臣いいな。魔王様に使える者たちみたいで

：家臣いいなら臣下でもいいな

：意味的には家臣よりも臣下のほうがあつてそう

：臣下ええやん

「よしじゃあ臣下に決めてしまおうか。もしほかのライバーのとかぶつてたらまた考えようか」

：臣下いい

：たぶんまだ臣下呼びは誰も使ってないと思う

：もし変える際はぜひ豚どもをよろしくおねがいます！

：お姉ちゃん呼びも忘れるな！

：お兄ちゃんたち呼んで！

「阿呆^{あほう}め。そんな呼び方使えるわけなからうに……

で、次は…… イラスト用のタグかのう。ちなみに我の知っているVは○○アートとか漢字の『絵』を自分の名前に入れてもじつていたりするな」

：魔王のアトリ絵

：ニーナアート略してニート

：略すなwww

：#ニートとか知らん人からしたらマジ意味不だろw

：絵ーナ・ナナウルムとかどうよ

：ええやん

：じゃあニーナ・ナナ絵ルム

「ニート言ったやつは後で地下牢でお仕置きじやな。

魔王のアトリエも良いがちと直球すぎるのう。絵ーナとかナナ絵ルムが良い感じじやな」

：絵ーナって音の響きが『良いな』だから好き

：絵ーナ・ナナウルムいいかも

：絵ーナで良いけどその後にナナウルムなくて良くない？

：確かに絵ーナだけのほうが語感が『ええな』なんちって！w

：は？

：は？

：は？

：は？

：は？

：ごめんなさい

「これ、我の前で喧嘩するでない。しかしそうじやな。絵ーナ・ナナウルムだと長いから、ナナウルムは省いて『絵ーナ』だけのほうが『ええな』！」

：え？

：は？

：え？

：え？

：パードウン？

：鎮火しようとして新たに火を放つな

「ごめんで…… んんっ」 良し、ではタグは『絵ーナ』じゃ！ 良いな？」

：OK

：おk

：おk

：りよ！

「じゃああとはマシユマロに答えて今日は終わるぞ！」

3 配信目 【初配信】我こそ、ニーナ・ナナウルムである！【キラキラライブ】 2

「よし最初のマシユマロはコレじゃな。3つ一気に紹介するぞ」

魔王様はどんなシャンプーを使っていますか？

その黒髪とつても綺麗ですね！

匂い嗅いでもいいですか？ 良いですよね!!!

ああクンカクンカ！クンカクンカ！ スーハー！スーハー！スーハー！スーハー！

いい匂いだなあ…くんくん

魔王様が使ってるシャンプーやリンスはどんなものですか？

やっぱり異世界の技術が使われている

超すごいものなんですか？

魔王様のシャンプー教えて下さい!!!

一緒にシャンプー使って魔王様になりたい！

絶対いい匂いにするシャンプーとリンスー使ってると思ってる！

「これな、別に我が恣意的に選んだわけじゃなくて、トウウイッターで募集したときに最初に来た3通なんじゃよね……」

え、なに臣下の皆はそんなにも私のシャンプー気になるの?」

：まあ気になるか気にならないかでいうとめっちゃ気になる

：1通目の圧がすごい

：1通目ルイズコピーペペロの使い魔という作品のヒロイン、ルイズたんへの熱い愛を語った2ちゃんねるの有名なコピーペペネタ。知らない人はアニメを履修するのいいと思うよじゃね? w w

：絶対いい匂いしてると思う

：ほんとだ後半コピーペのやつじゃん w w w

：ああニーナ様の黒髪をクンカクンカしたいお!クンカクンカ!
あああ!

：高いシャンプー使ってるそう

「ん? ああ既視感有ると思っておったが、あの有名なコピーペか w
で、シャンプーじゃったか。まあ別に隠すことでもないし教えても良いのじゃが、商品名とか出してよいのかな……?」

分からぬからボカして言うが、ボタニカル系のやつじゃな。1本1万円くらいじゃったかのお。リンスもそれくらいじゃな」

：ふあっ?! 1万もすんの?!

：たっか w w w

：俺なんて6000円くらいのやつなだけど……

：さすが魔王様 w

：シャンプーとリンス2本合わせて2万円になりまっす!

：俺3000円……

：涙拭けよ つハンカチ

：そんな高級なシャンプーって存在するのかな……

：やっぱり高いとすごい効果あるのかな

：洗った瞬間光り輝きそう

「まあ言うて安いのとそんな変わらんぞ？ 我も使っていて違いがよくわからん。お金は有るからなんとなく使っているだけじゃ」

：金持ちだな

：俺にもそのくらい余裕がほしい。

：もしかしてとんでもないお嬢様なのか

：トップたるもの見栄を張ることも大事だから多少はね……？

：まあ言ったら王族だしな。俺ら凡人とは違うのだよワトソクン。

「よし、次にゆくぞ」

魔王様はゲームやりますか？ どんなジャンルをやるのでしょうか。

気になって夜も8時間ほどしか眠れません。

ホラーゲームの配信とかも魔王様が配信に慣れてきたら観たいです。

魔王様のかわいいドヤ顔が怖さのあまり歪むところがみたいです。御一考のほどよろしくおねがいたします。

「まあ色々突つ込むところは有るわけじゃが、お主、普通に寝れておるじゃないか。

それに丁寧な言葉遣いしておるので一見良さそうじゃが、サラツと怖いこと書くな。女の子の顔が歪むところがみたいとか笑顔で言うお主がホラーじゃよ」

：ヒエツ

：笑顔で丁寧に人殺してそう

：ヒエツ

：丁寧な文章からクソみたいな性癖。

：女の子の泣き顔はそそのるからね、しょうがないね。

「で、ゲームをするかどうかじゃが、我は普通にゲームやるぞ。それこそホラーゲームも別に嫌いではないな。まあ別にびつくりすることはあまりないがな。

あとはそうじゃな…… 最近だとレーペックスレジエンズっていうFPSゲームをよくやっておるな。一応今シーズンもプレデターじゃぞ?」

：レーペックス楽しいよね

：ファッ?! プレデターとかマ?!?!

：プレデターなのか

：プレデターとかFPSつよつよじゃん……

：魔王様だけあって戦闘スキルつよつよかよ……

：プレデターって何?

：そんなに強いのか?

「ああレーペックス知らん者らに教えるとな、プレデターっていうのは一番上のランク帯のことじゃ。我はPC版で遊んでおるんじやけど、機種別に全世界中、上位500人がプレデターに選ばれるのじゃ」

：ふあ?!?!

：ファ?!?!

：日本で上位500人じゃなくて全世界で上位500人?!

：せやで

：んなアホな……

：ほんとプレデター帯の人は人間じゃねえわ……

：→実際人間じゃねえな

：→（魔王様を見ながら）違えねえな……

「ま、そのうち臣下の皆に見せる機会もあるじやろうて。んじやどんどんいくぞ」

デビューおめでとうございます！

キラキラライブ4期生は魔王様、天使様、勇者様の3人がデビューだとキラキラライブ公式トウウィッターで見ました。

事前の打ち合わせ等で同期2人と会ったと思いますが、

天使様や勇者様の印象はどんな感じでしたか？

やっぱり勇者とは憎しみ合う関係なんでしょうか？

「あー、コレなんじゃがな… まあ、その…： 我、同期2人とまだ会ったこと1度もないんじゃよな。ついでにいうと通話したこともないんじゃよね」

：そうなんだ意外

：最初に軽い打ち合わせを同期とスタッフでするみたいな話聞いたけど

：やっぱり魔族と人間は相容れないんやなって

い
：まあ光属性の天使と勇者においてそれと会わないのはRP的に正しい

「まあチャットでは頑張って同期の2人とも話したし、スタッフさんともチャットで段取りは決めたな。」

まあただその、えっと、我な、その…： 割とコミュ障なところが少しあってな。文字のやり取りならある程度良いんじゃが、肉声ではな…： いや、ほんとに少しじゃぞ？ 100億分の1くらいじゃぞ？

その…：ちよつと引きこもりしてたら、すこーろーしコミュニケーション能力に欠如が見られてな。肉声でしゃべるとか会って話すとかマジ無理なのね。ほんとまじ出なわけじゃ。

まあ、一応『打ち合わせ来てね』ってスタッフさんに言われてたんじゃけど、怒涛の長文ごめんなさいメール送ってなんとか我は行かず

に済んだわけじゃな」

…ええ…

…ええ… (困惑)

…陰の者であつたか…

…やはり魔王様は闇属性

…コミュ障なのか意外

…なるべくして闇の王になつたわけか…

…元氣出せよ

…まあ連絡はしてるあたり真面目だと思う

「まあ、そのうち慣れたらコラボとかもしたいと思つておるし、いずれな。いずれ…

…つと、こんな暗い話をしていたんじゃいかんな!! 次のマシユマロ征くぞ!」

好きなVチューバーとかいらつしやいますか?

もしVチューバーのことあまり知らなかつたら、好きな食べ物とか教えて下さい。

「好きなVはもちろんキラキラライブ1期生にして我の先輩にもあたり、全人類の母たる存在、白月ノゾミちゃんじゃな!」

…ノゾミちゃんとはいい趣味していらつしやる

…ノゾミちゃんいいよな

…清楚粋で唯一本当に清楚であると噂のあのお方か

…マジ天使だよな

…声聞いと癒やされすぎて浄化されるんだよねw

：→もしかして：属性アンデッド

「そうなんじゃよね！ いやあ皆にもやはりノゾミちゃんの良さがわかるか！ コメント欄でも言っているものもおるが、ノゾミちゃんの良さはその清楚さにあるんじゃないかな。もちろん取ってつけたようなキャラクターじゃないぞ？ あれは根っからの清楚じゃ。その所作一つ一つに気品が溢れているわけじゃ。ザ・清楚。清楚という言葉はノゾミちゃんのためにあるような言葉じゃ。その清楚さと素晴らしいハーモニーを奏でるあの溶けるような甘いヴォイス。たまらんのう：！ああ、もちろん、ノゾミちゃんの良さはそれだけではないぞ？ とくどき抜けているのも我的にポイント高いのう。時々ゲーム配信で発揮する所謂ポ^{いわゆる}ンコツがもうすごいカワイイのじゃよな！ あれこそ萌えじゃな。普段がしつかりしているがゆえに生まれるそのギャップ！ギャップ萌えは良いとされているが、ほんとに良いものじゃな。この地球に生を受けて本気で良かったと思う瞬間の一つじゃ」

：すつげえ早口で言ってるwww

：お、おう：

：おちけつ

：好きなのは分かったwww

：すつげえ気持ち悪い喋り方なのに可愛い声だから許されるw

：急にスイツチ入ったw

「ノゾミちゃんの魂が良いのは言うまでもないのじゃが、所謂『ガワ』も素晴らしいな。ノゾミちゃんのママVtuberの要たる絵・デザインを描いた絵師のこと。お母さん。はあの有名な『白い豆腐』先生じゃな。で、ノゾミちゃんの……ふへっ。あのおっぱい良いもんじゃよね。デカすぎず小さすぎず。程よく大きい。素晴らしいおっぱいじゃ。マジでノゾミちゃんの子宮に宿ってノゾミちゃんの子になつて吸い付きたいのよな。あんな甘々ヴォイスでよすよすされた

日にはふへっ、たまらんのお。そうじやそうじや、よすよすといえは、ノゾミちゃん時々ASMR配信とかしてくれるんじやけど、あれええよな（恍惚）。就寝前に聞いて寝るとその日の疲れがふっとぶんじやよね。時々しかやってくれないから我はもっとやってほしくてな…… それで……」

：とまれ！w w w

：俺は止まらねえからよ……

：魔王特有の固有結界

：領域展開かな？

：すごい共感はできるんだけど、すっげえキモいな！

：ノゾミちゃんの配信あんまり見ないけど今度見ようかな

：ASMR配信はお世話になるから分かるんだけどさ…… ねえ？

：ほんと魔王様なにしてるんw w w

：魔王が光に堕ちておる……

：そんなに言うならチャンネル登録しようかな？w

：俺も今度してみるか？w

「なんじやチャンネル登録しておらぬのか?! そんなやつは我が魔王軍に居場所はないと思え?!」

「よし！ そうじゃ！ 今日の初めての配信はやることある程度やったから、残りの時間でノゾミちゃんのアーカイブ動画を皆で見るか！」

「ああ、もちろん私の画面には映さぬからな？ 皆で同じページをみて再生数に貢献しつつ、私のところで感想を共有しようぞ！」

：うそ……だろ？

：嘘だと言ってよバーニイ!!

：何だこの魔王さまw w w

：いや、え、ええ……（困惑）

：後世に語り継ぐべき名配信

・あとにも先にもこいつだけだろうなw
・自分の宣伝を捨てて先輩の宣伝をする後輩の鑑
・初めての配信で他チャンネルを宣伝する女
「今から私のトウウイッターにノゾミちゃんのアSMRのURL貼るから、それをアドレスバーに貼り付けて入るのじゃ？ 良いな？」
……よし、ほれ貼ったぞ？ この配信の概要欄に私のトウウイッターがあるからそこからジャンプするのじゃ」

・はい！魔王様！

・マジでやるのか……

・ほんとにやるんだ……

・いや、良いんだけどさ…… 良いんだけどさ……

「よしいいか？ 3・2・1で我と一緒に再生ボタンおすのじゃぞ？」

ゆくぞ？ 3・2・1——」

「やってしまった…… やってしまったのじゃ……
あかん。あれはあかん。我キモすぎじゃな？ いやていうかあれノゾミちゃんにも迷惑かかるかもしれないし、最悪じゃ…… 嫌われたら本気でどうしよう…… キラキラライブのスタッフさんにも後日めっちゃ怒られる気がする……
はあ……ノゾミちゃんのお気にボイスリピートして寝よ……」

白月ノゾミ

@Shiratsuki | Nozomi

今日デビューの魔王さまのニーナちゃんが私の動画紹介してくだ

さったみたい！

ありがとニーナちゃん♡♡♡

ニーナ・ナナウルム／@nina_nanaulm

返信先：@Shiratsuki|Nozomiさん

勝手なこととして本当にすみませんでした。そのうち焼き土下座します。なので嫌いにならないでください。ノゾミちゃんに嫌われたら生きていけません。

白月ノゾミ／@Shiratsuki|Nozomi

返信先：@nina_nanaulmさん

わわっ どうして謝るの？ ;(。ω。、)：

私の動画すっごい褒めてたってリスナーさんから聞いてとっても嬉しかったよ！

今日はどうしても用事があってニーナちゃんの配信みれなかったけど、次は絶対見に行くね！

ニーナ・ナナウルム／@nina_nanaulm

返信先：@Shiratsuki|Nozomiさん

見に来る際はぜひつっつたいに事前にお教えください。

P T A 提出用 P T A 提出用とは、アウトをセーフに見せかける偽装工作である。——ニコニコ大百科よりのニーナ・ナナウルムで配信します。

白月ノゾミ／@Shiratsuki|Nozomi

返信先：@nina_nanaulmさん

(☒?☒) ?

4 配信目 【V t u b e r】キラキラライブを語るスレ P a r t . ???

【V t u b e r】キラキラライブを語るスレ P a r t .
???

2 3 5 : 名無しの視聴者 I D : x 1 4 E 8 R 9 m a
もうすぐ4期生の配信はじまるな

2 4 4 : 名無しの視聴者 I D : / X g o B 1 4 j 9
4期生つて3人がデビューだっけ?

2 4 6 : 名無しの視聴者 I D : Z J v p X 3 4 0 7

>>>244

そそ、確か魔王と天使と勇者。
配信もこの順番で魔王20時、天使21時、勇者22時からスター
トだよ

2 5 0 : 名無しの視聴者 I D : 2 C Z E J y c 2 7

今回はファンタジー路線なのか

2 5 6 : 名無しの視聴者 I D : K 8 n F T Q u s j

前回の3期生はたしかバリバリの女子高生・男子高校生キャラだつ
たからちよつと毛色が違うね

2 5 9 : 名無しの視聴者 I D : + + w w v D I p p

誰かデビューする3人の名前教えてくれ

2 6 5 : 名無しの視聴者 I D : w I Z X G u m c F

>>>259

魔王：ニーナ・ナナウルム

天使：リリイ

勇者：レイ・ブレイブ
ほらよ

269：名無しの視聴者 ID：To+／t932K
>>265
ありがとナス！

273：名無しの視聴者 ID：NmEMCuCak
人に頼るのもいいが、普通に自分で確認しろや
これだから最近の若いもんは：

魔王：ニーナ・ナナウルム
https：／twuwitter.com／nina|nanaulm
天使：リリイ
https：／twuwitter.com／Angel|Lily

勇者：レイ・ブレイブ
https：／twuwitter.com／rei|brave

ほらよリンク貼ったから見ろ
3人ともかわいい女の子やで。ちなワイはリリイちゃんの清楚な
見た目が好き。肩甲骨あたりから羽根が生えてるんじゃないから腰か
ら羽根が生えてるのちよつとエッチでいいと思う

274：名無しの視聴者 ID：kb0agNkZp
>>273
ツンデレじゃないですかやだー
腰から羽根えっちなだよね

276：名無しの視聴者 ID：wuAurfXnY
男のツンデレほど微妙なものはないと思うの

277：名無しの視聴者 ID：XjfvmtVHR
誰が男だと言った？

282：名無しの視聴者 ID：xmCZYGmVB
美少女の可能性が微レ存……？

283：名無しの視聴者 ID：wutZD/458
>>282

(そんな可能性微塵も) ないです。

285：名無しの視聴者 ID：Ac r F 7 t l a J
悲しいなあ

287：名無しの視聴者 ID：7zcrSZqDB
もうあと5分くらいで魔王ニーナ・ナナウルの配信開始か

290：名無しの視聴者 ID：ZRf/x4Ded
魔王様のプロフィール画像のドヤ顔めっちゃかわいいよね

291：名無しの視聴者 ID：xYTrsr3lM
魔王のママって誰だっけ？

297：名無しの視聴者 ID：cJcK976Kx
>>>291

淡い色彩と美麗な線で有名な『不死鳥パパ』先生やぞ

298：名無しの視聴者 ID：qpVN+mPft
ママかパパかコレもうどっちか分かんねえな。

299：名無しの視聴者 ID：mzNeFqqPZ

>>291

>>297

魔王のママは不死鳥。パパ先生やが、なんなら魔王・天使・勇者は3人とも不死鳥。パパがママやぞ

……書いていてなんだが、ママとパパがゲシユタルト崩壊しそう

303：名無しの視聴者 ID：sHbGL3On6

>>299

あの不死鳥3人もキャラデザしてるんか： すぎえな

304：名無しの視聴者 ID：un6glgVko

>>299

つまり魔王、天使、勇者は3人姉妹なのか

308：名無しの視聴者 ID：06vRZ+xNg

同じ血を分けた3人がそれぞれ別の道を歩んで光と闇の両極にいるわけか

309：名無しの視聴者 ID：eATFebM1

昔は仲睦まじかった姉妹が大人になってから敵として出逢う——
とつてもエモいと思うの

314：名無しの視聴者 ID：3V/ZisLFy

>>309

想いを馳せるとエモいな

そのうちファンアートで描かれそう

318：名無しの視聴者 ID：/y8TXIhb/

+ +

^ | ^ +

(0.▽.▽.)

(0。U U +
と)) +

魔王様配信まであと30秒!

322 : 名無しの視聴者 ID : w n E H u H B k a
ワクワクテカテカ

328 : 名無しの視聴者 ID : + t 9 0 5 b 5 H 8
お、はじめた

331 : 名無しの視聴者 ID : R C v P z V P V G
きちやー

\\
\\
\\

366 : 名無しの視聴者 ID : c x 4 a C Y P W B
初手鼓膜破壊してきたなwww

367 : 名無しの視聴者 ID : T u 8 P p 0 H o z
マジでくっそうるさかったw
スマホでイヤホンせずに聞いてたらかーちゃんに怒られました
でも魔王様の声がかわいいのでOKです…!

371 : 名無しの視聴者 ID : Z F u J s U b n h
A I 2 回行動の音響兵器魔王ってコメントすこ

376 : 名無しの視聴者 ID : X m F n H z t o 5
ていうかマジで声かわいいな
俺の性癖にド直球なんだが。 過去1で好きな声かもしれん

381：名無しの視聴者 ID：Ms5u/wvh d
>>376

声かわいいし、お兄ちゃん呼びとか豚野郎呼びのときの声の変わり方すごかった

声の幅広そうだよな

382：名無しの視聴者 ID：CLnl tNdWu

豚どものときの「ざあこ♡」がめちやすこなんだけど？
すこすこすこ侍なんだけど？

え、好き。

自分、ガチ恋いつすか？

384：名無しの視聴者 ID：JYZ t i w t w v

>>382

あのザコ♡で今日のおかずはメスガキ系のにしようと思いました

385：名無しの視聴者 ID：g99DZH i L s

>>384

鶴の一声ならぬ、ロリの一声やな

388：名無しの視聴者 ID：x2NSuYHc3

まじでかわいい

普通の喋り方もロリっぽくてすこなんだけど、お兄ちゃん呼びのときのロリ声やばい

ボイス発売したら全買いするまであるんだが

389：名無しの視聴者 ID：MoxniONmf

みんな散々言ってるけどマジで声かわいい

口調もロリババア好きにはたまらん

くくく

〜

512 : 名無しの視聴者 ID : Q1jDyw h K

【悲報】魔王様、陰の者であった【朗報?】

513 : 名無しの視聴者 ID : q+MzSMj1c

魔王様配信ではこんだけしゃべるのにコミュ障なのか

519 : 名無しの視聴者 ID : 8OPHPnNs

同期とスタッフとの初配信の打ち合わせ断るのは相当だと思うわ

事前にちゃんと断りの連絡入れてるのは根が真面目なんやろうな

:

525 : 名無しの視聴者 ID : ZGMq0prXR

なんで陰キャに育っちゃまったんだろうな

527 : 名無しの視聴者 ID : xFcxDMOV0

>>525

引きこもりしてたって、さっきちらつと言ったから、もともとそうでもなかったけど引きこもりのせいでコミュ障だった可能性はあるな

529 : 名無しの視聴者 ID : herd11ODD

打ち合わせ断るって相当だよな

まあ共感できてしまうが

532 : 名無しの視聴者 ID : I9glKcbz

お金はあるって言ってたし何不自由ないニート暮らししてそう

親が金持ちなんか

551 : 名無しの視聴者 ID : AjSMOP5VM

うわあ！急に早口になるな！

554 : 名無しの視聴者 ID : Z J f F D e 8 o Y

コレはコミュ障だわ：

自分の好きなことには早口になって饒舌になる。コミュ障で間違いない。ソースは俺。

557 : 名無しの視聴者 ID : t / d K g w q z c

可愛い声で言っているから許されているが、喋り方がガチのオタクや：

ガツツリ5分くらいノンストップでノゾミちゃんの良さを語られる臣下の皆に、敬礼ッ！

563 : 名無しの視聴者 ID : B O 4 k B v G 8 a

声はかわいい。声かわいいんだけど……

ノゾミちゃんの話してるときくっそキモいなwww まあ共感できるけどw

569 : 名無しの視聴者 ID : S w 3 j l o 4 d t

>>>563

でも、あれ含めて魔王様かわいいと思うの

小さなロリっ子が自分の好きなものを頑張って説明してるの、かわいい… かわいくない？

575 : 名無しの視聴者 ID : 7 t u P S D 7 d s

>>>569

かわいい(かわいい)

580 : 名無しの視聴者 ID : f b 4 T Q l B v l

まあ、急に早口になるオタクくんムーブは置いておいて、総評として魔王様くっそかわいい。

声だけじゃなくてなんかもう行動全てが愛らしい

585 : 名無しの視聴者 ID : FYOV2QE2a
トップに立つ威厳がありつつも、かわいい姪っ子みもある

588 : 名無しの視聴者 ID : WnWST5h2f
舐めてると何度も味が変わるアメリミたいに味わい深い

591 : 名無しの視聴者 ID : TRPS7Dht

【速報】魔王様の初配信がノゾミちゃんのアークイブをみんなで見る
配信に早変わり

592 : 名無しの視聴者 ID : XH1IPJ3ZL

ほんとにノゾミちゃんのこと好きなんやな…

596 : 名無しの視聴者 ID : +NTyy+x7

いや、うん。良いんだよ…

602 : 名無しの視聴者 ID : nE7Q5jxB0

いや俺もノゾミちゃんのASMR好きだから気持ちはずごー
く分かるんだけど、自分の初配信なんだから… ねえ？

605 : 名無しの視聴者 ID : jkRIHD9B7

そのうちノゾミちゃん本人とコラボしてほしい

610 : 名無しの視聴者 ID : o/4OPaE1W

>>605

オフコラボしてノゾミちゃんに膝枕してもらおう魔王様見たいわ

613 : 名無しの視聴者 ID : pC3flmqNO

>>610

魔王様のコミュ障っぷりを見るにオフコラボは何年後になるのか
な… (遠い目)

618 : 名無しの視聴者 ID : N j L V 6 Q J D F

キラキラライブのライバー皆優しいし温かいから、魔王様のコミュニケーション改善につながってほしい。

願わくば、キラキラライブでの時間が魔王様にとって至福の時間に魔王様マジでかわいいな。ああすこすこ。すこすこすこ侍。めちやすこ。ロリボイス可愛すぎて俺魔王様のお兄ちゃんになっちゃうんだけど?はあく、かわいい(クソデカため息)

621 : 名無しの視聴者 ID : n s o e n o T V L

>>618

途中から心の声漏れてますよ

626 : 名無しの視聴者 ID : t L v X 8 b 8 f X

慣れたらノゾミちゃんに限らず色んな人とコラボしてほしい。

627 : 名無しの視聴者 ID : J / z 8 O 9 p 3 e

魔王様と一緒にノゾミちゃんの動画見るの意外と面白いなw
テレビの副音声聞きながら観るみたいがいい感じw

628 : 名無しの視聴者 ID : A g S y 4 C 2 u /

ノゾミちゃんのチャンネル登録者数がものの5分で600人以上増えてて草

631 : 名無しの視聴者 ID : 1 6 C n 3 W O F 3

ノゾミちゃん今日用事があつて1日配信おやすみDayだけど、
帰ってきてチャンネル見たら首かしげそうw

637 : 名無しの視聴者 ID : B p M I w d j i d

トウウィッターのトレンド入りも果たしましたね

640 : 名無しの視聴者 ID : GI05TkpuF

そりや世間がこんな面白口り魔王をほつとくわけないからな

642 : 名無しの視聴者 ID : z+GQ/W85T

ほんと草だわ

5 配信目 「レーペックス」 雑談しながら銃を撃つの
じや【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】

「昨日はすみませんでした……!! のじや…」

・初手謝罪は草

・のじや（鳴き声）

・ええんやで

・昨日結局ノゾミちゃんの登録者1300人くらい一気に増えたな

w

・気にせんでええぞ。俺らも楽しかったゾ

・配信二日目で謝罪したV t u b e r

・トウウイッターでノゾミちゃんにも許してもらえたから大丈夫や

で

・なお、ノゾミちゃんは魔王様の発言を知らないものとする。

・ノゾミちゃんに対して敬語でトウウイトしてるの草草の草だっ

た

・トウウイッターではのじやロリが迷子だったなw

「いや、マジでな。マジですまんかったと思っておる。

配信終わって少し冷静に考えてみたら、我、もしかしたら、
ちよーっと、ほんのすこーりーーーし気持ち悪い言動をしてい
たかもしれんと思ってな？ 臣下の皆にも悪いことをしたなーって

・ トップたるもの簡単に謝罪するべきではないが、コレばかりは…
すまん、なのじや……」

・少し…？

・大丈夫だよ普通に気持ち悪かったから

・少し（当社比）

・ちよつと（極大メテオ）

・少しとは一体…ウゴゴゴ！

・キモくてかわいい魔王様好きだから大丈夫だぜ

・懲りずにノゾミちゃんアーカイブ副音声配信は定期的にしてほしい

：ごめん俺『少し』の意味勘違いしてたから広辞苑で調べてくる

「……ん？　というかちよつと待て。」

そういえば、よくよく考えてみたら昨日ノゾミちゃんとトウウイツターで『会話』したんじゃないかね… あのノゾミちゃんと…？　画面の向こう側のノゾミちゃんと…　ふへっ、ノゾミちゃんと…！！　ノゾ民として恐悦至極じゃないか…！　ああ…雀すずめのようにピヨンピヨンと跳ねて走り回りたい気分じゃのう…　お祝いに世界征服しようかのお？

そうじゃ！　そうじゃ！　臣下の皆もトウウイツター見たのじゃよな?!　ノゾミちゃんの使う顔文字かわいいよな？　ああいやもちろん顔文字そのものよりノゾミちゃんの方がかわいいのは自明の理というか火を見るよりも明らかじゃが、それは一旦置いておいて顔文字のセレクトがやはりノゾミちゃんの心を映しているというかな、言葉遣いも可愛らしくてまさに女神が現世に顕現している説が間違いないのはQ・E・D　証明完了なのじゃが——」

：魔王様漏れてます漏れてます

：反省してないw

：タピオカ飲む感覚で世界を掌握しないでくれ

：魔王様の暗黒面が溢れ出ておりますぞ

：ああ、おいたわしや…

：助走なしに高速で喋りだすのやめーやw

：→カタパルト航空母艦などから航空機を射出するやつ。速度0からものの数秒で200〜300km/時まで加速するらしい。現代技術やばい。かな？

：息継ぎせずにしゃべるの怖えーよ…

：あー…始まったよ…

：魔王様急に発作始まるから…

：ヨダレ垂れてますよ

「おつといかんいかん。この話はまた別枠でやろうかの。」

さて——んんッ 今日には配信のタイトルどおり、我が最近良く遊んでおるFPSゲーム『レーペックスレジェンズ』をやっけていくぞ。

この前の配信で我がプレデターだと言ったことに対して疑問を持っておる者がおるようじゃからな。論より証拠とはよく言ったものじゃ。魔王軍最高司令官ニーナ・ナナウルムの実力、とくと見るがよいぞ」

：別枠で話の続きするのか……

：まあ正直本当にプレデターなのか半分信じれてない自分がいる

：ぶっちゃけ嘘やと思ってる

：プレデターって全世界で上位500位までなんやろ？

：自分の王の実力が信じられない者がいるのか?!

：王の実力を疑うとは何たる不届き者！

「アカウントは我がキラクライブへ所属する前から使っているものじゃから、スキンやらチャームやら色々揃っておるが気にしないでくれ。40万円くらいは課金したかのう？」

それじゃあランクマツチやっていこうかの」

：うわほんとにプレデターじゃん……

：私の目がおかしくないなら、ホーム画面に44位って書いてあるんですけど……

：44位？（；つД（）ゴシゴシ（。Д（）え？

：プレデターなだけでもビツクリなのに44位とかマ？

：44/500とかマ？

：魔王様ガチで魔王様じゃん……

：コレは魔界トップ

「レーペックスのことあまり知らぬ臣下もおるから軽く説明するが、レーペックスは基本的に3人1チームで戦うゲームじゃ。他のバトルロイヤルFPSみたいにソロでやるわけじゃないぞ。」

……まあ、我は一緒にやる友達おらぬし、ボイスチャットが苦手じゃから野良フレンドとチームを組むのではなく、知らない人と組んでやること。でしかやったことないが、友達おるなら友達とやったほうが連携取れるし、……たぶんもつと楽しいはずじゃぞ」

：あつ…

：あつ……

：悲しいかな…

：ていうか野良でプレデター44位ってヤバない？

：※プレデターの人は基本フレンドとボイチャで連携とつてます。

：野良で44位はやばい

「しかし！ 案ずることはないぞ!!」

このレーペックスはボイチャが出来ぬ者のために、『○○の武器を見つけたぞ』とか『あつちに敵がいる』とかをボタン操作で指示・連携が取れるのじゃ！」

：そうなんだよね

：ボツチにも優しい仕様

：コレ他のゲームでも取り入れてほしい

：操作してるキャラが代わりに喋ってくれるんだよな

：へーいいじゃん

「レーペックスではキャラクター一人ひとりに特殊能力みたいなのが有るのじゃが、我が使っておるレエスというキャラクターは時空の裂け目を作り出して素早く移動したりできる、んーまあ、簡単に言うると忍者みたいなキャラじゃ。」

ああ、あと。我のマウス設定は基本感度最大じゃから画面移動が激しいと思う。酔いやすい者は自分のマウスカーソルを画面の真ん中に持つてくると良いぞ」

：レエス使うのか

：ガタツ 魔王様が感度ビンビンで激しいって?!?!?

：→座れ

：魔王様に邪な感情を向けるな痴れ者め

：アイエエエ!? ニンジャ!? ニンジャナンデ!?

：部下の画面酔いを気遣う上司の鑑

「じゃあ仲間と一緒にの地点に降下して武器を漁るわけじゃが……

お、我が愛用しておる武器がいきなり落ちておるな。よいぞよいぞ。

我が愛用しておるのがこの2丁じゃな。ヘッドショットのダメージが大きいスナイパーライフルと、連射性能の高いこのサブマシンガンじゃ。

——つと味方が襲われておるな。助けに征くぞ」

道具漁りを早々に引き上げて味方のいる場所へ向かう。

我は他の仲間2人と少し離れた場所にいたから気がつくのが少し遅れてしまった。敵は3人。仲間の2人はすでにダメージを受けていてほとんど瀕死。

「我が仲間を随分とかわいがってくれたようじゃのう? 小童ども——」

少し離れた位置からスコープのついていないスナイパーライフルで敵の一人の脳天をぶち抜く。

仲間たちが敵を削ってしてくれたおかげでヘッドショット1発で敵はダウン。

すぐさまもう一人の敵にスナイパーライフルでヘッドショットをお見舞い。だが、ボディアーマーも紫色の良いのを着ているらしく、頭に当たったものの、ダウンまではしなかった。

もう一発、と行きたいところだったが、流石に2発も当てたので残りの敵2人は脱兎のごとくすぐに建物内に隠れた。

「面倒臭いし、一気に詰めてしまおうか」

せっかく与えたダメージが回復されるのももつたないので、ここは一気に敵へ詰め寄る。

武器もスナイパーライフルからサブマシンガンに切り替え。

先程スナイパーライフルで削った敵にサブマシンガンでとどめを

刺す。

——ッ。左後方か。

残った一人の微かな足音が聞こえた。

すぐに視線を移動し、照準の真ん中に敵の頭を定め、撃つ。

もちろん敵もただのカカシではない。

撃ち返してくるので、なるべくその弾に当たらないように『かがむ』

や『ジャンプ』を駆使し避ける。

「ぬう—— 削りきれんな」

2人目を倒し、すぐさま3人目との戦闘に移行したのでリロードを弾の再装填挟んでいない。

加えてサブマシンガンの装填数を拡張するマガジンも拾っていない。そんな状態ではリロードを挟まず2人を倒すことは難しい。

もちろんこのままリロードしてもいいが、その間も敵はこちらを攻撃してくる。

ならばスナイパーライフルへ持ち替える。

リロードよりも持ち替えるほうが幾分か早いのだ。

「終しまいじゃ」

スナイパーライフルを腰撃ちで構え、脳天に鉛玉をプレゼント。

敵は無残な棺桶に早変わり。

「ふいーっ いっちょあがりじゃなー」

……やば

・エイム狙いをつける。照準を合わせること。やばない？

・ほぼほぼすべてヘッドショットだったんですが……（啞然）

・しかも魔王様の体力あんまり減ってないし……

・エイムもやばいけどキャラコンキャラクターコントロール。操作

キャラを自在にコントロールする技術のこと。もやばい

・やばい（語彙力）

・はえー、このゲーム勝手に敵の頭に照準がいくゲームだったんす

ねく

…鳥肌たった……

…コレがプレデターちゃんの実力ですか（畏怖）

「ふっふーん！ どうじゃ！ これで臣下の皆も我の実力が分かった
じやろう♪」

さて、実力も見せたことじゃし、あとは適当にレーペックスやりながら雑談でもしようかの。コメント見ながらやっておるから、どしどしコメントしてよいぞ」

…このランク帯でそんな余裕あるんですか…

…これは魔族の王だわ…

…コメント見ながらランク戦を……？

…魔王様もしかして目玉10個くらいある？

…戦いが終わったあとちゃんと味方蘇生して回復アイテムも配ってるの優しくてすこ

6 配信目 「レーペックス」 雑談しながら銃を撃つの じや【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】2

「お、よしよし。スナイパーライフル用のスコープが手に入ったな。

さすがの我でもスコープ無しのアイアンサイトでの遠距離射撃は
3割くらいしか当たらんからのお」

…3割は当たるんだ……

…スコープなしの敵は画面上では数ドットだと思うんですけど……

…4倍と8倍に倍率変更できるスコープじゃん。ワイもよくそのス
コープ使う

…スナイパーとか全然当てられんから尊敬する。

「お、遠くに敵がおるな。1人しかわからんが、せっかくじゃから撃つ
ておくか。あ、あかん。1発外したの。次こそ……

……お、ダウンしたの。まあここから距離有るし、詰めるのは別に
せんでええか」

…もしかして前世デューク西郷とかだったりする？

…ヒエツ……

…たまたま魔王様に見つかったがために……

…スコープ覗いてから撃つまでが早すぎる……

…マジで覗いてから撃つまで1秒もないんだけど

…魔王様って昨日の同期の配信ってみた？

…もうこいつ一人で良いんじゃないかな……

「昨日の勇者と天使の配信か？ 一応我也見たぞ。見たんじゃけど

……… なんとというか、その……… ふたりとも、随分と我が想像してい
たのとは違ったな」

…それはたしかにそうw

…まあ、俺も見る前はノゾミちゃんに次ぐ清楚系かなって思ってた
時期があった。

：どういうこと？

：勇者の方しか見てないけど、天使もそうだったのか……

：見てないから全然わからん

「んとな、まあ、これは私の主観がかなり入っておることを前提に聞いてほしいのじゃが……」

我な、勇者と天使にはまだ会ったことも喋ったこともなくて、チャットで少し話した程度なのじゃ。だから臣下の皆と同じく、彼奴らのプロフィール画像とか、設定とか、そのくらいしか知らなかったんじゃないよ。

で、勇者のイラストの印象は、前に我を倒しに来た勇者みたいな感じじゃなっていう感じじゃ。優しいけど実は人情に熱い系の人かなーって。

天使の方は清楚系の雰囲気醸し出してるから清楚な感じの人かなって」

：私にもそう思っていた時期がありました。

：まあ言うて中の人はイラスト通りとも限らんしな

：中の人とかいうな

：ふむふむそれでそれで？

：俺もそう思ってた。……そう思ってたんだ。

「まずは勇者なのじゃが、まずあやつ、声は綺麗で、なんていうか透き通るような声をしておってな。我も『お、これは私の見立て通りじゃな。さすが我』って思っておったのよ。声の通り優しい系の人じゃなーって。

そしたらさ、あやつ『画面いっぱい見てたら目が疲れてきちゃったー、目玉取り替えてくるからちよつと待っててね』って言うたんじゃないよね。

分かるか？

透き通る声で落ち着いた配信してたらいきなりそう言い出すから、我びつくりして画面二度見したし、ヘッドホン壊れてるかと思ってB

l u e t o o t h の接続し直したからな」

：草 w

：草

：きれいな声やなーって思ってた矢先にな w

：草 w w w

：勇者さっそく人間やめてて草

：魔王に対抗するには、人間をやめるような、大変な修行をだね…
ねえ？

「その後も『人間は大変だよなー』発言とか、好きなものは？って聞かれて即答で『悲鳴』とか答えたからな？ めっちゃ純粋な声でそう答えたからな？

我はこう思ったね、『ぶつちぎりでイカれたやつ』じゃって。

あと、勇者は基本的に笑顔なんじゃが、『ガワ』のイラストの設定がおかしかったのか知らんが、ときどき目をかっぴらくから心臓止まるかと思っただぞ」

：糸目キャラが目を開くときみたいな感覚をワイは覚えた

：正直魔王様より魔王様してた

：人間って怖いなー、とつまりすところ

：ニンゲンコワイ

：スタッフが勇者と魔王の中身入れ間違えた説

：あの眼光には石化効果ありそうだよな

「でな？ 勇者も大概じゃが、天使も相当じゃったぞ？

自己紹介の最初の10分は良かったのじゃが、そのあと急に『だるまになってる女の子いいよね』って言い出したぞ？ 両手両足を切断した女の子がいいんじゃないよ。天使怖くね？

『自分はロリコンというよりペドフィリアよりなんだよね』とか『オルファクトフィリアでもあるよ』とかもうアウトじゃろ……

我、同期が本気でやばいなって思った。まともなのがいないんじゃないよね… もう完全に重大なインシデントが起きているエビデンスが

フィックスしているんじゃない？」

：屍姦も言ってたなwwwwwwww

：マジでびっくりしたわw

：初配信で異常性癖暴露したロリコン天使がいるってマ？

：完全に墮天した天使だったね：

：【悲報】魔王様の同期、まともなのがいない

：早口ろりオタクの魔王様が相対的に一番まともという：

：キラキラライブの中でもぶつちぎりでイカれた2人だった

「そのあともずっと異常な性癖のことってたぞ……」

おっと、また敵部隊と遭遇じゃな。

というか、いつの間にか残りの部隊この1部隊だけじゃな。チャンピオン目指して気合をいれるぞ！

仲間が手榴弾で牽制している隙に場所を移動して、1人スナイパーで抜いて……んー、ダウンまでは流石に無理じゃの……ポータルで退路を確保しつつ……お、仲間1キルナイスじゃ！：サブマシンガンで倒して、投擲武器で削って……近距離サブマシンガンで……

よし、チャンピオンじゃな！」

：酒の着感覚で殺される敵さん：

：コメント返ししながらチャンピオンとか……

：ほんとうまいなプロ級だろ

：お仲間も素晴らしい動きだ

：マジで動きに無駄がない

：チャンピオンすげー！

：仲間もいい動きしてた

：投擲の精度エグくね？

：ていうかさ、あんまりこういう事言いたくないけど、チート使ってるんじゃない？

「よしよしggggood gameの略。楽しかったよとか、いい試

合だったっていう意味。じゃ、仲間よ！

ん？ ……何？ 貴様—— 我がチートを使っておるじゃって？」

：急に声低くなるの怖い

：ゾクってした：

：魔王モードの声こわ。

：そりゃチート使ってるとか言われたら怒るわ

：怖：

：まあでも確かに上手すぎる気はする

：あからさまなチートとまでは行かないまでも、リコイル制御するソフトとかコンバーターとか挟んでそう

「そうか——。実力かどうかも分からぬ戯たわけ者がおるか。 ……良いじゃろう。ちょうど試合が終わったところじゃ。ちよつとまっておれ」

そう言つてゲーミングチェアから立ち上がる。

たしかに、あまりにも我が上手すぎるからチートを疑いたくなるのは仕方ないことかもしれない。じゃが、我はあくまでも実力で勝負する。純粋な力と力のぶつけ合いこそ意味がある。そこに変な小細工をつかおうものなら容赦はしない。

で、チートを疑っておる者にはチートを使っていないことを見せるのが一番じゃろう。

つまり手元を映せば良い。

あと、起動中のアプリケーションの一覧も見せれば良い。

もちろん完全にチートを使っていないという証明にはならんじゃろうが、見る人が見れば分かるじゃろう。

といつても手元配信用の専用の機材を持つておるわけじゃないからう：

うーんとしばらく悩んで、スマートフォンで代用することにした。

カメラ用の三脚は押入れに転がっていたので、それにスマホを養生テープで固定して……

スマホに変換ケーブルをかませてUSBでパソコンにつなげて
……

手元が映るようにスマホの角度を調整して……

スマホの映像を配信画面に出力して……

タスクマネージャで起動中のアプリ一覧もだして……

「よし、これでどうじゃ？ 皆にも映っておるか？」

：手元配信だー！

：魔王様の私生活のほんの一部が見える！

：ま、魔王様の小さな御手が…?!

：魔王様の手めっちゃ白くて綺麗…！

：魔王様手ちっちゃw

：チート全然疑ってないけど、これにはチート疑ったやつに感謝

：キーボードめっちゃきらきら光ってて草w

：たぶんマウス同じの使ってるけど、それ思うと魔王様の手まじで

ちっちゃいなw

：きやわわああああああ

「よしよし大丈夫そうじゃな。手元映しながらもう一試合やってやろう。きっと我の実力を信じざるを得ないと思うぞ？」

7 配信目 「レーペックス」 雑談しながら銃を撃つ
のじや【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】3

「よし、早速試合開始じや。今回もさつきと同じようにランクマッチ
やっついていくぞ」

：お手並み拝見

：お手並みはさつき見たのでおてて拝見

：手元配信とか見たことないけどどんな感じやろ

：タスクマネージャーみた感じは変なソフト使ってへんな

：手の大きさからするにマジでロリなのか…

：中も外もロリとか…ガチ恋いいっすか？

：→ダメです（一般常識）

「お、我がジャンプマスターじやな。降りる場所を決められるわけ
じやが…

そうじやな、あそこの地区に降りよう。

皆も降りるときはジャンマスであつてもちやんと周りを見るの
じやぞ？ ……むっ。他に2部隊が同じ場所に向かつておるの」

：開幕から激戦の予感

：他の場所に避けるか？

：魔王様ジャンマスも上手いな…

：ジャンマスなんでか他の部隊に追い抜かれるんだよなあ…

：→魔王様みたいにジグザグに飛ぶと早くなるぞ

我らが降りる地点には、我らの他に2部隊。

他に2部隊いるというのは正直やりにくい。1部隊と戦っている
ときに横槍が入る可能性があるし、戦い終わったあとに漁夫の利を得
ようと襲いかかってくる可能性が高い。

こういう場合は初動が大事じや。

いかに早く武器を揃えるか。

いかに早く防具を揃えるか。

「うーぬ…… 我が愛用武器はそう簡単には手に入らぬか。

これは要らぬし、こいつも要らん。入れ替えて、しようがない。これで我慢じゃな。アーマーは青か。まあしょうがないの。むしろ全然及第点じゃ」

：漁あきるのはつやww

：マウスの動きが尋常じゃない

：バッグの画面早すぎて視認できないんだけど

「今回はショットガンとピストルじゃな。どちらも1発の威力が比較的高いの。ショットガンの方はちと連射速度が遅いが。

——つと。

足音が聞こえるな。

味方のを除いて少なくとも2人。もう来きよったか」

：足音で敵の人数まで分かるのか

：拾ったのは中距離近距離か

：人数まで分からん普通

：おててカワイイ

：自分の足音を敵と誤認する、そう私です。

「我らは室内、彼奴らは外じゃ。

扉や遮蔽物をうまく使って…… ピストルでヘツシヨ狙って……

ワンマガジンでとりま1人ダウンさせて…… もう1人来てるか

らショットガンで…… ドンツドンツ…… 倒して…… 我のアー

マーが削れておるので倒したやつのに素早く着替えて…… 最後の

1人は…… 2Fにおるな…… 外から登って不法侵入か… なら

ば詰めて…… ドンツドンツ…… OK 部隊全滅じゃな」

：仲間も頑張ってるのに魔王様が全部もってっちゃう……

：マウスとキーボード両方とも異次元で草

：もしかして指1本1本に意識あります？

：指が全部違う動きしてるンゴwww

「もう1部隊は来なかったな。よしよし。

ほれ、お主らこれを使うのじゃ。体力も減っておるじやろ」

：○早すぎて来れなかった？来なかった

：お前の殺戮が早すぎるんだよ…

：回復アイテムにしつかりピン指して優しい

：ほんと死体漁るの早いな…

：アイテム画面ほんと一瞬で草

：脳の処理速度が俺らと違うんだよ

：処理領域が64スレッドくらいありそう

仲間の回復も済んだ。

この地区に残っているだろうもう1部隊の討伐に向かおう。

先程の死体漁りでアーマーもだいたい良いのが手に入ったし、回復アイテムもそこそこ潤沢じゃな。まあただ、武器はぱつとしたものを持っていなかったのでショットガンとピストルを継続して使用するしかない。

「さて、何だかあそこの岩… 殺気を感じるの…」

殺気…というよりも、これは私の『直感』に近いかもしれぬ。

いくつもの血で血を洗う凄惨な戦場で、幾度となく救ってくれた私の直感。ここは信じてみるべきじゃろうな。

手榴弾に持ち替えて岩の後ろに投込む。

すると慌てて敵の1人が出てきた。

：なぜいると分かったし…

：殺気……？

：え、このゲーム殺気感じられないと無理？

：漫画の主人公並に殺気を感じるなw

：殺気ってなんだよwww

：殺気で察知ってか？w

：戦闘センスが卓越しておられる…

「ふっふっふー！ やはり居たな！ こそこそと待ち伏せしてこの我を欺あざむこうなど、1000年早いな!!

そら、鉛玉のプレゼントじゃー!」

岩の陰から慌てて出てきた敵をピストルで撃ち抜く。

ドンツドンツドンツ と小気味よく3発を頭に打ち込みダウン。

とどめを刺すため更に打ち込みもうとすると左前方からライトマシンガンの弾が飛んできた。

視線を素早く向けるとどうやら残りの2人。

我のアーマーはほぼ削れておらぬのでそのまま突っ込む。

ドンツドンツ と軽く撃ち込みつつ、建物の壁を蹴りあげ、高速で空中を飛び敵の背後を取る。

これはウォールジャンプと呼ばれるテクニクだ。

文字通り壁を使いジャンプする技で、ボタン入力がシビアだが、壁をモーシヨンなしに登れたり、高速で敵の背後を取ることができる。

そして背後からさらに撃つ。

残った1人はショットガンで処理。

「二丁上がりじゃなー!」

：手元の動きが異次元過ぎて……

：普通にウォールジャンプつかつとる

：この間わずか10秒

：空中方向転換も使ってたぞ……

：高等技術をさらつと使うな

：手の動きが同じ人間とは思えない

：エグっ……

：キャラコンやば……

：手元配信なのに画面に集中しててみてなかった

：ほんとに被弾しないな……

：体力ほぼ満タンやん……

「ふははははははは！ どうじゃ見たか!!! これが我の実力じゃ！」

：疑ってごめんなさい

：存在がチートじゃん…

：なんでそんなに上手いの？

：本当は人間じゃなくて戦闘アンドロイドなんだろう？

：魔王様やぞ

：岩の後ろにいるのなんで分かったん？

「なんで上手か、か…： まあ私も一応練習してウォールジャンプとか習得したし、練習かのう？」

岩の後ろに居たのが分かったのは、まあ直感的に分かったとしか…」

：練習してもあんなに上手くなれません先生

：ウォールジャンプ実戦で使えんわ…

：ブラックハウンドのスキャン要らないな…

：エイムも練習の賜物？

「エイムか？ エイムはそんなに練習しておらんな。

まず全部の武器の反動リコイルを暗記するじゃろ？ そしたらその武器に応じてリコイル制御を毎回同じようにやればいいだけじゃ。こんだけマウス動かせばこんだけ動くっていうのは全部覚えておるし… 敵の動きに合わせて動かすだけじゃからのう… どうやっとなるか改めて聞かれると答えにくいな」

：まず全部の反動を暗記します↑無理

：んなアホなwwww

：なに使わせても強いのか…恐ろしい子…

：前提条件がきつすぎる

：記憶力がやばたにえんの無理茶漬け

：Q. なぜ強いのですか？ A. 強いから

：魔王様にとっては歩くのと同じくらいの認識

「まあそんな感じじゃ。

それじゃあ、チート疑惑も晴れたということを手元のカメラは切るからのう? …ほいつと」

…ああ、お手々が…

…おてて助かるのに…

…今まで見た手元配信で一番異次元だったな…

…なぜ切る必要が有るんですか? (怒り心頭)

…おててで助かる命だつて有るんですよ!!

「お手々で助かる命つてなんじゃよ…」

…そりやお前余命わずかな俺の命がだな…

…もうすぐガンに効くぞ

…インフルエンザにも効くぞ

白月ノゾミ：ちよつと遅れちゃったけど来た!

「ぶえアウ?! ノじよミちゃん?!?!

n a n a h a n n d e n o z o m i t y a n n g a
k o n n n a ? ! ? ! ? ?
a r e h a ? ! ? y u m e d e m o m i t e i r u n o k a … ? 」

…なんか今異世界言語が聞こえましたね

…人間の可聴音域ぎりぎりだったな

…ノゾミちゃんキタ—— (。▽。) —— !!

…なんぞその声ww

…ごめん人間の言葉でお願い

…母国語でてますよ

…後半なに言ってるか聞き取れんww

白月ノゾミ：昨日トウウイッターで見に行くつて約束したからね!

「うウエツへへへ… あ、あのこんにちは… ふへあへつ… 本日はお日柄もよく…」

…魔王様、前!前!

：銃声銃声！

：お日柄とか聞いてないから敵！

：魔王様敵来てる!!!

：お日柄より敵気にして？

「うえあ？ 敵！ えあ、ちよ、まつ……！」

：死んだw

：死んだww

：初死にがくつそ情けないwww

：仲間も死んじまった：w

：一瞬で溶けたw

：まあ棒立ちやつたでなw

「あう…… すまん、仲間よ……」

白月ノゾミ：ご、ごめんね。試合中にコメントして……

「いや！全然！ノゾミちゃんは悪くないのじゃ！むしろ攻めてきた敵が悪い！言うなれば女神との邂逅に水を差した背信者、背教者、どんな言葉を使っても言い表すことの出来ぬ大罪人どもですじゃ！ノゾミちゃんとの会遇を邪魔した彼奴らにはそのうち地味に嫌な呪いを遠隔にかけてやりますのじゃですよ！」

：のじゃろりと敬語が喧嘩してるな

：魔王様は神と敵対してそうなんですが……w

：ほんと早口だと息継ぎないなw

：リモートで呪いかけるなw

：時代はテレワークだからな

：リモート呪いは草

白月ノゾミ：私のせいで負けちゃったけど……さっきの戦いとってもすごかったね！かつこよかった！

「かつ……！ ノゾミちゃんが我のこと格好良いと…… うえへア……

よし！ ノゾミちゃん見ててくださいなのじゃ！ ノゾミちゃん

のために爪痕1試合で20キルするダブハン1試合で4,000ダメージ以上出すもりもりで棺桶の山を作りますですのじゃ!」

白月ノゾミ／@Shiratsuki|Nozomi

返信先：@nina|nanaulmさん

ニーナちゃんのお話とつてもかっこよかった!!!

試合の途中で気が散るようなコメントして本当にごめんね(´・

×××ω・×××、)

ニーナ・ナナウルム／@nina|nanaulm

返信先：@Shiratsuki|Nozomiさん

きよ、恐悦至極でございます。

試合のことは本当に大丈夫なので気にしないでください。むしろ気をそらした我が悪いのです。というより空気が読まないあの敵が悪いです。最大級の呪力を込めて腹痛呪いしておきました。

白月ノゾミ／@Shiratsuki|Nozomi

返信先：@nina|nanaulmさん

呪いもできるんだね!さすが魔王様!

ニーナちゃんのお話とつても面白かったし、今度一緒にコラボ配信とかしたいな!

ニーナ・ナナウルム／@nina|nanaulm

返信先：@Shiratsuki|Nozomiさん

ごめんなさい。我、いわゆるコミュ障で…ちよつと…

白月ノゾミ／@Shiratsuki|Nozomi

返信先：@nina|nanaulmさん

初配信でニーナちゃんがしてほしいって言ってた、よしよしもしてあげるよ?(´・b?)

ニーナ・ナナウルム／@nina|nanaulm

返信先：@Shiratsuki | Nozomiさん

アーカイブ観られたのですか……

その、とつても甘美なお誘いですし、本当はノゾミちゃんといっぱいお話してみたいんですけど……ごめんなさい、もうちよつと心の準備が出来てからお願いしたいです。

白月ノゾミ / @Shiratsuki | Nozomi

返信先：@nina | nanaulmさん

うーん……そつかあ……残念(´ω´) シュン

じゃあいつでも私待ってるからね！ニーナちゃん♡♡♡

8 配信目 アンニュイな魔王様

「ふう…… 今日の配信も終了じゃな」

配信を終了しYootubeを閉じる。

昨日から始まったVtuberとしての生活。

まさか自分が4期生に合格するとは思っていなかったから、なんというかまだ現実味が薄い。面接であれだけ噛み噛みで、加えてスーツじゃなくてダボダボのTシャツで受けて、オタク特有の早口を披露して合格するやつなんて、後にも先にも自分だけだろう。

まあただ――

ふっ、と自然に口角が上がる。

――Vtuberとは存外楽しいものだな。

ふと時計を見ると夜の10時近かった。

配信を始めたのが夜の7時頃だったから、かれこれ3時間くらいは配信をしていた計算になる。

どうやら久々に熱中していたらしい。

もちろんレーペックスは好きなゲームだから普段から熱心にやっているが、やはり観客がいるというのは違った熱が入るのだ。

「ん？ メッセージかの？」

そんなふうを考えているとピコンツと調子の良い電子音がスマホから鳴った。

どうやらキラキラライブからのメッセージらしい。

もしかしたら……

頭の中に少し嫌な考えがよぎる。

勝手に手元配信したのを怒られるかもしれない。

チートを疑われてつかつとなつてやってしまったが、冷静に考え

たら運営に一言いつてからやるべきだったかも…… まあ、過ぎてしまったことは仕方がない。

『ニーナさん

お世話になります。キラキラライブ企画部マネージメント課の真根まねです。

配信、私も観ていたのですが、やっぱり手元配信やる前に私に一言ほしかったです……』

メッセージの相手はニーナ・ナナウルムのマネージャーを務めている、真根まねからだ。まるでマネージャーをするためだけに有るような苗字だが、本人はこの苗字をいたく気に入っているらしい。

そして、内容はやはり手元配信へのお小言だった。

まあ仕方がない。これは自分が悪いとニーナも理解している。

『すみません、真根さん。チートを疑われてついカツとなってやってしまいました。』

『まあ、ニーナさんはまだ3Dモデルもないし、そもそもうちの3Dのトラッキング技術ではニーナさんの繊細な動きについていけないでしょうから、結局は疑いを晴らすために実写の手元配信になってたかもしれないですけど……』

ニーナさんは「バーチャル」な存在なんですから、現実のことで何かしようと思ったたら私に相談してくださいね！ 絶対ですよ！

ニーナさんのご希望に添えるように、私、頑張りますから！』
『承知しました。ありがとうございます、以後気をつけます。』

ニーナさんのために私頑張ります、か——。

相変わらず優しい奴じや。

マネージャーの真根とは一度だけ実際に会ったことがある。

本当は会いたくなかった…… というど語弊があるが、ニーナのコミュニケーション能力の欠如を考えるに、会うとまともにしゃべれな

い。ならばチャットが良かったというのが本音だが、何かと現実はいまよく行かないものだ。

ともかく、やはりマネージャーと一度も会ったことがないというのは何かと不都合があるということで、ニーナは会社から呼び出されて行った。

電車で会社に行くのは人が多すぎてしんどかったので、レポートで誰にもばれないように近くまで行ったり、会社の受付の人にうまく喋れなくて迷惑をかけたか、警察官に迷子だと思われて四苦八苦したり…… まあ、あの日は頑張ったとニーナも自分自身を褒めてやりた

い。
真根のことを一言で表すのであれば、『優しい』の一言に尽きるだろう。

ニーナはまともに目を合わせられなかったのでよくは分からないが、パツと見た感じ、顔立ちもきれいなお姉さんだったと思う。

新卒採用されて今年で3年目らしいが、とにかく縮こまり挙動不審なニーナのことを気にかけてくれた。まともに喋れなくて本当に申し訳ないと思っただが、あれがニーナの精一杯なのだ。許してほしい。

『そういえば、同期のレイさんとリレイさんがニーナさんとコラボしたいなあって言っていましたが、やはりまだ無理そうですか？』
『そう、ですね……。ごめんなさい、まだちょっと……』

ただ、私もこのままではいけないのは分かっているので、ちょっとずつ前進できるように色々考えます。』

『分かりました。私にできることがあれば何でも言ってくださいね！
夜分遅くにごめんね、今日の配信もとっても良かったよ！ またね！』

『はい、ありがとうございます。』

メッセージアプリを閉じて、ふう、と目を伏せる。

ニーナ自身も分かっている。

このままではいけないと。

コミュ障を直すために一歩を踏み出さなくてはいけないと。

ただ、その一步踏み出す勇気が出ないのだ。
大衆を前に演説をしていたあの頃のニーナが見たら、きっと笑うに
違いない。

ふっ、と自嘲気味に笑う。

そんなふうを考えを巡らせていると、目を閉じているからか、外で
降っている雨音がやたらと大きく聞こえてきた。

「雨、か——」

そういえばあの日もこんな雨の日だった。

ニーナの今世での両親が他界した日。あの日も今日みたいにひど
く雨が降っていた。

——全くもって変わり者の人間じゃったな。

生まれて1週間も経たないうちにしゃべり始め、1ヶ月もしないう
ちに歩きだす赤子など普通は気持ち悪いに決まっている。今世の両
親はそんなニーナを気味悪がるどころか、天才だともてはやしてい
た。喜んでいたのを覚えている。

小学校の入学式や、七五三、誕生日にいたるまで、一人っ子のニー
ナの記念日にはそれはそれは盛大に祝ってくれたものだ。

そんな二人は交通事故であっけなく死んだ。

即死だった。

ちょうどニーナは修学旅行中で両親とは離れたところにいた。

ニーナも蘇生魔法を使うことはできる。しかし、蘇生魔法とは制約
が多い。

事故が起きて数秒以内にニーナがそこにいればあるいは出来たの
かもしれない。が、ニーナがそのことを知ったのは事故が起きて30
分後だった。レポートしてもどうしようもない。

儀式がかなり大変だが、事前に水晶で両親の運命を見ておけば——
両親に外に出るなど言っておけば——

ただ、そんなのは結果論だ。

それに、ニーナは知っている。

人間とは脆い生き物だ。いつかあっけなく死ぬ。それが偶々あの日であったというだけのこと。

この世界の仕組みがどうなっているのかは知らないが、二人の魂が迷わないように、前世で師匠から教わった呪いまじなもかけてやった。だから別に悲しくはなかった。

——我に断りもなく死ぬとは勝手な奴らじゃ。

だけど、ときどき寂しくなる。

「家族、か——。この家は1人で住むには広いのう」

両親が生きていた頃は手狭にも感じたが、今は広く感じる。

そのせいかは知らないが、今日みたいにアンニュイな気分になってしまうとこの家で1人であることが、なんといいかときどき寂しい。

いつそのことペットでも飼おうか？

前世でもケルベロスを3頭ほど飼っていたが、犬を飼うというのは良いかもしれない。いや、猫も良いかもしれない。前世では猫っぽい魔物もいたが飼ったことはないから意外と良さそうだ。

しかし、問題が一つ有る。

ペットショップに行くのであれば、つまり店員と対峙しなくてはいけない。他のお客さんもたくさんいることだろう。そこに行くまでの道のり然り。ぶっちゃけ嫌だ。

「しかし、これを一步にするのも悪くない、か——？」

コミュ障脱出への一步とするのも悪くないかもしれない。

そうだ。これはなかなかの妙案な気がしてきた。

例えば、これに縛りを設けるのはどうだろうか。

ペットは生体だからネットで買うのはそもそも無理だが、ペット用品はネットで買える。ここであえてペット用品関連はネットで買わ

ないという縛りを設けて、強制的に外に出る機会を増やす。
うん、良いかもしれない。『家族』のためなら頑張れる気がする。
そうと決まれば、まずは情報収集だ。

ああ、いや、その前に奴に連絡しておこう。

『真根さんへ——』

』

9 配信目 【雑談】 新しい家族じゃ 【キラキラライブ／
ニーナ・ナナウルム】

「新しい家族を紹介しようと思う」

： どういうことだっけよ…

： か、彼氏…?!?!?

： お、おちけけけ!

： おいおいもちつけよ

： 餅つくな。おちけよつ

： V t u b e r になって10日で彼氏いる発言マ?

： 彼氏じゃなくて俺の子だろ?

： 俺の子のことだよ。びっくりさせんなよw

「いやいやなんで彼氏とか赤子の話になつとるんじゃ。新しくペットを飼ったのじゃ。」

ほれ、この画像を見よ。2匹とも女の子じゃ」

： ぬこだー!

： 猫きやわわ

： はえー、2匹とも美人さんですねー

： かわいい

： 二匹とも真っ白美人

： かわいい

： ママとパパに飼う許可もらった?

「許可もらうも何も、我がこの家の家主じゃからな。それに両親はすでに他界しておる」

： そうなんか…

： すまん、悪いこと聞いた。

： 無神経やったなすまん

：そつか…一人暮らしか

「よいよい、人間はいつか死ぬものじゃ。それに何年も前の話じゃしの。きつとあの二人も天界で笑ってこの配信を見ておるじゃろ。

で、今日はこの子らの名前を皆で決めようと思うぞ。

ああ、もちろん変な名前はなしじゃからな？ 分かっておるじゃろうな？ 女の子に下品な名前をつけようとする輩は漏れなくリモートで呪いかけるからの」

：ヒエツ

：声こえーw

：ごめんなさい。

：低い声助かる

：ゆるして

：真面目に考えるお！

「あと、そうじゃな。1週間くらい前にやった手元配信の反省をして、今回は猫飼うことを事前にマネージャーさんに相談済みじゃ。名前を臣下の皆と一緒に決めることも言っているから安心してくれて大丈夫じゃ」

：マネに怒られたやつかw

：ちゃんと反省しててえらい

：おてて配信のおかげで生きる意味が見つかったからありがとうやで

：おてて見れて嬉しかった。

：まあ別にお手々で炎上してないしええやろ

：むしろファン増えたまであるな

：またお手々配信してほしい。

：猫ちゃん達はペットショップで買ったの？

「ん？ああ、いや、この子らは保護猫じゃ。

猫を保護しているNPO団体から譲り受けたわけじゃな。

毎年多くの猫達が行政で殺処分されていると知つてのう…… 少しでも助けになればと思うてな」

：保護猫なんか

：さすが魔王様お優しい

：猫捨てるとかマジ人間サイテー

：やっぱ人類は滅ぼすべきや

：捨て猫もまだまだ有るしな

：猫は家から勝手に出て繁殖して地域で増える

：うちの近所も猫多くて困ってるわ

猫を飼うと決めてから、すぐにマネージャーの真根さんにメッセージで相談した。猫を飼うこと自体はさほど問題ないじやろうが、猫に絡めた配信をしたいと思っておったからの。

ある意味「現実」のことを配信で出して良いかの確認じゃな。

真根さんからは『一応確認します』のメッセージのあと、すぐにO Kの返信が来た。

真根さんからの了承を得たあとすぐに『猫』についてインターネットで情報を集め始めた。

最初はペットショップで買おうかと思っていたが、調べていくうちにその考えを改めた。もちろんペットショップが悪というわけでは断じてないが、保護猫という、様々な理由で保護される猫がたくさんいることを知ったので、せっかくなら保護猫にしようと思った。

日本では年間3万匹も猫が殺処分されると聞いたときは正気か疑ったぞ。あんなクソカワイイ生き物を殺すなどとんでもない。

ただ、『保護猫』というのは少々、というかかなり厄介じゃった。

保護猫団体に「猫がほしいです！」と言つてすぐに貰えるものではないのじや。

里親になるには各々の団体が定める『審査』がある。

我が行ったところはコーディネーターの人と面談をして、猫の住む間取りや部屋の写真等の必要書類の準備、アンケートの記入。それらをクリアして、初めて猫を迎え入れることができる。

つまり、端的に言つて、コミュ障の我にはむちやくちやハードルが高い。

いや面談て……

面談は無理やて……

もういつそペットショップへ逃げてしまおうかと思つたが、我は挫けなかった。年間3万匹ものかわゆい生き物の命が殺処分されていく現状を打開する一助になればと、我は茨の道を選んだのじゃ。いやマジで茨の道じゃつた。面談のときとか、我は終始『(@ん@;)』みたいにくるぐるの目じゃつただろう……

「いやあ…… 里親になるために面談とか有るのじゃが、マジで死ぬかと思つたのう。もう何話していたか動転しすぎて全く記憶にないな…… 『家族』のためとはいえ、我、頑張つた。うん、頑張つた。我は偉い子じゃ……! 我はまつこと凄いのう!

で、やつと審査に合格して今日この2匹が我が家に来たというわけじゃな」

：まじか、魔王様すげえ……

：えらい

：えろい

：ノゾミちゃんとのコラボ断るぐらいコミュ障なのに頑張つた

：頑張つて魔王様偉い!!

：やるじゃん

：俺も魔王様見習わないとな……

：保護猫つてこの子が良いつて指定するの? 向こうが指定?

「いや、こちらでどの子が良いか選べるぞ。

我もいろんな子を見せてもらったが、この姉妹が一番輝いていたから此奴らにしたのじゃ」

：どゆこと?

：白色だから輝いてた?

：魂の価値を覗いたんだろ察しろ

：魔法力を見たんだよ

「この姉妹な。我が近くを通ったときに必死に訴えかけてきたんじや。姉の方は妹のことを。妹は姉を。それぞれが自分じやなくて姉妹を優先しておった。

姉のために、妹のために、貴方がいいご主人さまになってあげてください！　ってな」

：よく分かるな。うちの猫何考えてるか分からん

：はえー、魔王様感受性豊かなんすねー

：文学的な表現ですてき

「ん？　あ、違うぞ。我は動物が何を考えているのか分かるんじや。

まあ分かると言っても人間同士みたいな高度な会話ができるわけじやなくて、うーん……　なんて言ったらよいか……　イメージ映像を伝え合う、みたいな感じかのう？　嬉しいとか怒ってるとか、そういった感情も分かるぞ」

：ふあっ?!

：魔王様動物と話せるんか……

：すげえロリだ

：昔テレビで動物と話せる外国人とかいたな

：動物と意思疎通出来たら楽しいだろうなあ

：メルヘン魔王

：そんなファンタジーやメルヘンじやあないんですから

：ファンタジーだしメルヘンやぞ（魔族の王）

：メル……ヘン……?!

「よしほれ、前置きはこのくらいじや。名前を決めるぞ。

一応2匹の情報を伝えておくと、やんちゃやお転婆なのが姉で、クールで物静かなのが妹じや。2匹とも真っ白な毛色じやな」

：白だからシロ！

：ホワイト！

：キュアホワイト

- …ふたりはぷいきゅあ
- …白色だから…… 雲ちゃんとか
- …雲ならク○ウドとか
- …→やめなよ
- …→興味ないね
- …クラスファーストさんの名前だすなよ

「これ、真面目に決めんか。まあホワイトはシンプルじゃがありじやな」

- …叱咤魔王たすかる
- …ごめん
- …クリスタルちゃん
- …宝石の名前はどうか？ サファイアちゃんとか
- …ブラン（フランス語で白）
- …雹（ひょう）とか霰（あられ）は？
- …氷ちゃんは？
- …六花（りっか）と天花（てんか）
- …白（はく）

「よしよし、皆真面目になってきたな。えらいぞー。」

フランス語か。なかなか良いチョイスじゃな、フランス語は音がおしやれな気がするしいう。

して六花（りっか）と天花（てんか）か。『花』が入っててカワイイが、どんな意味なのじゃ……？

あー、ちよつと待っておれ。今グーグル先生に聞いて調べておるか……

ほうー… 六花も天花も雪の別名なのか。

六花は雪の結晶を花に例えた呼び名で、天花は天から降ってくる雪を花に見立てたのか…… うーむ、日本語はやはり趣があるというか美しい言葉が多くて良いのう！」

：はえく、雪に別名あるんすねく

：日本語って綺麗だな

：『和』な日本語綺麗だよな

：美しいな

：また今日も一つ賢くなった

「我、この六花と天花けっこう好きなのじゃが、皆はどうじゃ?」

：いい希ガス

：綺麗でかわいい!

：ええやん

：勝手にカタカナで考えてたけどええやん

：和でええやん

：毛色雪みたいだし良いと思う

「よし、じゃあ此奴らの名前は六花と天花じゃ。

姉が六花で、妹が天花じゃ。

ほら、どうじゃ? お主らの名前じゃぞ? …そうじゃそうじゃ。

お主が六花で、お主が天花じゃ。ん……? 違う違う、姉のお主が六花じゃ。天花はお主の妹のことじゃ。よしそうじゃ、それでOKじゃ」

配信の画面から少し目を離し、近くでじゃれあっている姉妹に話しかける。

姉の方はやはりやんちゃで、名前がついて嬉しいのか我に飛びついてきて、妹はクールにちよこんと座ってこちらを見ている。

名前をつける、という行為には魔術的にも意味のある行為だ。

名前がつけば、存在が確固たるものになる。

ただの動物から、もう1段階上の存在へとシフトする。

……とはいっても、六花と天花はまだ良くわかっていないらしい。

2匹とも疑問符を浮かべておるわ。

まあまだ1歳にも満たない子猫じゃ。

子どもに難しいことを言っても通じないじやろう。
ふっ、カワイイ奴らめ。

そんなふうには微笑ましく見ていると、ふいに姉の六花が配信をしている画面の方へジャンプして行ってしまった。

「これ六花、今配信中なのじゃからその机に乗るでない。あく、ほらトラッキングソフトが私のきゅーとな顔を認識できておらぬじやないか。ほれ、こっち来い。

まったく、猫で声で甘えてきおって……

ああーもう、カワイイのう！ 顔をうずめるとこの世の天国じゃなく！ うへあ… 天花もこっちへ来てよいぞ？ そう寂しそうにするでない。姉妹まとめて相手してやるからのう！ うふふえ、カワイイのう…

考えてみればお主ら人間なら小学生くらいか。子を持つ母はこんな気持なのかのう」

：ママー！！

：ママ！

：魔王様ぜったいだらけた顔してるやろwww

：来世は魔王様の子宮にやどりたいな

：声がトロけてるwww

：なんかほんとに会話できてそう

：魔王様かわいいw

：少なくとも相思相愛だな

：猫を吸って蕩けてるww

：ちよいちよいトラッキングされる顔がめっちゃニヤついているww

w

「よし、それじゃあとはいつともどおりゲーム実況でもするか。

六花も天花も私の実況が見たいか？ そうじゃろうそうじゃろう。よしほれ、特別に机の上に乗る許可をやろう。あまり画面の前を通っちゃダメじゃぞっ。」

——今日は少しだけ騒がしいゲーム実況になりそうじゃな。

10 配信目 【Vtuber】魔王様を見守る臣下達
Part. ○▽【キラキラライブ】

130 : 名無しの下級臣下 ID : tgbayEItB
そういえばもうPart ○▽か。魔王様スレめっちゃスレの伸び
いいな

132 : 名無しの下級臣下 ID : XhFUP9gRp
魔王様ほんとおもしろー女

133 : 名無しの下級臣下 ID : Xx0dzLGIZ
こんだけ魅力的ならまあそら伸びるわ

135 : 名無しの下級臣下 ID : 3ZsYp9mCq
面白いしカワイイしゲームつよつよだしカワイイし、マジで隙がな
い
さすまお

136 : 名無しの下級臣下 ID : 9f3OZWGl g
コミュ障という最大の弱点があつてだな…

139 : 名無しの下級臣下 ID : Jh8TQkb78
コミュ障で早口オタクというw

142 : 名無しの下級臣下 ID : balr5rU+B
なぜ笑うんだい？ 彼女のコミュ障は立派だよ

145 : 名無しの下級臣下 ID : n09gq2Gvp
コミュ障込みで魔王様大好き。ファッションコミュ障じゃなくて
共感できる

配信で合間合間に出てくるコミュ障話すこ

148 : 名無しの下級臣下 ID : +Ic o d p N f 4

実際リスナーにはコミュ障でオタクの人多いだろうしぶっ刺さってそう

149 : 名無しの下級臣下 ID : e 2 P n Q z X T 7

昔はコミュ障じゃなかったって言うけど、ほんとかよw

151 : 名無しの下級臣下 ID : J I o x i Q I Q g

数日遅れでレーペックス配信見てきたけど、アレやばくない？

普通にプロだろ…… つかプロ以上だろ……

154 : 名無しの下級臣下 ID : r s y l N q u s c

5つくらい前のスレで、とある臣下が魔王様のゲームIDをプロの過去動画の中で見つけてたぞ

プロが2ヶ月くらい前に動画の切り抜きトゥウイッターに投稿してて俺もその切り抜き見たけど、「この野良の人すげー」ってめっちゃ絶賛してたぞ

157 : 名無しの下級臣下 ID : M c b o / u l p n

>>154

プログラマーの花鼻はなはなのやつだったけ？

すごすぎて花鼻がフレンド申請送ったけど返信なかったやつなw
w w w w w

159 : 名無しの下級臣下 ID : w J a 9 b W k + t

>>157

めっちゃフレンドになりたかった……！って悔しがってたやつなw

今ならその野良が魔王様って分かるから余計に花鼻くやしがつてそう。あの人V基本好きだし

162 : 名無しの下級臣下 ID : F J T x p W 4 s K
今なら分かる。

魔王様絶対コミュ障でフレンド申請スルーした。

163 : 名無しの下級臣下 ID : s R V I c Y u 7 3
マジで上手いんだよなあ…

165 : 名無しの下級臣下 ID : M V R H W 9 q M 8
レーベックスやったことない人は分かんと思うけど、プレデ
ターってだけでやばいんだ。

それだけじゃなくて魔王様野良でプレデターなんだ…
キャラコンが異次元なんだ…

エイムがほぼ全弾ヘッドに向かっているの怖いんだ…
長距離アイアンサイトで当ててるな…

1 v s 3 で勝つな…

166 : 名無しの下級臣下 ID : G 6 k a e j 0 e 9
普段は単にカワイイだけなロリだけど、戦闘になると急にカッコよ
くなるんだ…

167 : 名無しの下級臣下 ID : y C y 3 6 Y A P P
格好いい魔王様ほんと好き。抱いて！

168 : 名無しの下級臣下 ID : Y O n z 8 N s 8 w
あんなにかっこいいのに、おててはちっちゃくてカワイイんだ…
ペロペロしたいよね

170 : 名無しの下級臣下 ID : k N p C p A C H N
>>>168

お巡りさんこっちはです。

173：名無しの下級臣下 ID：EEbxvumaJ
お手々配信良かったよな

176：名無しの下級臣下 ID：ny36wsngW
なんかお手々配信やるの良くなかったって言ってた人いるけど何でなん？

チートの疑い晴らすためやし、おててカワイイし、個人的に無問題なんだが

179：名無しの下級臣下 ID：tj／oWLNer
>>>176

仮にも“V” tuberやからな。バーチャルが現実を持ち出すのを嫌う層は一定数いる。

あと勝手にやったのがいかんかった。
まあ別におてて嫌った層はほとんどいなかった気がするけどな

180：名無しの下級臣下 ID：IGQgUOEUn
そうなんか。

顔出すならあかんと思うけど、手ぐらいええやんって思ってた

183：名無しの下級臣下 ID：bBns45LMI
価値観なんて人それぞれやからな

185：名無しの下級臣下 ID：YYfYfBTO3
社会人は報告・連絡・相談ってそれ一番いわれてるから

電話一本して許可もらってからの配信ならあの配信はなお良かった

186：名無しの下級臣下 ID：／mlNt+Vyr
昨日のお猫様の配信は反省してマネージャーに事前承諾もらって

るから許してあげて

188 : 名無しの下級臣下 ID : mZPNnmENL

>>186

成長できて偉い!

グリフィントールに810億点!

189 : 名無しの下級臣下 ID : A2/LbvxCU

甘杉イ!

191 : 名無しの下級臣下 ID : UA33Vgsf/

激甘採点すぎて草

193 : 名無しの下級臣下 ID : kYahHks8q

お前の魔法学校ジンバブエドル並に点数インフレしてそうだな

196 : 名無しの下級臣下 ID : 9QZxM5nET

スリサリンの人たちブチギレてそう

199 : 名無しの下級臣下 ID : cxqO4kqzC

猫様のアーカイブ今見てきた。

猫にメロメロな魔王様かわいい

201 : 名無しの下級臣下 ID : YmTYpTXnc

>>199

わかる

202 : 名無しの下級臣下 ID : 6eOd+eW8Y

猫も2匹ともメスだし、これは魔王様と猫様達の濃厚な百合の香り
種族を超えた愛情いいと思う。ワシは一向に構わん

203 : 名無しの下級臣下 ID : N r y F O Y / J V

>>>202

俺も混ぜてよw

204 : 名無しの下級臣下 ID : c o B e u 8 m H E

>>>203

お前魔王軍議会で満場一致で死刑だよ

205 : 名無しの下級臣下 ID : r X f Q a A w p e

魔王様動物の気持ちも分かるらしいな

208 : 名無しの下級臣下 ID : l z n F 6 y t d V

>>>205

六花と天花に話しかける魔王様尊い

ほんとに子どもあやしてるみたい

210 : 名無しの下級臣下 ID : R W O h d X o W b

魔王様の凄いところ

・かわいい

・尊い

・レーペックスで冷酷非情な神エイム／プロ級の腕前

・キュート

・動物と意思疎通ができる↑new!

212 : 名無しの下級臣下 ID : U l r g z q y X g

六花と天花って名前いいよね

213 : 名無しの下級臣下 ID : Q x z V 7 T m P i

下手に小洒落た名前よいい

216 : 名無しの下級臣下 ID : c v q + u E G B 9

言葉分かるっていうのは感受性豊かって事なんだろうけど、それが
コミュ障の原因なんか

感受性豊かな人って繊細というか、豆腐メンタルな気がするし…
HSPだっけか？

219：名無しの下級臣下 ID：E a l Q 2 Q m F z

>>216

そうかもしれないが両親他界してるのが大きい気がする
いつかの雑談配信で昔は全然コミュ障じゃなかったって言った
し、両親の死で引きこもり↓コミュ障の可能性

220：名無しの下級臣下 ID：M S + b 6 T g / S

勝手に詮索して暗い話やめようぜ

そんなことよりお猫様という新しい『家族』が出来たことを喜ぶん
だ！

221：名無しの下級臣下 ID：6 X 0 r f N A m n

お猫様の役職は魔王軍幹部だろうな
つまり俺ら下級臣下の上司だ

222：名無しの下級臣下 ID：3 v g U a I / 9 0

猫が上司とか嫌でござーます

225：名無しの下級臣下 ID：w g i s + z r g 2

>>222

人類なんて太古の昔から猫様の奴隷なんだよ

226：名無しの下級臣下 ID：5 8 F Y v X O s 5

魔王様やっぱりコラボまだ無理だよなあ……

227：名無しの下級臣下 ID：e D V x n M e Y V

>>226

俺も他のライバーとコラボしてるの見たいけど、まあもう数カ月は無理じゃろうな

230 : 名無しの下級臣下 ID : dfGasYX+V

ノゾミちゃんとコラボしてたじたじになる魔王様みたいんじやく

^

233 : 名無しの下級臣下 ID : r/qXxnDAs

ノゾミちゃんもいいけど、先に同期とコラボしてほしい。

同期の天使と勇者、同期とコラボするときは3人揃ってからって健気に待ってるし

235 : 名無しの下級臣下 ID : C/ECJ5Hp8

>>233

ペドフィリアとサイコパスだけど、意外と優しい一面があるから困る

237 : 名無しの下級臣下 ID : HLi2H5gnd

二人とも常識有る方だからな。

なお一部が極端に欠けている模様

238 : 名無しの下級臣下 ID : RMVvVScdt

もうすぐ登録者5万人いくし、記念コラボは…… 無理やな

240 : 名無しの下級臣下 ID : 34kd53Hi+

そっいえばもうすぐ5万か、早いな

242 : 名無しの下級臣下 ID : 8mQRpyAZ

2週間で5万はかなり早いほうだよな

243 : 名無しの下級臣下 ID : p a K z s 8 d J q
記念で何かやってくれるかしら

244 : 名無しの下級臣下 ID : 2 y O I B 8 d d Q
他のライバーと織りなすシナジー効果をみたいんじやあ

1-1 配信目 【雑談】 マシユマロ焼いて食べるのじや
【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】

「今日の雑談枠は溜まってきたマシユマロを食べてゆくぞー」

：魔王様が溜まってて食べる（意味深）だって?!

：おちつけ

：久々のマシユマロだー

：この前送ったやつ読んでくれ!

：焼きマシユマロおいしいよね

：ガキの頃キャンプで食べた焼きマシユは格別じやった…（憧憬）

：あの頃に戻りてえな…

はじめてマシユマロおくります!

魔王様、本は好きですか?

好きならどんなジャンルをよく読みますか?

おすすめの本があれば知りたいです!

いつも配信を見て尊死しては復活させていただけます!

これからも頑張ってください!

「いつも見てくれてありがとうなのじや。

我は結構本好きじやな。特にライトノベルが好きじや。まあラノベに限らず普通の小説もいっぱい読むの。

ジャンルは特に『これが一番!』とかはないのう… まんべんなく好きじやな。ファンタジーも現代恋愛ものもコメディも。基本雑食かな。

して、おすすめの本か。

……うーむ。

ラノベだと『この素晴らしきワールドに祝賀を！』が今年一番じゃない。爆裂魔法を使うあの娘、なかなか魔法の醍醐味を分かっておる。いわゆる普通の小説だと『ホーリーポッター』が良かったの。特にホーリーポッターは私の使う魔法とは体系が違うようでの、なかなか魔法に対する解釈が面白くてな。実写映画も観たし、日本語版小説も全巻買ったし、英語の原文のやつも買って読んだのう。原文も翻訳版もそれぞれの良さがあってよいの。で、オリジナルに満足したら今度は二次小説を探してひたすら読んだな」

：このすば好きなのかw

：爆裂娘と趣味が合うの草w

：ホリポタガチ勢かよw

：頭のおかしい爆裂の人に理解を示してる…

：やはり火力バカは正義

：魔王様も紅魔の一族の可能性が微レ存…？

：『魔法』の解釈という点で評価してるのは魔王様らしいな

：ホリポタ英語版ももってんのか…

：あの電話帳みたいな洋書全巻

：ていうか魔王様英語読めるの？英語版は観賞用？

「英語は読めるし、喋れるし書けるぞ？ 我の母国語と文法が似ているからな、結構すぐ覚えられたぞ。我『覚える』の得意じゃからな。

発音も私の国の言葉より音が少ないからわりかし楽に聞いたの。

数年前に受けた英検は1級じゃし、その時トイックも満点じゃぞお？

ふっふーん♪ どうじゃ？ 我すごいじゃろ？ ほれ、我を褒める

ことを許可しよう！ ほれほれ、我を称えるのじゃ」

：すげえ

：めっちゃドヤってる

：ドヤり魔王様助かる

：素直に凄い

：俺トーイック200点なんやけど…
：マジでペラペーラじゃん
：200点ニキは小学生からやり直して、どうぞ
：魔王様すごいな
：さすまお
：掛け値なしに凄いと思う
：普通にすごくて感心してる

「え、いや。素直に褒められるとなんかちよつと反応にこまるんじやが… なんじやよお主ら… …意外と素直じゃん。

で、200点のお主は、もうちよつと頑張れ。英語は学生るときだけじゃなくて大人になっても結構使うからの。ゲームの最新情報をいち早く手に入れたいなら英語要るからな」

：テレ魔王様かわいい…！
：てれおう

：まあなんだかんだ英語多少読めると助かる場面多い

：ツンデレ

：急に意味不明なカタカナ英語きても分かるとき有るしな

：エビデンスがー

：サステナビリテイとかな

「あるあるじやなw 『コミットメント』とか『アジェンダ』、『フィックス』：エトセトラじや。いやまじで日本語でおkってなるのうw
それじや、次のマシユマロじや」

魔王サマにはじめてあ・げ・る？（ネットリ）

魔王サマってえ、人生のちよつとしかない学校生活楽しめたかしらあん。

オネエサン気になりすぎてもう夜しかね・れ・な・いい
ってことで、一番楽しかった学校生活の思い出どうぞ

… あコミュ障だからないかw

…うわ…w

…コミュ障に学校の思い出きくな… 聞くなよ… (落涙)

…Wow…

…個性が強い

…しつかり寝れてるし…

…悪寒がした。

…魔王様に喧嘩を売るとは命知らずなやつ…

…ヒエツ

…最後の一文に何も言い返せない

…リスナーの半数が死にそう

「まあ待て皆の者。この程度の煽りで動じる我ではないぞ？ 普段から5ちゃんねるで訓練している我の敵ではないわ。

ただまあ、こやつは今頃お腹が痛くなって、今日はおトイレ様と熱い夜を過ごすやもしれぬな。のお？ 『オネエサン』？ ……まあ30分くらい頑張れ」

…しつかり効いてるじゃないですかーやだー

…効いてる効いてるw

…あれまじでお腹痛くなってきた

…5ちゃんを嗜む魔王様とは…？

「ま、冗談はさておき、皆には言っていないなかったかな。

我、別に昔はコミュ障じゃなかったぞ？

まあそもそもコミュ障をどういうふうに定義するかにも依るしの。今の我はある種コミュ障と言えるかもしれないが、別にそこまでコミュ障じゃないかもしれない。今配信をしているように『文字』としてのお主らには全く動じておらぬ。つまりこの配信に於いて我はコミュ障ではないと言うことも可能じゃ。そも人間を画一的にコミュ

障と割り振ることは出来ぬな。人間は多面的じゃ。とどのつまり人間はだれしもコミュ障を内包しているわけで我もまあ目を合わせながらしゃべるとかはなかなか難しいが目を見なければ喋ることも出来なくもないかもしれないし意思疎通はできるわけであるから我はコミュ障じゃないと——」

：ああ。また発作が。

：大丈夫、キミはコミュ障だよ

：ちよつとマジで今世紀最大でお腹痛いんだけど…

：コミュ障あるある壱ノ型——言葉ノ定義

：コミュ障以外なものでもないよ

：学校生活の楽しかったことは結局なんなんだwwww

：魔王様そもそも魔王だから学校行ってないだろ

「おつとすまぬ。学校生活の話じゃったな。

そうじゃな… 高校3年のときの体育祭が1ばn… あー、えつ

と、魔界からテレポートでお忍びで地球に来て、こう…、日本の高校に潜入調査したのじゃが、体育祭が一番楽しかったの」

：そういう設定かw

：設定守ったw

：テレポートできるんですねえw

：そういうことなら何も問題ないな！w

：魔界意外と地球から近いのかもしれない

「親の転きn… じゃなくて、父上と母上の指示で潜入する高校を変えたのじゃが、転校先の高校の体育祭がとっても楽しかったのお…！最初はクラス内で多少の不和があったようなのじゃが、最後は皆笑って仲良くなつて、優勝をもぎ取って大団円じゃったな。いまでもその時の写真は額縁に入れてとっておる。

懐かしいのお… 卒業と同時に皆と疎遠になってしまったが、今頃どうしておるかな…」

：体育祭とか仮病で休んだわ

：はい、二人組つくってー

：→やめろよ卑怯者！

：二人組はPTSD起こすのでNG

：魔王様と一緒にだったら体育祭も楽しかったのかな…

：なぜ体育祭はあるのに勉強祭はないのですか？

：ほんとに昔はコミュ障じゃなかったのか

：クラス内の不和って？

「不和は、まあ…いわゆるイジメがあつたの。気の弱そうな女の子が我が転入する前からちよつとイジメられてたみたいで、まあ、最後は我のカリスマによって解決したから大丈夫じゃ！」

：さすまお

：今日イチのさすまお

：俺もイジメられてたんご…

：全盛期の魔王様が想像つかん

：さすまお！

「よしよし次のマシユマロどんどんゆくぞー」

12 配信目 【雑談】 マシユマロ焼いて食べるのじや 【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】 2

レーペックスで魔王様がレエス使い

というのは分かったのですが

他の人が先にレエスをとったときは、

どのキャラを使用しているのでしょうか？

あと、操作性や能力、使用感とか抜きで

単純にキャラとして好きなキャラを教えて欲しいです

「レエスが他の人に取られたときは…… 重力を操るホライズンとか、フックショットで有利なポジションを取りやすいウエイファインダーとかじゃな。重力で上に飛んでそのまま狙撃するのとかフックショットで移動しながら撃つのか結構楽しいのう。

まあ基本的にどのキャラクターでも使えるからノリで選んだりもするぞ」

：流星に全部のキャラは使えんなあ

：重力おばあちゃんすこ

：自分を大砲だと言い張るネキをすこれ

：上空から狙撃とかコワイんご…

：俺キャラ2〜3個しか使えんわ

：別のキャラ使うと脳がバグる

：別キャラだとアビリティ勘違いして使っちゃうわw

「で、えーつとあとはキャラ性能を抜きにして好きなキャラか……

うーむ、そうじゃな…… すべてのキャラにバックストーリーが

あつて全部好き… なんじやが、強いてあげるのであれば、レエスとワトソンかの。

それぞれ個別でも好きなんじやが、トウウィッターの二次創作とかで時々見かけるレエスとワトソンの漫画がすきでのおく。アレはとつてもよいのう」

：レエワトすこ

：あのちよつぴり甘い百合が良いんだよな

：レエワト好きとは趣味が合う

：主とは良いお酒が呑めそう

：レエワトいいよね

：レエワトじゃなくてワトトレエだと私は強く言いたい

：ワトトレエも良い。全部良い。(ヨクバリス)

：レエスの胸盛るペコ

「おおー。皆にもあの良さが分かるか！ いやあ、アレはほんとに良いからの。」

レエスとワトソンだけじゃなくて、基本的にレーペックスの二次創作全部好きなんじやよね。他のFPSゲームとは違って、レーペックスは操作キャラクターが『キャラ』として個性が強くて二次創作が捗るんじやよね

ミラージとオクトンの絡みも良いし、ランバートとワトソンも良い！」

：分かりみが深すぎる

：分かる(分かる)

：二次創作が盛んなのは良いコンテンツの証

：レペの同人誌買いました

：ワトソンのエッチな声いい

：→回復の声エッチだよなw

いや、レエワトの良さが分かるものが臣下の皆の中にも多くて我は嬉しい！

レーペックスはもちろん『ゲーム』として素晴らしいものであるが、

ゲームそのものの部分だけでなく、それを取り巻く部分も素晴らしい。特にキャラクターが良い！

他のFPSゲームだと自分の操作するキャラクターは個性がなかったり、あるいはあっても薄かったりするのが多い。その点レーペックスはキャラクターの生い立ちがしっかりと設定されておる。ゲーム内でキャラ同士の掛け合いがあったりもするしの。

そういった魅力的な基盤が用意されているのであれば二次創作も盛んになるのもある意味では当然かも知れない。

そもそも我がレーペックスをやり始めたのも、トウウィッターで流れてきたレーペックスの二次創作漫画が発端だったりするのだ。

「この話はまだまだ語れるが、まあ、テンポよく次へ行こうかの」

初マロ？つてやつだぜ！魔王様！

俺は魔界で土の精霊をやってる者だ。

突然で悪いが助けしてくれねえか？ 他の精霊共がおかしくなっちゃまったんだ！

闇の精霊は「僕がお兄ちゃんだ」つてブツブツ言ってる。

光の精霊は「私がお姉ちゃんにならなきゃ」つてどっか行っちゃまった。

火の精霊は「おてて…おてて…」と虚ろな目してやがる。

水の精霊は「おみず…あの子のおみず…」なんて言つて荒れちゃった。

風の精霊は「くしやみ、くしやみさせなきゃ」つて意味わからんこと言ってる。

このままじゃ俺がレーペックスのランク上げる時間が減っちゃまうぜ！

せっかくプラチナまで行つたつてのによ！

：お、おう…

：Oh…（ネイティブ）

：これが俗に言うクソマロですか？

：魔界の精霊って愉快なんですね

：精霊たちが魔王様にひれ伏してる

：精霊がゲームやるな

「うん、我は最初ちよつと良く分からなかった。

うん、とりあえずまあプラチナランクおめでどう」

：魔王様からのじやロリの霊圧が消えた…?!

：魔王様も引いておられる

：魔界でもトウウイッターあるのか…

：地球のYootubeで配信者やる魔王もいるくらいだし、多少はね？

「うん、まあ、レーペックスができるってことは人型の精霊じやろうから、結構高位な精霊なんじやろうけど、え、なに、今どきの精霊は魔界でYootube見るの…? 大丈夫？ 大半の人間は魔法行使するとき精霊から補助受けたりするって聞いているけど、人間魔法使えなくなっていない？ 大丈夫？」

まあ、もちろん我もこのマシユマロが本気で言っている訳ではないことは分かっておる。ネタをネタとして楽しむのはインターネットに住まう者の必須技能じゃ。

ネタと分かった上で、真実を交えてネタを更に昇華させる。これぞエンターテイナーじゃ。

人間の使う魔法について、前世で家庭教師兼執事のセバスから聞いた覚えがある。

いやあ、勉強はしておくもんじゃな。

その時は『そんなもの知ってなんになる?』なんて思っておったが、

人生何が役に立つか分からんの。

：精霊だつて動画見たいんだよ

：精霊にも娯楽が必要だから…ねえ…？

：精霊にも人権を！

：精霊は魔王様の臣下だつた…？

：わしブロンズ帯から抜けられぬで候。

：精霊も魅了する魔王様さすが

：プラチナとかすごいやん

：異世界では精霊から補助受けて魔法使うのか

「そうなんじゃよね、人間つて魔族と違って体内にある魔法器官が貧弱らしくてな、精霊から補助を受けてやつとまともに使えるらしいんじゃないよね。セバスチャンが確かそう言っておつた。

まあ、勇者と一緒にいた魔法使いみたいの一部頭おかしなものもいるがの」

：だれだよセバスチャンw

：そりや執事やろ

：世界観がしっかりしてるのね

：魔族は人間と違う臓器があるんすねー

「セバスはセバスじゃ。私の執事… あー、いや元執事じゃな。

我がいなくても元気にしておるかなアイツ… と、まあこのマシユ

マロはこのくらいにして、お次はこれとこれじゃ」

こんにちは魔王様！

魔王様がコミュ障なのは重々承知なのですが、
やっぱりコラボしてるのもみたいです！

コラボ…無理そうです？

魔王様まだコラボ無理そう？

会話デツキがないなら天気デツキとかどう？

死生観デツキも割と使い勝手良いと思うけどいかが？

臣下達とコラボシミュレートとか会話デツキ構築配信とか良いと思う

他のライバーとの相乗効果みたいお…

でも無理はしないで

「とりあえずこの2つを紹介したが、結構コラボに関するマシユマロも多かったんじゃないよね。」

……

コラボ…… コラボのう…… やはり皆見たいのか？」

…みたい

…そら見たいわ

…同期とコラボ、しよう！

…天気デツキはやめとけ

…ノゾミちゃんとコラボしようぜ！

…3期生達高校生もいいぞ！

…無理はしてほしくないけど、コラボ見たい

…もうすぐ5万人だし、記念でコラボどうよ！

…たしかに登録者もうすぐ5万だな

「そうじゃのお… 確かにマネージャーさんからも5万人記念なにかやりましょうって言われたし…」

コラボか…… うーむ」

…別にどもつてもいいし

…コラボでコミュ障発揮しても別に誰も怒らなくて

：キラキライバーはみんな魔王様Ⅱコミュ障って知ってるから
：別にオフコラボじゃなくていいから

：成長するための大事な一歩だと思ってるさ

確かに、コラボをするというのはコミュ障改善への重要な一歩になるだろう。もともとコミュ障改善を主目的にV t u b e rをやっている我にとつて、コラボはいつかは通らねばならぬ道じゃ。

じゃが、今の我にできるのか？と自問してみればすぐに答えが返ってくる。

無理じゃ、と。

そらそうよ。うん、分かったと気軽にコラボできるなら、とうの昔にやっておる。

じゃがなあ、こうして臣下の皆にもやってほしいと言われることも多い。その期待には応えてやりたいし……

あとあれじゃ、マネージャーの真根さんに「軽めのコラボ、どうです？」とキラキラした絵文字が散りばめられた文章をこの前送られた気がする。

うーむ……

「皆は我と他のライバーが出会ったらどういう配信になるのか見てみたいのじゃよな……？」

：そうそう

：みたいけど、無理はしないでね

：みたい

：見て二次絵かきたい

：3期生のアイツとか相性いいと思うんだよなー

臣下の皆はコラボをしているところが見たい。

真根さんのチャットを見るに、社会的にもコラボはしてほしいじゃろう。

しかし、我はコラボできそうになく、小気味良い会話もできそうにない。

さて、これらの要件を満たす解決策は有るのか。

……いや、有るな。

——私の完璧な頭脳が、今、瞬時に『答え』をはじき出した！

「ようし、分かった。お主らのその欲求を満たしてやろう。良いことを思いついたからの。クフフ。フハハハハ、……いやあく、まっこと我は天才じゃのう！」

：どうした急に

：急に魔王笑い始めた

：?!

：なになに？

：何やる気だ…

：急にコワイお…

：え、怖い怖い

：不敵な笑い

「マネに確認してからじゃが、ふフフ、楽しみに待っておれ」

13 配信目 【Vtuber】魔王様を見守る臣下達
Part. ○▲【キラキラライブ】

656 : 名無しの下級臣下 ID : fQweuA7eg
魔王様のトウウイツターの猫ちゃんかわわ〜!

657 : 名無しの下級臣下 ID : 6npEdEJ78
普段はなんていうかちよつと文章が硬いけど、六花と天花ちゃんの
トウウイトのときだけ文章がふにやふにやしててかわヨ

658 : 名無しの下級臣下 ID : 8f6f+5zix
まじかわいいよなw

661 : 名無しの下級臣下 ID : ciBn/j6dN
お猫様も魔王様も可愛い
絶対あの空間いい香りする

664 : 名無しの下級臣下 ID : HR5uDLmdl
最近のこのトウウイトすこw

ニーナ・ナナウルム

@nina | nanaulm

六花も天花も食欲旺盛でな、写真の通り食事後は口の周りにご飯が
いっぱいついておるわw

毎回拭き取ってあげるが、にゃんというか、もうまじ可愛いのが
拭くときかわよく目をつぶるのじゃよね〜! にゃ〜♡♡♡

665 : 名無しの下級臣下 ID : A7Y8NxkxW

〽〽664

かわいい(確信)

666 : 名無しの下級臣下 ID : c r G R I G Z x U

>>664

これは可愛いの権化

668 : 名無しの下級臣下 ID : j 2 k n i V + Z Y

お猫様たちもすすくすすく育っているようで私は嬉しい

670 : 名無しの下級臣下 ID : L K B b B N O Y f

先週くらいからスパチャ解禁されてるし、俺らの投げ銭で天花と六花に良いもの喰わせてほしい

672 : 名無しの下級臣下 ID : c / S x L 9 s 8 9

>>670

俺らより良いもん食わせたい

674 : 名無しの下級臣下 ID : M w q g 6 5 + B W

スパチャも新人にしては結構な額いつてるしな

675 : 名無しの下級臣下 ID : h c 6 a L a T m 0

今日魔王様の5万人記念配信だけど、結局なにやるんやろ

678 : 名無しの下級臣下 ID : Y b J z E + x + 6

この前の配信でコラボ匂わせてたけど、普通に考えて無理やろなあ
:

679 : 名無しの下級臣下 ID : V K j p 3 1 u 5 6

結局コラボ無理なのでゲーム配信します、とかになりそうw

681 : 名無しの下級臣下 ID : 2 L I W v z / 1 X

まあそれはそれで魔王様らしいけどなw

683：名無しの下級臣下 ID：O d a n E U q t C

でもあそこまでコラボ匂わせといてやらないはないんじゃないか？

686：名無しの下級臣下 ID：O I J Y q 7 q r p

コラボやるならまあ1人しかしないと思うけど、誰だろ？

意外と同期2人とやったりするのかな

688：名無しの下級臣下 ID：k u T z 3 G 6 i O

ノゾミちゃんとやるに1万ペリカ

690：名無しの下級臣下 ID：k z Q E O 1 N 7 6

ノゾミちゃんはむりやろ

692：名無しの下級臣下 ID：3 G D 1 5 4 c Y a

ノゾミちゃんはなあ……

一番ない気がするわ… やってほしいけど魔王様の心臓がいくつあっても足りない。尊死してしまう

695：名無しの下級臣下 ID：j S m A K O C X X

3期生の千香^{ちか}ちゃんとかどうやる？

698：名無しの下級臣下 ID：／ p U N P f M O f

ちーちゃんとかバリバリのギャルじゃん。

そら無理つてもんよ。属性が違いすぎる

700：名無しの下級臣下 ID：f 3 T W p X 7 m D

3期生なら桃内百太^{ももうちももた}が良い！

701 : 名無しの下級臣下 ID : OPCC6SX+r
百太郎は男じゃん、無理やろ

702 : 名無しの下級臣下 ID : w6wMiLms6
同性でも無理そうなのに異性は厳しいやろな

703 : 名無しの下級臣下 ID : Uc8QPmYis
まあ百太郎との絡み見たいのはわかる

706 : 名無しの下級臣下 ID : Bq6oQb4/z
やっぱり僕は王道を征く、同期の勇者と天使……ですかね

708 : 名無しの下級臣下 ID : aYABfbIYw
天使はやめとけ悪いことは言わない。

あんな歩く性犯罪者予備軍と魔王様を会わせてはいけない（親目線）

711 : 名無しの下級臣下 ID : uiiqrQieL

まあダルマ性癖持ちのペドフィリアとか危険物取扱者でも触りたくないしな

713 : 名無しの下級臣下 ID : SYKI1Osf+

あの天使、ネクロフィリア（死体性愛）も持つてるんすよ…（恐怖）

716 : 名無しの下級臣下 ID : 6hgKEMFtM

世の中の全ての事象に対して興奮してそう

718 : 名無しの下級臣下 ID : gzE+/4ciq

ヒエツ

怖いんゴ…

7 2 1 : 名無しの下級臣下 ID : W L p X f d Y R q
性癖のバーゲンセールやな

7 2 3 : 名無しの下級臣下 ID : 4 T U O U 4 W 3 0
禁忌性癖のキメラ

7 2 5 : 名無しの下級臣下 ID : 9 3 G Z 3 D 1 A 6
あんな天使がいるとか、天界はどうなってるんですか？

7 2 6 : 名無しの下級臣下 ID : x D f c L u S Q m
神はすべてを許すので……(精一杯のフォロー)

7 2 9 : 名無しの下級臣下 ID : n M 4 d Y 2 c i d
その点勇者は割と選択肢として有りじゃないか？

確かにサイコパスだけど常識は比較的有る方だし、サイコパスだけ
どやさしい人間的な面もときどき垣間見えるし

7 3 1 : 名無しの下級臣下 ID : d P 7 T N h S c l
明らかに比較的(当社比)じゃないですかーやだー

7 3 3 : 名無しの下級臣下 ID : J L X r f b j 4 O
可愛い生き物に対して純粹に「食べちやいたいくらい可愛い」って
言ったときの切り抜き好きw

本当に食べたいとは思ってないと思うけど、あれのコメント欄すこ
すすこすこ侍

………本当に食べたいとは思ってない、よね…？

7 3 4 : 名無しの下級臣下 ID : c A F k o f 9 g w

まあいうて2人とも流石に自重するやろ。これまで普通に生きて
きてるはずだし

736 : 名無しの下級臣下 ID : cX S x n L h C I
マジレスするなら普通に大丈夫だと思う。

あの2人もキラキライブという会社に属する社会人だし、相手のことを思いやることはできるでしょ

…たぶん

737 : 名無しの下級臣下 ID : f 4 V 3 x 0 T 6 H

>>>736

もっと自信持つて言つてくださいよオ!!

739 : 名無しの下級臣下 ID : s Z + 2 i H 3 t D

マネージャーとはチャットで交流あるみたいだし、マネージャーをVにしてコラボする説、有ると思います。

741 : 名無しの下級臣下 ID : K I v h J Q 1 4 Y

それはそれで面白いなw

743 : 名無しの下級臣下 ID : X j I W B v 5 V p

立ち絵1枚用意しておけばVと言い張れるからなw

744 : 名無しの下級臣下 ID : V U f 8 I x G z v

で、結局コラボの詳細について発表なの？

もう配信開始まで40分くらいだけど

747 : 名無しの下級臣下 ID : M 6 E M 8 w h R W

>>>744

なんか直前で発表するって言つてた気がする

749：名無しの下級臣下 ID：86YioleZV
そそ、配信開始30分くらい前とか言ってたかな

752：名無しの下級臣下 ID：KPz3LnKpb
キラキラライブのライバーのトゥウィッター見ても誰も魔王様とコ
ラボやりますって言ってないから情報統制しっかりしてるな

753：名無しの下級臣下 ID：1AIDGFCOJ
誰やるなあ：ワクワクするわ

756：名無しの下級臣下 ID：joeWzDv28
結局魔王様がVtuber始めてから1ヶ月以上ソロでしか配信
してないしな。俺も楽しみ。

757：名無しの下級臣下 ID：TRpeZvR4E
そろそろ30分前だな

771：名無しの下級臣下 ID：IexW67D/D
おい、やべーぞ！

魔王様凸^{とっ}待ち配信他のVtuberから通話を待つ配信のこと。
○万人記念配信とかならお祝いの言葉をもらったりする。『凸』は『突
撃』の意味だとか。するってよ！

773：名無しの下級臣下 ID：UV6Tm1mFh
は
???????

774：名無しの下級臣下 ID：2pC4KBBLy
嘘は良くないよ

775：名無しの下級臣下 ID：uAYq/cISb
凸待ち配信とか一番ありえなくて草

777：名無しの下級臣下 ID：EcsLWTAZq
マジだつて！

トウウイッターみる

ニーナ・ナナウルム

@nina | nanaulm

今夜の5万人記念配信は『凸待ち配信』をすることにしたぞ
10人くらいは凸待ちしようかのwww

ふふふ、ハーハツハツハ！ 皆の驚く顔が目には浮かぶのう！

780：名無しの下級臣下 ID：j44TIQpY2
ついに頭がおかしくなってしまったのか… おいたわしや…

782：名無しの下級臣下 ID：BzLaQUt4w
まじじゃん… アゼルバイジャン…

785：名無しの下級臣下 ID：lcvjh3AWC
冷静に考えてなにかの間違いじゃない？

788：名無しの下級臣下 ID：2BX7quK97
トウウイッターのリプライも困惑だらけで草w
爆速でいいねとリツウイートされまくってるしw

791：名無しの下級臣下 ID：abw5WlE8b
え、え？

まじでやるの？

792 : 名無しの下級臣下 ID : 2 t 6 N F 6 u k Q
これ無謀だろ

795 : 名無しの下級臣下 ID : S X w / e 5 O 3 n
勇気と無謀を履き違えるなうんちやらかんちやら

798 : 名無しの下級臣下 ID : E H W R 2 V F N 9
1人目の凸で爆死して配信終了だろこれ

800 : 名無しの下級臣下 ID : V N I m t w a 8 f
?????????
(理解不能)

803 : 名無しの下級臣下 ID : 0 Q g l g o T X A
どうなるんだこれ:

805 : 名無しの下級臣下 ID : Z 4 m r O A P j 7
なにか考えがあるって言ってたし、普通に凸待ちするわけじゃない
と思うけど... まじどうなるんこれ...

14 配信目 【#魔王様の宴】 5万人記念で凸待ちじや！
【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】

【#魔王様の宴】 5万人記念で凸待ちじや！ 【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】

Now Loading...

…この配信大丈夫なんか…？

…魔王様爆死会場はここですか？

…お墓って普通に日本式で大丈夫？

…十字架のほうがいいんじゃないやね

…ああ、おいたわしや…

…皆、もつと魔王様のこと信じろよ！

…とりあえず1万円くらい香典置いとけばおk？

…水引みずひきしつかりしたのにしとけよ

…魔王様の宗派分からんからのし紙どれにすればええんや…

「あのな、お主ら我のことなんじやと思っておるんじや… 揃いも揃って我が死ぬだの、我が息絶えるだの、お墓立てようだの…」

…配信キタ———、(。▽。) ノ———
!!!!

…はじまったw

…凸待ちとか魔王特攻の攻撃じゃん…

…死のカウントダウンが…

…キタ———(。▽。)———(。▽。)———(。▽。)———(。▽。)
!!!!

…だって…

…Criticalヒットで死ぬじゃん…

「お主らが我のことをどのように見ているのか、よーく分かった。」

じゃが、くふふ、今日は主らが思う我とは一味も二味もちがうぞお
? 今宵限りのコミュカお化け魔王、ニーナ・ナナウルの実力を見
せてやろう——」

：何する気なんだ

：今宵限りなのか

：くふふって笑うのかわいい

：マネージャーに代わってもらうのはダメだぞ

：え、なにになにコワイ……

：凸待ち0人とかやめてクレメンス

：今からでもゲーム配信にしているのよ?

：0人は笑えないから……

：やめろ、その先は地獄だぞ——

「まあまあ、見ておれって(笑)。

つと、早速お一人目が来てくださったぞ。立ち絵も画面に映して
…… じゃあ、自己紹介の方してもらっても良いかのう?」

「はい、皆さんこんにちは。はじめましての方ははじめまして!

好きな色はパステルカラー。煌々美術大学に通う大学生の白月ノゾ
ミです。

ニーナちゃん、5万人達成おめでとぅ〜!♡」

「と、言うわけで記念すべき1人目はキラキライブ1期生にして至高
の存在、白月ノゾミちゃんじゃ!」

：フア?!

：ゾミちゃん?!?!?!

：あ!?

：あ!?

：あ!?

：あ!?

：あ!?

：あ!?

：あ!?

：あ!?

：あ!?

：あ!?

…(^ ω ^) おっ？

…え？あ？

…ふえあ

…なぜに??!

…(^ ω ^) ?

????

「いやあく、ノゾミちゃんもお忙しいのにわざわざ来てくださって、ありがとうなのじゃ」

「ううん、全然！ かわいいニーナちゃんの為だもん！ 一番乗りしようと思っただけで待機してた！」

「本当にありがたいお話じゃ。実は何を隠そう我はノゾミちゃんの大ファンでしての、今お話しできてとっても興奮しておるのじゃ」

「知ってるよ、いつも見てくれてありがとう！」

…え、え、え???

…幻覚
?????

…え、マジなに流暢りゅうちやうに喋ってるん？

…誰だお前

…声もマジモンのノゾミちゃんだし、え？え？ (CPU100%)

…まじでどういうカラクリ？

「この前発売されたボイスも素晴らしかったのじゃ。ASMR配信とかもよく拝聴しております」

「ふふっ、本当にファンしてくれてるんだね。」

私もニーナちゃんの配信みてるよ？ 初めての配信で私のこと大好きって話をしていっぱい喋ってるのも見た！」

「いやあく、アレも見られましたか。いやはやお恥ずかしい限りじゃ (笑)」

…俺は夢を見ているのか……？

…私の愛娘が立派に会話してる… (落涙)

…いつもの魔王様じゃない…

：僕たちのコミュ障魔王様を返して!!!

：誰よこの女!

：カラクリ分かったわ

：→マジか!?

：ここが：桃源郷なのですね：

：これ普通に録音だろ

：あー、録音か

：事前に台本用意して各々おのおの録音はありそう

：確かに録音だわ

「なんじゃお主ら。我が喋っておるノゾミちゃんが録音だと思っておるんか……」

まつたく…… 我は悲しいぞ……」

：魔王様は録音じゃないっばい

：バレてあせってるw

：自分は一実際に話して、ノゾミちゃんは録音かw

：録音とは考えたな

：ノゾミちゃんよく協力してくれたなw

：タイミングみて再生ボタン押してると思うと草

：それは草w

：草というか普通に悲しい……

：タイミングみてボタン押すの結構技術要いるくて草

：草だけど笑えねえw

「おいおい、お主ら本気でそう言っておるのか？ 普通に悲しいぞ…… いや、逆に我のことをよく理解しているということかもしれないわ。一概に怒れんわ。」

「じゃが、これだけははつきりと言っておくぞ？ ノゾミちゃんは録音ではないぞ？」

：命乞いはみじめだぞ

：もう自供しちゃおう、魔王様？

：諦めて投降して？

・録音じゃないなら証拠よろ

・エビデンスが重要なんですよ

・魔王様…（；ω；）ブワツ

・かつ井あげるから素直に話して

「ノゾミちゃん、こやつらこんなこと言っておりますぞ…。」

「むう… 私、本当に録音じゃないよ？」

「そうだ！ じゃあ証拠に、みんなのアカウント名読み上げるね！

えーつと、『アザラシ』さん、『M-007』さん、『しふおん』さん、『パンジャンドラムパンジャンドラム：第二次世界大戦中に英国で生まれた妖怪珍兵器。欠陥兵器。英国の人は紅茶を静脈注射するらしいのでこういう発想に至ったと思われる。ニコニコ動画でレース大会が開かれており、近年日本で謎の人気を博している。ぱんころく』さん、『田中』さん、『魔王様のおみ足ペロペロ1番隊』さん… つて、~~ど~~の方すごい名前ですね… アハハ…」

…アア?!

…ワイの名前呼ばれた!?

…まじで録音じゃないんか?!

…ペロペロ1番隊ってなんだよ…

…?!

…ま、まで。まだ全て仕込みの可能性が（震え声）

…俺の名前呼ばれた！

…おみ足ペロペロしたいのは分かるけど名前w

…どこかの英国の失敗兵器もいますね…

「おお、ノゾミちゃんナイスなのじゃ！

ふふふ、どうじゃお主ら？ これで録音ではないことが分かったじゃろお？ して、足を舐めたい変態がおるようじゃな？ まったく、ノゾミちゃんになんてこと言わせるんじゃ…！ まあ、私のことを好^すいておるのは分かるから今回は不問にしてやろう」

「録音じゃないって分かってくれたみたいで良かった！」

「それじゃノゾミちゃん、もつとお話しましょうなのじゃ。」

えっと……どんな話をしておったかのう……」

「えーっと、お互いがお互いの配信を見てるよーって話をしたところだったっけ？」

「おお、そうじゃそうじゃ。」

我、ノゾミちゃんの配信の中でもASMR配信が一番好きなのじゃが、最近ASMR動画のアップがなくて寂しいのじゃ…… もつと欲しいのう…… という個人的な願望を言ってみたり… チラツ」

…さて、まだ頭の整理ができていない

…なに個人的な要求してるんw

…そんな要望言えるまでコミュ障改善したんか（涙）

…たしかに最近ノゾミちゃんのASMRなくてツラ谷園

…普通に会話再開して草w

…草に草を生やすなデコスケ野郎

…まじかー、こんな日が来るなんて……

…うれし涙で画面が見えねえ…

…（…；ω；…）ウツウツ…

「うーん、ASMR動画に使うマイクって普通のマイクじゃなくて、『バイノーラルマイク』っていうんだけど、実は私、自分のを持っていないんだ。」

性能が低いマイクだと音質悪くてリスナーさんたちに申し訳ないし、やるときはちゃんとしたのをレンタルしてやってるの」

「そうじゃったのか…… バイノーラルマイクって結構良いお値段するからのお」

「そうそう！ 最高級のダミーヘッドマイクなんて100万円するって聞いてビックリしちゃった！」

「なるほど、つまりはノゾミちゃん専用の最高級のマイクがあれば良いわけじゃな。メモメモ…」

…ダミへって100万もするんか

- ：魔王様なにメモしてるんw
- ：リスナーのために妥協しない配信者の鑑
- ：魔王様良からぬこと企んでそう
- ：ノゾミちゃんレンタルだったのかアレ
- ：バイノーラルは安いのだと音質があれだしな
- ：やすいのでも1万はするぞ

・
・
・

「今日はありがとうなのじゃ、ノゾミちゃん！」

「ううん。こちらこそありがとう！ いっぱいお話できてたのしかったよ！ またね〜」

「…………どうじゃ、お主ら？」

これが—— これこそが、魔王ニーナ・ナナウルムなのじゃ」

：めっちゃドヤってるw

：いやまじか…

：無事に会話が終わった…

：通話が終わった今でも信じられん

：すごい夢うつつな気分

：でも俺まだ信じてない

：名前読み上げも絶対仕込みなんだ！（自己暗示）

「まだ疑っておる者も結構おるのお…… ククツ、きつとお主らは配信が終わるまで理解不能じゃろうな。」

…………つと、続いているお客様がお見えになったの。皆もよく知る、あのお二人さまじゃ」

15 配信目 【#魔王様の宴】 5万人記念で凸待ち
じや！【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】2

「ちよつと待っててくれ、今立ち絵を画面表示する準備をするから
のう……」

よし、OKじや。

それじやあ、お二方とも、自己紹介よろしくお願いするのじや」

「皆さん、こんレイく。はじめましての方も結構いらつしやるかもし
れないわねく。キラキラライブ4期生で、……魔王様…の同期のレイ・
ブレイブよ。」

一応勇者をやっているから、魔王様とは敵かもしれませぬ。ふ
ふつ 5万人達成おめでとうく」

「同じく魔王様の同期で、天使やってるリレイだぜー！ 5万人おめ
でとう、魔王様！」

「と、言うわけで同期の勇者レイ・ブレイブと、天使のリレイじや」

…同期キター ……(。▽。)…… ツ!!

…ついに来たツ!!

…この日をどれほど待ちわびたことでしょう…

…幾千もの月日を超えて、ようやく… (涙)

…あれ、また画面が歪んでる… (感涙)

…待ちわびた4期生全員集合配信ッ…!

…全員集合が5万人記念っていうのもいいな…

…ああ…

…敵同士の勢力が仲良く配信するエモい様が見れるんだあ…

「魔王と勇者、そして天使。相容れない者たちじやが、今日は休戦とい
う感じで楽しく配信しようぞ」

「ええ、もちろんく」

「あつたりまえだ！ この日を私達は待ってたんだからな！」

「いやあ、お待たせしてしまつたな。じゃが、待つた分だけ今日のニーナ・ナナウルムは絶好調じゃ！」

凸待ち配信2人目、そして3人目はニーナの同期である4期生の二人だ。

勇者という設定のレイ・ブレイブと、天使設定のリリイ。

目を瞑つぶつて聞いていると、まるで柔らかかにそっと包まれているような、透き通るきれいな声で話すレイ。その声を聞いたものは『清楚』の二文字を思い浮かべるだろう。ニーナもそうだった。

しかし、レイを端的に表すのであれば『やばいやツ』だ。落ち着いた口調から不意打ち気味に繰り出される、天然とも、お茶目ともとれるサイコパスのような発言。そのギャップがリスナーに人気で、『疲れたから目玉を取り替えてくる』発言や、『食べちゃいたいくらい可愛い』発言など、よくニヨニヨ動画に切り抜き動画がアップロードされる。

他方、リリイは『活発』『豪快』そんな言葉が似合うような、なんとなくか話を聞いていて気分がいいお姉さんだ。

男勝りな性格から女性リスナーにも人気だが、彼女を端的に表すのであれば『やばいやツ』だ。何がやばいのかと聞かれれば性癖がやばい。『ロリコン』程度であれば、まあそんな感じなのね、で終わる。しかしリリイは『ペドフィリア』『ロリコン』『達磨性癖』『ネクロフィリア』、その他諸々。それら全ての性癖を併せ持つ、いうなれば性癖の合成獣。某匿名掲示板では性癖の禁書目録ともっぱらの評判だ。ちなみに男の子も女の子も、男の娘こも雄おんなの子も、全部好きらしい。

とは言っても、性癖はアレだが、性癖を除けば、性癖に目を瞑れば、割と気のいい近所のお姉さんみたいな性格なので、リスナーからは割と慕われている。

「ふふ、調子いいんだから。本当に待ってたのよ？ 魔王様がシャイでなかなかコラボできなくて、でもコラボしたいーって、天使様と一緒に魔王様のマネージャーさんに相談したこともあったわね」

「あつたあつたw 結局振られちまつたけどな」

「いやあ、すまんかったのう… じゃが我も日々精進しておる。こんなかりそめ仮初ではなく、いつか本当に… あ… ん… っ！」

…『本当』に…？

…今なに言い淀んだ？

…仮初？

…おいまで今なに言おうとした

…やっぱなんかカラクリあるんか

…でも二人とも別人でもなさそうだしなあ…

「あ→、いや、なんでもないぞ→？ のう？勇者に天使」

「ええ、魔王様は何も言っていないし、何でもないわ」

「当たり前だぜ！ 本当だぜ！ 嘘じゃないぜ！」

…限りなく怪しさMAXで草

…草

…草

…声裏返ってますよ魔王様

…汗ダラダラ流してそうw

…その汗舐めてもいいですか？

…→ダメです。

…ペロツ この味は…！嘘をついている『味』だぜツ！！

…でもやっぱり仕掛けが分からん

「し、仕掛けなんかないのじゃ！

そういえば、我、最近ペットの猫を飼っているのじゃ！ 猫って可

愛いのじゃよの?!」

「私もそう思うわ魔王様」

「私もそう思うぜ！ 六花と天花かわいいよな！」

…フリが雑ウ！

…急な方向転換は魔王様の特権

・小生しょうせいも可愛いと思います。

・ワイトもそう思います。

・俺も。

・わたくしもそう思いますわ。

・ワツチも。

・拙者も。

「六花がお茶の入ったコップ倒したときも可愛さで許せるぜ!!」

「そうじゃのう! あのとときは怒るべきところじゃったが、あんなつぶらな瞳で見られたら怒れんわい」

・うーむ、本当に仕掛けが分からん。

・相手のボイスミュートして字幕読んで会話してるとか?

・意外と本当にコミュ障改善した説

・別に何でもいいや。

・魔王様のコミュ力MAXの姿見れるだけで私は嬉しい。

・事前にやっぱり録音かなあ?

・録音だと莫大な量になりそう

・チャットで会話しつつ、音声ミュート、あると思います。

・俺は本当にコミュ障治したんだと思う

・魔王様は努力家

・俺は魔王様を信じるぜ!

コメントを見る限り、大丈夫そうだ。

ニーナはふう：と、マイクに音声が乗らないように小さく安堵の息を漏らす。

危なかった。自分の失言で危うく計画がばあになるところだった。しかしとっさの機転でバレずに済んだ。「さすが我」と自分を褒める。

——さて、もう少し六花と天花の話題を続けようかろう?

そう考えているニーナの目に、ふと、一つのコメントがとまった。

レイ・ブレイブ：その勇者、私じゃないわ

16 配信目 【#魔王様の宴】 5万人記念で凸待ち
じゃ！【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】 3

レイ・ブレイブ：

その勇者、私じゃないわ〜

「なん…じゃと…?!？」

思わず声に出してしまった。

それくらい我にとつては衝撃的だった。

おかしい、たしか勇者レイ・ブレイブは現在ゲーム配信中のはず
じゃ…!

キラキラライブ公式アプリで各配信者の配信スケジュールも確認し
たし、なんならレイのトゥウウィッターも見て確認したぞ!?

ライバーにバレるのは想定内じゃが、勇者！ お主にバレるのは完
全に想定外じゃ！

それにまだ凸待ち3人目じゃ！ 6〜7人目くらいまでは行ける
という我の目論見が外れるなど、有りえぬ！

真根さんとも確認した、我のこの完璧でパーペキな作戦に穴などあ
るはずがないのじゃ…!

普通に考えて、配信しているライバーがこちらの配信を見ることは
ない。

リスナーも二つの配信を同時視聴するやつなんてほぼいない…
と思う。

その、はずなのに…?!?

リスナーだけじゃなく、キラキラライブのライバー達にもちよつとし
たイタズラをプレゼントしようと、真根さんと綿密な打ち合わせをし
てある。

凸待ち配信に出演させるライバー本人に連絡をするべきか迷った

が、言わないほうが面白くなると思う、という私の意見を真根さんは尊重してくれた。

まあ、ライバーのイメージダウンになってしまわないよう、口を酸っぱくするくらい真根さんに「発言には注意してね!」と釘を刺されたが。それでも私の願いを精一杯叶えさせてくれようとする真根さんはやはり優しいのじゃ。

ゲリラ的に5万人記念配信の内容を発表したのも計画を上手く運ぶためだ。

何日も前に『凸待ち配信をします』なんて言ってしまったえば、レイやリレイ、その他のライバーが自分の配信時間を少しずらして、私の凸待ち配信に来る可能性があったのじゃ。

……まあ、今世の我、別にそこまで人望ないから自分の配信時間ずらしてまで来る稀有なやつなんているとはあんまり思わんが……まあ、早々にバレてしまわぬよう、念には念をいれた。

それがどういうわけじゃ?

なぜレイがコメントしている……?!

……さて、おちつけ、我。

別にこれは致命傷じゃない。そうじゃ、まだ舞える……! こんなにも早くほころびが生じるとは想定外じゃが、まだ戦える! 余裕のよっちゃんじゃ!

そう! ニセモノが本物になってしまえば良いのじゃ!

何という妙案! さすが我! まっこと天才じゃ!

…ふあ!?

…勇者が二人……! 来るぞユウマ!

…なん…だと……!

…どういうことw

…いったいなにが始まるんです?

…勇者がコメント欄にいるんだがw

…ドツベルゲンガーですかね

…素晴らしい『なんだと』イタダキマシター

そのことを証明できるかのう？

出来ないじやろう？ そう、出来ないのじゃ！ なぜならこちらには勇者の『声』がある！ そなたは『文字』だけじゃ！ ふふふ、フハハハハハハ!!! 理論要塞セオリティカル！ 貴様にこの城を攻略できるかのう？ フハハハ!!!」

：魔王様が魔王様してるw

：テンションがおかしいw

：いや絶対魔王様ウソ付いてる

：どうやつとるんや…

：声真似とか？

：いやでもここまで声真似で似せるのとか無理やろ

：1人ならまだしもノゾミちゃんや天使もいるしな……

：声真似が超絶上手い魔王様、あると思います。

レイ・ブレイブ：

一つ、質問いいかしら〜？

「なんじゃなんじゃ？ ほれ言うてみ？ 特別に許可しようぞ」

レイ・ブレイブ：

私、ニーナちゃんのことを魔王様って呼んだことないのだけれど

——え？ マジ？

確かに我に対する一人称が分からず、我に呼びかけるとき一瞬^{しゅんじゅん}逡巡してしまっただが…… え、皆、我のこと魔王様って呼ぶんじゃないの？

……あ、いや、ノゾミちゃんとか我のこと『ニーナちゃん』って呼ぶじゃないか?! 何たる不覚ッ！ 我の完璧な事前調査にも抜けがあったということなのか……!!

じゃ、じゃが、まだ焦るような時じゃない。

そう、相手に対する呼びかけ方くらい、日によって変わることだっ

て、なくもない……だろう！

「い→、いやあ、勇者はきつと5万人記念配信という、ある種格式ある催しもてに合わせて、呼び方を『魔王様』にしてくれたのじゃろう？」

「そ、そうよ〜？ 親しき仲にも礼儀ありという格言もあるわ〜
ニーナちゃんの言う通りよ〜？」

：苦しすぎて窒息死しそうw w w w w w w

：魔王軍の勇者が焦ってるw

：魔王様、息、してる？w

：勇者が焦ることはないから、やっぱり嘘じゃないか！

：草

レイ・ブレイブ：

じゃあ、もう一ついいかしら〜？

「な、なんじゃ……ま、まだあるのか……」

：勇者に魔王が怯えてるw w w w

：明らかに焦ってて草オブ草w

：草

：怯えてるやんw

：蛇に睨かえるまれた蛙かな？w

レイ・ブレイブ：

どうして立花ちゃんがお茶をこぼしたことを、リリイちゃんが知っているのかしら〜？

「な、なにを言って…… ……ッ！ そ、それは…… きつと私の配

信を見て知ってじゃな…… のう？」

「そそうだぜ！ ああたり前田のクラッカーなのだじゃぜ！」

レイ・ブレイブ：

ニーナちゃんはそのことを配信でもトゥウイッターでも言っ
てないわ〜

我は思わず天を仰ぐ。

あかん、我、完全にやらかしてもうてるんじゃあ…

さつき焦って立花と天花の話に方向転換したときに、リリイと我はこう言ってしまった。

『六花がお茶の入ったコップ倒したときも可愛さで許せるぜ!!』

『そうじゃのう! あのとときは怒るべきところじゃったが、あんなつぶらな瞳で見られたら怒れんわい』

アウトじゃあ……

——い、いや、ま、まだじゃ! 諦めるな我!

「じゃ、じゃが、こちらで勇者がしゃべっているのはどう説明するんじゃ? ほれ、説明無理じゃろう? 無理…じゃよね……?」

：弱気になるなwww

：ふんばれよw

：語尾が弱いですよ

：逆に言えばそこしか対抗手段ないやんw

レイ・ブレイブ：

ニーナちゃん、声真似が上手ってマネさんから聞いたわ

真根さああああああん!!

いや、確かに我、面接のときとかに声真似できるとか言っちゃったけど! 真根さんもそのこと知ってるけども!!

「い、いやあ… そんなに上手くないのじゃけどよな…」

レイ・ブレイブ：

ニーナちゃんと勇者、同時にしゃべることは出来るかしら…?

OH…

Holy shit…

詰みです。対戦ありがとうございました。

「……」

：なんとか言えよ魔王様

：黙ってて草

：え、マジで声真似なの?!

：声真似ならそれはそれで驚愕なんだけどw

：ふあ?! まじ声真似なん?!

：真似上手すぎひん?!

……レイの言う通り、我の声真似じゃ。

我の声真似は、前世で習得した魔法『コエモシヤル』。

師匠にも「お前のコエモシヤルの精度は魔界一だろうな… 子ども
の遊びで使うような魔法をここまで高めたのはお前が初めてだよ
…… はあ…」って褒められたのじゃからな!

そんな私の『コエモシヤル』を見破るとは……!!

「フツ……」

フフフ… フハハハハハハハ!! よくぞ見破った勇者よ!

私の完璧で隙のないパーフェクトでマーベラスな計画をよく見
破った! 素晴らしい! 素晴らしいぞ!

……こんなに早く見破られるとは想定外じゃが、全然悔しくなんか
ないんじゃない! 本当じゃもん!

皆が混乱の渦に巻き込まれる中、後日ネタばらし配信しようと思っ
てたけど、全ツ然! くやしくなんか、ないんだからね!

じゃが、我が宿敵として不足はないことは分かったのじゃ。僥倖（いさむちがけ）
といえるじやろう!!

今日はこのくらいで許してやる! さらばじゃ!」

：悔しそうw

：心底くやしそうで草

：草

：草

：魔王様涙目じゃんw w w w w w w w

：敗走魔王

：w w w w w w w w

：計画は完璧でしたか……?!

：計画にも穴はあるんだよな…
レイ・ブレイブ：
わたし、褒められたわ

この配信は終了しました

17 配信目 【#魔王様の宴】凸待ち釈明会見をいたします【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルク】

【#魔王様の宴】凸待ち釈明会見をいたします【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルク】

：釈明会見草w

：結局声真似なんだっけ？

：声真似だけど詳細不明

：配信の背景がいらすとやで草

：テレビの謝罪会見みたいw

：無駄に背景凝ってて草

「えー、では…… 本日はお忙しい中、我、ニーナ・ナナウルクの釈明会見にお集まりいただき、えー、ありがとうございます。

これより、我が先日行いました、凸待ち配信の詳細について、えー、ご説明したいと思います」

：草&草

：カメラのフラッシュまで再現してて草

：ちゃんと左上に注意書きあつて草

：wwwwwwwwww

：※フラッシュの点滅にご注意ください

：おもしれー女

：演出で腹筋崩壊次郎なんだがw

：ほんとおもしれー女w

配信を開始し、困り眉の顔をしたニーナの立ち絵をとぼとぼと登場させる。

イメージするはニュースでたびたび行われる謝罪会見。記者団に囲まれてまるで断頭台へ向かう当事者。

別にニーナ自身はそこまで悪いことはしていないと思っているが、

今回はそういうテイストの配信で行こうと思う。これも一種のエンターテイメント。

「えー、では、恐縮ながら、席に座らせていただきながら、進めさせて、えー、いただきたいと思います。」

……よつこいしようち

：そのしやべり方なんなんwww

：いちいち「えー」って言うな

：立ち絵細かく動かしてて草

：こころなしか笑いをこらえてる？w

：ちよいちよいネタが古いんだよw

：空気ヒエツヒエで草

『質問よろしいでしょうか？』

「あ、はい。ではそちらの女性のかた、どうぞ」

『なぜズルをしてまで凸待ち配信をしたのでしょうか？』

リスナーの中には、本当に魔王様がコミュ障改善したとピュアに信じた人もいたんですよ！』

：記者団の音声も用意してて草

：この記者の声も魔王様なんだよな……

：1人おままごと

：記者も魔王か？

：アルティメット一人遊び

：イマジナリーフレンドかな？w

：自作自演魔王

：会見も自作自演で大森林

「はい。えー、純粹に信じてしまった方もいると、たしかに、聞いています。」

コミュ障がそんなに簡単に改善するなら苦労ないじやろ、と言いたいですが、ピュアツピュアな臣下には、本当に申し訳ない。メタル男並にそう思っております」

：なんやねんその態度

：煽ってるのか謝罪してるのか…w

：完全に煽ってて草

：本当に申し訳ない（笑）

：謝罪する気なくて草w

『で、何でこんなことしたんですか！ 国民は怒っているんですよ！』
「はい、えー、我は、皆様に楽しんでいただきたいと思ってこの配信を企画いたしました。」

コミュ障な我が、なぜか平然と他のライバーと話す。それは皆様にとつて、とても衝撃的なものかと存じます。

なぜだ？なぜだ？と皆様は混乱して、後日、我がネタばらしをする。そんなちよつとしたイタズラだったんです。かわいいかわいい我がするそんなイタズラに、リスナーはメロメロになることは自明の理であり、火を見るより明らかであります」

『なるほど……つまりはみんなに楽しんで欲しいがために、このような行動にでたと』
「そのとおりです」

『分かりました。そういう理由であれば国民も納得すると思います。』

魔王様の素晴らしいお心遣いに感服いたしました。以上です』

：記者団、魔王軍の回し者じゃんww

：「以上です」じゃねーよ！w

：もっと追求しろよw

：完全に回し者で草

：さすがは一人芝居

：こうして歴史が捻じ曲げられるんやな

：プロパガンダかな？

『魔王様、わたくしもよろしいでしょうか？』

「えー、はい。では、そちらのハンサムな男性の方、どうぞ」

『そもそも、あの凸待ち配信は本当に魔王様の声真似でやられていたのでしょうか？』

あまりにも声真似の精度が高く、
“魔王様はどれだけ多才なのか”、
“天は二物を与えずぎイ！”、
“魔王様は天才だ”、
“そういつた”

驚きの声が散見されると思うのですが』

「はい。あれは我の声真似です。」

より正確に言うのであれば『コエモシヤル』という異世界の魔法になります。中級魔法に分類され、声帯を一定時間魔法的に変化させる魔法ですが、ここまでの再現度は私の技量の高さ故です』

『なるほど。魔王様が天才だからできるわけなのですね…… 今のはメラオーマではない、メ○だ、のようなものであると…… さすが魔王様です。尊敬の念を禁じえません。以上です』

：だーかーらー！ w w w

：完全に魔王様よいしょ会见で草

：以上じゃねーって w w w w w

：ていうか、男の声もだせるの!?

：魔王様こんなイケボだせるんか！

：さらつと男性ボイスも出せる事実には驚愕

：いやでもすげー特技だな

：普通にものまね芸人として食っていけないな

：→コミュ障がTV出れるわけないだろ定期

：かなしい

『ごちらもよろしいでしょうか?』

「はい、では精悍な顔立ちのおじさま、どうぞ」

『今回はちゃんとキラキラライブ本部に話を通していいのでしょうか?』

以前にも、レーペックス配信において会社の許可なく無断でおてて配信をしてマネージャーに怒られたのでは? 国民は怒っていますよ』

「はい。レーペックス配信の件では世間の皆様にご心配をおかけいたしました。大変失礼いたしました。」

今回の凸待ち配信の件につきまして、私のマネージャーと度重なる協議を経て、実行に移っております。また、マネージャーを通じ、キラライブ上層部にも話がいつていることを申し添えます」

『わかりました。過去の失敗を糧に、次へ活かす。』

成長できて偉いです。グリフィントールに5000兆点あげた

いと思います。以上です』

：ふぁーw w w w w

：グリフィンツールインフレしすぎw

：魔王様グリフィンツールなのか…

：絶対あんたスリサリンやろ…

：完全に魔王軍が用意した記者団で今年はじめて笑ったw

：今年初笑い兄貴は来年もつといい年過ごして

：このハスキーいけおじボイスも魔王様なん!?

：おじさまボイスも良いな

：ていうかもうボイス販売してくれ

「さて、他に質問は…」

まだまだあるようですね。もう少し会見を続けましょうか」

18 配信目 【#魔王様の宴】凸待ち釈明会見をいたします【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】2

「では、その我並にかわいい女性のかた、どうぞ」

『会社への報連相報告連絡相談が出来ていたことは非常に素晴らしいのですが、声真似をしたライバーへの連絡はしていたのでしょうか？

ものまね芸人も許可なくやる場合も多いですが、勝手に声真似されると困るライバーもいると思います！ 国民は怒っています！ そのあたりについていかがでしょうか？』

：国民は怒っています（）

：怒っています（にこやか）

：絶対怒つてないやろwww

：終始よいしよなんですそれがそれは

：記者が1ミリも非難するきなくて草

「はい、えー、国民の皆様には大変、申し訳なく思っている、えー、次第で、あります。」

声真似をしたライバー本人に、連絡はしておりません。しかし、各ライバーのマネージャーさんには事前にご連絡させていただき、あらかじめマネージャーさんには許可をとっていることを申し添えます『なるほど。ではなぜ本人に連絡をしなかったのでしょうか？』

「普段、我はコミュニケーション障ゆえが故に、他のライバーさんとの絡からみがありませんが、ライバーさんにもイタズラをプレゼントし、一緒に楽しんでいただけらと思った、えー、わけであります」

『つまり、他のライバーさんに楽しんでほしいから。そういう純粋な心から、本人に連絡をしなかった。』

そして、ライバーとリスナーを巻き込んだ、一大イベントへと昇華したかった。そういうことでしょうか？』

「全くもって、そのとおりでございます」

『魔王様の思慮深さに私、脱帽でございます。お答えありがとうございます』

いました』

：マネージャーには許可もらってたんか

：まあ最低限のラインは守ったか

：よいしよを欠かさない記者団

：記者団いっつも感服してんな

：ノゾミちゃんのASMRの件は何で知ってたんや

「ん？ ああ、えー、今の件について補足、させていただけます。

我は凸待ち配信中に『ノゾミちゃんがバイノーラルマイクを自分用には持っていない』というお話をしましたが、これはノゾミちゃんのマネージャーさんへチャットで事前インタビューをした際に知りました」

：インタビュワー

：なぜ事前準備がしっかりしてるのに凸待ち3人目でバレたのか

：事前調査しつかりやつてるやんwww

：すぐに看破した勇者エ……

『魔王様ー！ 今の件に関してご質問よろしいでしょうかー！』

「はい、どうぞ」

『白月ノゾミさんのマネージャーに事前インタビューをしていたとのことですが、天使や勇者にも同様にマネージャーへのインタビューをしていたのでしょうか？』

「はい、そのとおりです。

ちなみにトウウィッターで凸待ちの告知をした際、10人くらい凸待ちする旨の発言をしたことから分かるかもしれませんが、我は今回、10人分、各マネージャーさんへのインタビューをし、また、各ライバーの動画を視聴し、調査をしておりました」

：10人分の努力を一瞬で葬り去る勇者w

：やっぱ勇者が魔王を倒すんやなwww

：悪は敗れるwww

：正義は必ず勝つんやで

：勝ったほうが正義やしな

：ていうか10人分も声真似できるんか……

『ちなみに、他には誰を予定していたのでしようかー?』

「そうですね…… 勇者と天使のあとには3期生の近野千香ちかのちかさんや、立花十華たちばなとうかさんを予定してりました」

『なるほど。魔王様の完璧な計画を瞬時に看破する勇者はやはり恐ろしいですね。』

今回の件で、我々魔族一同、より気を引き締めなければと思いましたが。以上です、ありがとうございます」

「はい、ありがとうございます」

：我々魔族……? 妙だな……

：記者ついに化wけwのw皮wをw

：こいつらwww

：ついに我々魔族とか言い出したwww

：完全にサクラやないかwww

：草

『魔王様!・ そもそも本物の勇者が凸待ち配信に来てしまったのはなぜでしょうか?』

本来、本物の勇者はゲーム配信中であり、また、凸待ち配信の告知もゲリラ的であったことから、勇者が来てしまうことは想定外だったと思うのですが』

「はい、良い質問ですね。

まず前提としてお話しておきたいのですが、他のライバーさんにバレルことは、我としても想定内です。自分は凸待ち配信に出演していないのに、画面には自分がいて、しかも喋っている。不思議に思うのは当然ですね」

『つまり、勇者が凸待ち配信に来てコメントをすることも想定内であつたと?』

「いえ、それについては想定外です。

凸待ち配信を開始してすぐに他のライバーの方からコメントがあつては、企画が1分で崩れてしまいますよね？

ですので、私はキラキラライブの各ライバーのスケジュールを確認し、配信スケジュールが私の凸待ちと被る人を意図的に抽出し、その人らを1人目〜5人目くらいまでに設定していました」

『ということは、凸待ち配信の1〜5人目まではバレルことを想定しておらず、6〜10人目でバレル分には想定内、ということですね。』

魔王様の明敏な頭脳に感服いたします。しかし、そうするとなぜ勇者はゲーム配信中であるにも関わらず、凸待ち配信にコメントできたのでしょうか？』

「私も気になり、凸待ち配信終了後、勇者に直接チャットでなぜ凸待ち配信に来られたのか問いたしました。

すると、あやつなんて言ったと思います？

『急にゲーム配信を切り上げてニーナちゃんの配信見たほうが良い気がしたから行ったの』ですって。

え、普通に意味分からなくね？

我はそう思いました。

リスナーの伝書鳩「○○（他のライバー）が△△（配信してるライバー）のことを??って言ってたよ」というようなリスナーによる伝言行為。その配信の主役はもちろん配信をしているライバーなので、伝書鳩行為を不快に思うリスナーや配信者は多い。双方の許可がないなら基本的に迷惑行為になるのでやめたほうが良い。すなわち配信中の伝言行為があつたならまだ分かりますが、そういったことは一切なかったそうです。我自身も伝書鳩行為がなかったことをアーカイブ動画にて確認いたしました」

『勇者のマネージャーがうっかり漏らしてしまったとかでもなく、単なる虫の知らせで来たと?』

「はい、そうです。

勇者というのは総じて幸運値が高い傾向にあり、また直感に秀でている者が多いです。しかし、レイ・ブレイブは例外中の例外。いや、規格外と言ったほうが良いかもしれません。本当に人間なのか甚だ疑

問であります。そのくらい意味不明です。たすけて」

：ゆwうwしwやw

：勇者君さあ…w

：やはり勇者は人間やめてる

：直感でそんなピンポイントにくる？w

：ユウシヤコワイ

：魔王様助け求めてて草

：あの勇者目玉のスペアあるしな

『なるほど…… 魔王様の計画を台無しにするなんて、勇者はやはり許せないやつですね…！』

「それについては我から補足させてください。

先程、凸待ち配信終了後、勇者とチャットで会話したというお話をしました。その際話の流れから、勇者に今回の企画内容をお伝えしました。

勇者からは『私のせいで配信が終わってしまったって本当にごめんなさい』『反射的にコメントしてしまってごめんなさい』という旨の謝罪をすでにチャットで受けています。

まあ、そもそも我がライバー本人に意図的に企画を話していなかったことに端を発しているのです、ぶっちゃけ我の自業自得なのですが、勇者の名誉のためにも一応、ご報告申し上げます」

：まあぶっちゃけ企画知らなかったら意味不明だしな

：事故は起こるさ！（機関車並感）

：→トーマスさんはお帰りください

：敵に対しても貶めることはしない魔王様さすが

：事故だよ事故

『敵である勇者に対してもその真摯なスポーツマンシップ…！ さすがは魔王様です！』

……もしかして、勇者だけでなく、天使も魔王様の凸待ち配信のトリックを見破っていたのでしょうか？』

「いえ、天使はスケジュール通り、自分とリスナーの性癖暴露大会をしていましたよ」

：天使 w w w w w

：天使さんさあ w w w w w

：おい天使 w w w w

：w w w

：あいつ1時間ずっと性癖の話で喋りっぱなしだったな

：天界は恐ろしいな

「他にご質問はよろしいでしょうか？」

……大丈夫なようです。それでは、私の凸待ち釈明配信は、これにて一区切りとさせていただきます。皆様の貴重なお時間をいただき、ありがとうございました」

『魔王陛下バンザイ！』

『バンザイ!!』

『魔王様バンザイ！』

『バンザイ!!』

：完全に正体現してて草

：記w者w団w

：正体現したわね

：バンザイ

：釈明……会見……？

：拍手喝采で草 w w w

19 配信目 【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達
P a r t . @ * 【キラキラライブ】

【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達 P a r t . @ * 【キラキライ
ブ】

・
・
・

458 : 名無しの下級臣下 I D : q J q + + 3 Z j 5
釈明配信見終わってやつとネタが分かってスツキリした

461 : 名無しの下級臣下 I D : Y g Y O Z + p R i
ネタが分かった今でも理解できんわ：
なにあの声真似…… あれもう本人だろ

463 : 名無しの下級臣下 I D : 5 7 7 J t e T W T
え、ていうかき、釈明会見の男性ボイスも魔王様なの？
流石に男性ボイスは違くない？
普通に考えて性別違う声出せなくないか

464 : 名無しの下級臣下 I D : 3 f p 8 l S x / L
>>>463

釈明会見の男性ボイスも魔王様だぞ
トウウィッターで本人がそういつてる

ニーナ・ナナウルム
@ n i n a | n a n a u l m

疑問に思っておる者が多いようじゃから追加で補足するが、会見中
の男の記者の声も我の声真似じゃ。

まあ正確には『コエモシヤル』じゃが。我の立ち絵が反応しないよ

うにリップシンクを適宜切りつつ生アフレコしてたわけじゃない。さす我。

468 : 名無しの下級臣下 ID : L6buJfEEc

>>464

まじか…

472 : 名無しの下級臣下 ID : ei7/JLNBs

>>464

コエモシヤルを譲らず世界観を守ってるのすこ

474 : 名無しの下級臣下 ID : T9zaNMOfk

>>464

さすまお！

リップシンクもちゃんと切つててえらい！

477 : 名無しの下級臣下 ID : HT+fEWnkU

そもそもの疑問なんだけど、女性が男性の声って出すことできるんか？

481 : 名無しの下級臣下 ID : dmaCJhnt7

>>477

声の低い女性もいるやろ？

あと、世の中には両声類りょうせいるいという人種がいてじゃな…

485 : 名無しの下級臣下 ID : 9oyZPn7ZA

両声類とか初めて聞いたわ

なんぞ？

486 : 名無しの下級臣下 ID : rn3HXEHhn

>>>485
gg^グrk^レs^{カス}、と言いたるところだが同じ下級臣下のよしみで教えてやる

両声類つてのは、男声も女声も自在に操れる人種のことや。
もちろん両生類からきてる

487：名無しの下級臣下 ID：A o H p D p T E W
やさしいせかい

490：名無しの下級臣下 ID：9 o y Z P n 7 Z A
>>>486

サンガツ！

492：名無しの下級臣下 ID：r N / O n / M s Q
やさいせいかつ

494：名無しの下級臣下 ID：3 7 0 e 6 S 0 + 8
ここの臣下達、V t u b e r s レの中でも群を抜いて民度良いと思
うわ

ここに住み着いてから快適なんじゃあ…

497：名無しの下級臣下 ID：2 5 F t O / d y u
魔王様という圧倒的カリスマ存在がトップに居るからな

501：名無しの下級臣下 ID：h r R b V Z i u s
圧倒的カワイイ存在の間違いダルルオ?!

502：名無しの下級臣下 ID：f t Z Z 1 K f Q I
魔王様の声真似って一卵性双生児なみに本人に似てるだろコレ…

506：名無しの下級臣下 ID：y k C O v U / r Z

>>502

ワイ、大学で音響を研究している准教授

真面目に魔王様の声帯を研究したい

508 : 名無しの下級臣下 ID : P F I c V R d 4 T

魔王様を研究材料のモルモットにするなど言語道断

神秘の隠匿の禁を犯すな

509 : 名無しの下級臣下 ID : z D 5 g u e D D Y

お前を頃す(デデーン！)

513 : 名無しの下級臣下 ID : 9 + 8 6 n u V I D

凸待ち配信で、なんていうかいい夢を見させてもらった気分

いつか魔王様が声真似1人おままごとじゃなくて、本当にコミュ障

治して魔王様と他ライバーの織りなすてえてえ空間を見ながらゆっ
くり息を引き取りたい

515 : 名無しの下級臣下 ID : G e Q b v 0 8 b d

わかる。

分かるけど生きて

519 : 名無しの下級臣下 ID : p i 2 u r C D i F

『声真似1人おままごと』ってなにげに辛辣しんらつではないか？

ボブは訝うぶしんだ：

522 : 名無しの下級臣下 ID : / A v L w u W e c

>>519

事実だとしても言っつて良いことと悪いことがあるよな。

事実だとしても。

524 : 名無しの下級臣下 ID : X U v x o Y 2 W +

>>522

なぜ2回も言った！ 理由を言え！

527：名無しの下級臣下 ID：HlfhzCD1L

最初凸待ち配信って聞いたときはびっくりしたけど、蓋ふたを開けたら
1人おままごと。

これはこれでとっても面白くて良かったわ

528：名無しの下級臣下 ID：TlChD1/CS

>>527

凸待ちズル配信がバレてあたふたしてる魔王様カワイイペロペロ
したい

530：名無しの下級臣下 ID：LYTFqSR01

この凸待ち配信絶対Vの歴史に残るだろ

532：名無しの下級臣下 ID：DWNwGWEQN

釈明会見も凸待ちに負けず劣らずよかった

535：名無しの下級臣下 ID：+VpLQEO R/

釈明会見の魔王様の口調ツボなんだが、わかる？

539：名無しの下級臣下 ID：hXv+3VTVJ

>>532

分かる

541：名無しの下級臣下 ID：wwaxlhazv

終始丁寧な口調で草だったわw

542：名無しの下級臣下 ID：KXMeF0aB

のじゃロリさんのことを忘れないであげて

544 : 名無しの下級臣下 ID : /R o + x R x Q L
完全にのじゃロリじゃない魔王様新鮮で面白かった

546 : 名無しの下級臣下 ID : 2 C D 9 x C e K P

釈明会見で、勇者が魔王様のところにコメントしたのは勇者の超感
覚のせいって聞いて草生えて林はえて森だったわ

547 : 名無しの下級臣下 ID : m i 3 q y B B V 9

勇者いっつも人間やめてんな

549 : 名無しの下級臣下 ID : H I B E z Q L M m

勇者はたぶん本当に人間じゃなくて、ニュータイプかなんかなんだ
よ知らんけど

551 : 名無しの下級臣下 ID : R 8 K r Q G U V B

ええ!?

ってことは、天使もニュータイプなんですよね当然!

553 : 名無しの下級臣下 ID : D q R Q r s j O D

>>551

それがですね、奥さん。あの駄天使そんな凸待ち配信があったとは
つゆ知らず、裏で性癖暴露大会してたんですよ

555 : 名無しの下級臣下 ID : j C Y g m T e o 8

天使の配信全然見てないから知らんけど、なにやってるんやアイツ
……

558 : 名無しの下級臣下 ID : A h I r Q Q O 5 n

>>555

凸待ち配信の日は、好きなエロ漫画家のおすすめ作品の紹介してた

ぞ

どれも特級呪物並の変態性癖漫画や

562 : 名無しの下級臣下 ID : mQ6f4fk8+

なんなら紹介してたエロ漫画の作者がコメント欄に現れて大盛り
あがりやったな

564 : 名無しの下級臣下 ID : IfSZF6oeA

盛り上がり盛りに盛り上がり、予定時間の3倍配信したで

567 : 名無しの下級臣下 ID : 3UCUiEDui

あいつほんと我が道を征くな……

568 : 名無しの下級臣下 ID : 3bfdgI4lU

天使だけ見てる世界が違いますね…

570 : 名無しの下級臣下 ID : LrMe2q9qM

マオウサマ バンザイ!!!

574 : 名無しの下級臣下 ID : g+pbpXm6X

記者団(魔王軍)すこ

576 : 名無しの下級臣下 ID : q663I6Hmb

最後の魔王様万歳のところで飲んだコーヒーこぼした

580 : 名無しの下級臣下 ID : L0QfyD7yn

万歳っ!ばんざああい!!(魔王軍)

581 : 名無しの下級臣下 ID : moBZDZTiA

(^q^)マオウサマバンザイ!

20 配信目【I WANNA BE THE SATAN】鬼畜ゲーをプレイするのじゃ！【キラキライブ／ニーナ・ナナウルム】

「I WANNA BE THE SATAN」鬼畜ゲーをプレイするのじゃ！【キラキライブ／ニーナ・ナナウルム】

：(ゝqゝ) マオウサマバンザイ!!!

：(ゝqゝ) マオウサマバンザイ!!!

：アイワナじゃん

：(ゝqゝ) マオウサマバンザイ!!!

：クリアできるかな？

：記者団おおいな

：へんに記者団定着してて草

「さあ、お主ら！ 今日鬼畜ゲーと名高いアイワナの派生作品『I WANNA BE THE SATAN』をやっていくぞ！」

海外のとあるプログラマーによって作成された、PC用フリーアクションゲーム『I WANNA BE THE GUYS』。通称アイワナ。

どう考えても権利関係的にアウトな素材が使われていたりするが、一応フリーゲームとして配布されている。

理不尽なトラップによる死因が多い鬼畜ゲーとして名高いが、随所に様々なゲームのオマージュが散りばめられており、思わずフフっとなってしまう。そんなセンスのあるトラップが日本人にも受け、昔ニヨニヨ動画で大きく流行した……らしい。

らしい、というのは、実のところ我はあまりアイワナについて詳しくない。

鬼畜ゲーであるというのはなんとなく知っておるが、プレイしたことはないのでないのじゃ。

今回はそんな『アイワナ』に影響を受けた人が作った派生作品の一つ、『I WANNNA BE THE SATAN』を実況プレイする。

『I WANNNA BE THE SATAN』を直訳すれば、『私は魔王になりたい』。

一応主人公が魔王になるために旅をするという設定らしいが、ぶっちゃけストーリーなんてアイワナ系にはあつて無いようなもの聞いておる。

アイワナ派生作品のタイトルは慣例的に『I WANNNA BE THE ○○』とすることが多いらしいので作者もあんまり考えずSATANにしたのじゃろう。

「じゃあ、早速プレイしていこうかの。まずは難易度選択か……」
難易度はEASY・NORMAL・HARD・NIGHTMAREの4つじゃな。

難易度の違いで何が変わるのかの説明が選択メニューに無いが、うーむ、どれが良いかのう？

「ま、我つてば既に魔王じゃし、アイワナやったこと無いけど最高難易度のNIGHTMAREで問題ないじゃろ」
ほい、つとNIGHTMAREを選択。

：あ

：あーあ

：やらかし

：もうクリアできないねえ

：あー：

「え、なんじゃなんじゃ？」

我まだ難易度選択しただけなんじゃけど？」

：その難易度、セーブ出来ないぜ？

：セーブポイントなくなるよ

：ノーミス前提や…

：変更したほうがいいよ

：せめてHARDのが

：難易度つてセーブポイントの数の違いだけだぞ

「まじか…… まあでも逆説的に言えばノーミスでクリアすれば良いのじゃろう？ よゆうーじゃよゆうー 我、魔王ぞ？」

：フラグ

：涙目魔王期待

：レーベックス上手いしワンチャン？

：レーベックスとはゲーム性全然違う

：そういえば権利関係大丈夫？

：あーそういえば配信してOKなんか？

「ん？ ああ、心配ぐ無用じゃ。」

たしかに主らが心配するように、アイワナ系は権利関係的にアウトなものも多いが、I WANNABE THE SATANはアイワナ系にしては珍しく、ドット絵からBGM、サウンドエフェクトSE、全て作者の自作じゃ。

他作品のオマージュやらパロディやらもあるが、パロディとして許容される範囲のものしかない……と私のマネージャーからは聞いておる。

加えて作者がQ&Aで『You are free to stream or create videos of I WANNABE THE SATAN. You are also free to monetize your videos in all the standard forms of video monetization. Enjoy!』と言っておるように、配信も許可されとるし、収益化も許可されておる。まあ今日の配信は収益化しておらぬが」

：発音良すぎて草

：全然話聞いてなかったけど英語の発音綺麗すぎてびっくりした

：ちゃんとマネにも許可もらってて安心

：英語つよつよ魔王様

：英語得意やったなw

：むしろ配信可能なこれくらいしかないしな
：ぶっこ抜きないんだ

：サタンって全部作者が自作してるのか…
：作者ってかサークルで作ってたな確か

「さ、NIGHTMAREでがんばって征くぞー。

ふむふむ、Shiftキーでジャンプで、Zキーで銃攻撃、方向キーで移動じゃな」

ゲームが始まってまずは操作感を確かめてみる。

特に癖もなく、シンプルな操作でいい感じに自キャラが動いてくれる。ジャンプは2段ジャンプまでできるようじゃな。

I W A N N A B E T H E S A T A Nは2D横スクロールアクションで、簡単に言うなら某マリオ兄弟のゲームみたいな感じ。マリオ兄弟のようにジャンプして障害物を飛び越えたりもするが、主人公は最初から銃を持っているので、それで敵を倒すらしい。

「とりあえず1面は敵が出てこんのかのう？ ま、このステージはチュートリアルみたいなものじゃろう」

左上のところに行けば次の面に進む感じじゃな。

右に進んで、リンゴがなっている木々を抜けて、今度はリンゴの木の上の足場を左上に行く、という感じで大丈夫じゃろう。

「最初は簡単じゃな。

横に進んで…って危な！ え、急に木になってるリンゴが落ちて来たんじゃけど?!?!」

：よく避けれたな今の…

：魔王様すげ

：初見でリンゴアタック避けるのか…

：チツ

：避けやがったw

「なるほどじゃな。これが鬼畜ゲーたる所以か。」

しかーし！ 我が一枚上手だったようじゃな！ 魔王にはそのよ
うなザコトラップ通用せんわ！ ふははははは！

なんじや意外と大丈夫そうじゃないか。

NIGHTMAREにしてみましたって少し心配しておったが、この程度であればOKじや。それに、今でリンゴが木から落ちてくるのは分かったからの。落ちてくると分かっているものを避けることなど容易たやすいわ。

「ほいほいーっと。らくらくリンゴの木は突破じや。」

全部のリングが落ちてくるわけではないのか。ま、次はリンゴの木の上の足場を渡って左上の扉のところに行けばよいのじやろう？

簡単じやな！ 鬼畜ゲーとは名ばかりではないか！ ふんふーん♪」

…あ、ここは…

…(…)(…)(…)(…)

…得意げ魔王様たすかる

…鼻歌すこ

…ドキドキ

「ふんふーん♪ よつ…… ヴェア!？」

フア?!

なんじや今の?!?!?

木の上の足場を渡っていたら今度は木になってるリンゴが 〴〵上に

落ちてきた〴〵んじやけど!!? 死んだんじやけど我!?

「なんじや今の?!? リンゴがなぜ上に落ちてくるのじや!?

重力仕事してないじやないか! こんなアイザック・ニュートンが驚きすぎて冥界から復活してしまうじやろ?!」

…草w

…予想通りの反応で安心した

…凄い声でたなw

…ぐえあ!

…ニュートン「?!」

…w w w w

…w w

…こらニュートンさんもビックリですわ

…ニュートン「えー…」

：ニュートン「ワシに言われても…」

：w w w w

：仕事してない重力さんサイドに問題がある

「スウー……」

しかも死んだら最初からか……なるほど。難易度NIGHT

MAREにしたからセーブポイントは今後一切出てこない。つまり、死んだらまたここからか……

なるほどのう……」

我は思わず天を仰いだ。

21 配信目「I WANNA BE THE SA
TAN」鬼畜ゲーをプレイするのじゃ！【キラキライ
ブ／ニーナ・ナナウルム】2

「また—— 最初から、じやのう……」

：すげえ哀愁ある感じ出すやん……w

：魔王様、そろそろ休憩しよう？

：悲壮感がやばいwwww

：親の顔より見たリスポーン地点

：もつと親のリスポーン地点見ろ

：親のリスポーン地点ってなんだよ

通算何回目の死じやろうか。

100を超えたあたりからもう、数えるのをやめてしまった——。

この風景も随分と見慣れてしまった。

……というか何じゃよ?!

噂に違わぬ鬼畜ゲーじゃな！ ビックリじゃわ！

別に良いのじゃよ？ リンゴが上に落ちてても。

重力さんだつて、時には疲れて仕事をしたくないときもあるじやろ
う。そりゃあしようがない。でもな、リンゴが我にホーミングしてく
るのはあかんじやろ。

まあいいよ。

百歩譲ってリンゴはそういう危険な地球外生命体だとしてよう。

じゃが、この世界のあらゆるものは主人公に敵しすぎる。

地面に設置された三角形の『針』は火星へ旅立つロケットのように
突然空へ飛び立つし、ていうか、そもそも何で地面に大量に針が設置
されてるんじや。

歩いていたら通路の幅めいっぱいの大きさのトゲトゲな壁が高
速で主人公潰しに来るし……

向こう側にジャンプして渡ろうとしたら足場が1マス突然動いて
ヒョイツという効果音とともに主人公が死ぬし……

そんな過酷な世界にもめげずに、我は先程2面のボスまで攻略した。

さすが我。

セーブポイント皆無の難易度NIGHTMAREで素晴らしい戦果じゃ。

「なあ、このゲーム知っておる者がおつたら聞きたいんじゃないが、我さっき2つ目のボス倒したじゃろう？ クリアまであとのくらいなのじゃ？」

：ボスつて4〜5体だっけ？

：ボスは確か5体

：後少して半分くらいかな

：たぶん半分くらい

：サタンは若干短い

「了解じゃ。ふふふ、ならばクリアはできそうじゃな。

プレイ開始から既に10時間くらいか。そろそろ我も慣れてきたし、このままクリアまでぶっ通しで配信するのじゃ！」

：え

：まさかの耐久配信

：もう既に耐久

：流石に休憩しようぜ…

：10時間もやったんだから休憩したほうが…

「六花と天花にご飯とおやつあげたときに休憩してるから大丈夫じゃ。

いや、流石にちよつと疲れてきたのう…… ちよつと待っておれ」

：でしよう？

：突然席たつてどうした

：どした？

「じゃーん！ こんなときのために買いだめしてある『ポケモンエナジードリンク』通称モンエナなのじゃ！ ウエへへあ…w 夜ふかしの友にはこいつが最高なのじゃ…w」

：あかんw

：じゃーん。かわいい

：完全に目がイッてそうw

：ぐるぐる目になってるw

：魔剤www

：そなたもモンエナ教の敬虔な信徒か…

：かわいいからのあかん

：深夜テンションみたいになってて草

：キメてんだろ… くれよ…

「さあプシュツと開けて…ウエへへ…w ウエヒ…w

さあ、『I WANN A B E T H E S A T A N』よ！ そなた

をクリアするまで我は全力を持ってお主を相手取ろうぞ！」

・
・
・
・
・

「やった… ふふふ…

皆の者——！ やったぞ！ クリアじゃ!! クリアなの

じゃああああああ！」

：ついにやりおった

：ooooooooooooパチパチパチって拍手する様子を8（パチ）で

表すインターネット古来より伝わる表現方法

：oooo

：おめでとう！

：めでてー！

ついにクリアしたのじゃ！

コメント欄も『oooooooo』や『おめでとう』などのコメントが

高速で流れ始める。皆も我のこの偉業を祝福してくれておるよう

じゃ。

『Congratulations!』の文字とともに、エンドロー

ルが流れはじめる。

ああ—— 我は本当にこのゲームをクリアしたのじゃな……
なんと感慨深いものであるか——。

ちらりと部屋の時計を見上げると、朝の10時。えつと…… つま
り我は何時間ゲームやったのじゃ？

あれ、始めたのが土曜日の午前9時で、今が、えーっと、日曜日の
午前10時。

「我、25時間もこのゲームやっておったのか……」

：そうだよ

：昨日寝るまで見てて起きたらまだやってて草

：途中バケモンエナジードリンク飲み始めて心配した

：魔剤5本もキメてて草

：ナイトメアじゃなかったらもつと早く終わってたな

「ああ——！ 今、我、猛烈に、嬉しい！」

うおおおおああああ！ やったのじゃあああ！ 六花に天花！

見ておったか我の勇姿！ ほら、もつと近^{ちか}う寄れ！ ママが抱っこ

してやるぞ！

どうじゃった？ 我の勇姿？ ……そうかそうか！ いやあここま

で来られたのもお主らが我のことを癒してくれたおかげじゃ！ ほ

ら、よしよししてやるぞ！ よしよしよし〜」

：音声遠ざかってて草

：六花と天花抱っこしてクルクルしてそうw

：なにこのカワイイ空間

：くそ！ 画面が邪魔で魔王様のカワイイ姿を見に行けない

：よっほど嬉しいんやなw

：ナイトメアクリアするとは思わなかった

：ガッツあるな魔王様

「良し！ マネージャーにもクリアしたこと伝えるぞ！」

えーと『マネさん！ 我、アイワナをNIGHTMAREでクリア

したのじゃ！』っと「

：マネにも送ってて微笑^{ほほえ}ましい

：嬉しそうに報告する姪っ子かな？

：こんな娘が欲しい人生だった

いやあ、やばいのじゃ。

自分でも分かる。今の我、アドレナリンが出まくってて、最高にハイってやつじゃな！

この喜びをもっと分かち合いたい！

「そうじゃ！ 勇者と天使にもこの喜びをチャットで分けてやろう！」

：あら意外

：勇者たちと連絡とってるんだ

：大丈夫コミュ障でない？

：チャットだと交流あつたんだ

「ん？ ああ、この前の凸待ち配信があつた後、勇者たちとはなんだかんだチャットでやり取りする機会も増えてのう。まあまだ音声通話はしたこと無いのじゃが……」

：仲良さそうで何より

：うんうん（ニツコリ）

：チャットだと意外とコミュ障じゃないもんな

：文字だけならレスバもできるらしいしな

「とりあえず皆も25時間ご苦労じゃった。まあ流石に私の配信をずっと見ておった者はいないとは思うが、夜ふかししたものもおるじやろう。今日は身体をしっかりと休めるのじゃ」

：ずっと見てたぞ

：25時間ずっと見てましたがなにか？

：25時間ニキ意外というやん……

：夜の2時以降起きた試しが無いわ

：さすがに眠い……

：魔王様は体調大丈夫？

「私の体調か？ 全然大丈夫じゃよ。」

むしろ普段よりも快調かもしれないのお！ 途中からバケモンエナジードリンクを何缶か飲んだからか、目がギンギンにさえての！ w

集中力も増しておる気がするわい」

：草 w

：ヤバそう w

：モンエナは飲みすぎるとやばいから程々にな

：配信いつぱい見たいけど、身体は大事にね

「心配せんでも我は大丈夫じゃ。なんせ魔王じゃからな。

じゃあ、配信終了しようかの。皆の者、またなのじゃー」

：乙

：乙

：おつつ

：ノシ

この配信は終了しました。

「やっぱりまーちゃんなのかな……」

22 配信目 【告知】 臣下の皆に、重大発表があるの
じや【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】

【告知】 臣下の皆に、重大発表があるのじや【キラキラライブ／ニーナ・
ナナウルム】

：どうしたどうした？

：（～q～）マオウサマバンザーイ!!!

：（～q～）マオウサマバンザーイ!!!

：え、なに突然の配信でビックリなんだけど

：（～q～）マオウサマバンザーイ!!!

：記者団めっちゃいるな

：事前告知も何もなしで配信とな？

：重大発表……？

：はよ寝ろ

：怖い

んゝんゝッ！

いやあ、久々に緊張しておるな、我。

緊張のあまりトウウイッターでの配信告知し忘れて配信開始して
しまった。どうやらまだバケモンエナジードリンク5本が抜けきつ
ておらぬようじやの。

ま、今からでもトウウイッターで配信することを呟いておこうか。

……よし、これでOKじや。

「あー、あー…… 聞こえておるかのお？」

：聞こえてるよ～、～

：聞こえてるぜよ

：お、はじまった

：なんか声色が緊張してる

：アイワナ終わってすぐ配信？

：聞こえてますわ

：アイワナ終わったばつかやん
：(´q`´)マオウサマバンザーイ!!!
：え、まじで重大発表怖いんだけど

「よし、聞こえておるの。」

……ふふふ、大丈夫じゃ案ずることはない。偉大なる我の大躍進、その発表じゃ」

：大躍進？

：？

：なんじゃ？

：はよ寝ろ

：寝ろ

お、よしよし。

ようやつとコメント欄の皆も食いついてきたな。

ふふふ、皆の驚く様子が目に浮かぶわい。

「さあ、心して聞くがよい！」

我、なんと勇者と天使と、オフコラボすることにしたぞ！」

：はいはい声真似声真似

：あー、おk

：オフコラボ（1人）

：1人ならたしかにオフだな！ヨシ！

：まじで?!

：また1人おままごとするの？

：そろそろワイらも魔王様の精神状態が心配

：モンエナ5本のダメージが相当とお見受けする

あ、あれえ……？

コメント欄の反応が予想と違うのじゃが……???

コメント欄の9割くらいは疑っておるのじゃが???

もうちよつと「えー！魔王様すごい！」というのを期待して

おったのじゃが……

「え、いや、まじでやるのじゃけど……」

：うん。分かつてるよ

：そういう体やもんね

：生暖かい目で見ればええんやろ

：本当にやるの？

：りよーかい

「いや、まじでガチでやるのじゃ！

まじリアルガチじゃから！

信じてくれ！ この前の凸待ち配信で騙したことは詫びるから！

え、なに、このオオカミ少年のような状態は!？」

：信じろって言われても

：まじなん？

：無理があるかと思われま

：そんな嘘で騙そうなど、おハーブ生えますわ

：狼魔王

：→なにそれかっこいい

な、なぜじゃ……

いやまあ確かにコミュ障の我がいきなりそういうこと言い出すと信じ難いかもしれんが……

この前の凸待ち配信でそんなに皆は疑心暗鬼になっておるのかのう。

こんな少女の必死な訴えを無下に扱うとはなんて奴らじゃ。

……自分で少女とか言っちゃうの恥ずかしいな…… 前世と合わせ
て我、1,000歳以上なのに。

しかしどうしたものか……

私の折角の決意表明配信がまったく信じられないとは……

レイ・ブレイブ：

ニーナちゃんの言っていることは本当よ

…ふあ?!

…勇者参戦ッ!

…え

…マジなん?

…本物のアカウントじゃん…

リリイ:

本当なのだけ!

…え、マジ?

…まじ……………!?

:(;つ口)(ゴシゴシ。(口。え?)

…天使まで来たw

…まで、まだ信じるな

:(。口。)

…ふあーwwwwwwww

「おお、ナイスじゃふたりとも!

ふふふ、どうじゃお主ら? これで信じる気になったかの?」

…ほんとにオフコラボするんか…

…いま天使のトウウイッターみたけどマジっぽい

…Oh… (ネイティブ)

…勇者もオフコラボするってトウウイトしてる…

…どないしてこんな事になったと?

「いや実はな、アイワナ終わって、勇者たちと3人でチャットしてたの
じゃが、その時ふと、私の頭に素晴らしい案が浮かんだのじゃ! そ
う! 『オフコラボしよう!』とな!」

…ええ…

…? (純粋な疑問符)

…? 素晴らしい ○無謀な

…魔王様疲れてたのか…

…はよ寝ろ

…寝てないから脳みそバグってるやん

：そんなに死にたいの？

：話、きこうか？（・ω・）

：十字架たてるか

「まあまで。話は最後まで聞くもんじゃ。

ふふふ、我、そろそろコミュ障治ってきてると思うんじゃよ。もうすぐVtuber始めて2ヶ月じゃろ？

六花と天花のキャットフードやその他諸々は通販に頼らず、近くのホームセンターに我が直接行き、店員との金銭授受を経て購入しておく。店員さんとも会話しておるわけじゃ。

加えてこの前の凸待ち配信で思ったんじゃよ。こんだけシミュレートで勇者たちと話せているのなら、本番もできるんじゃね？とな。チャットなら全くの無問題なのじゃ。こりやもう大丈夫じゃろ」

：挑戦するのは良いことだけど：

：せめて普通のコラボを経てからに：

：いきなりオフは無謀ぞ

：なんでオフコラボからにしたんだ：

：せめてもう少し難易度低い人と：

「どうせやるなら、より高みへ。

ああ： 我はなんて向上心に溢れた素晴らしい魔王なんじゃ……

まっこと我は天才じゃのう！ ウワツハツハー！」

：ああ魔王様……おいたわしや……

：調子ノリノリ魔王

：そもそも魔王様天使たち見たことあるの？

：実際に会ったこともなからうに……

：会ったことないのにコラボ大丈夫なんか

「む……

そういえば、たしかに勇者や天使に実際に会ったことはないな。勇者や天使がどんな容姿の女子おなごか知らん。

チャットでオフコラボすることをまあ、ノリで決めてしまったわけじゃが、問題ない…… うん、問題はない…… あれ…… 大丈夫じゃ

よな……？　なんか急に心配になってきたんじゃけど……」

：ほらwww

：今からでもやめとき

：悪いことはいわんからまだ止めとけwww

：モンエナ抜けてきたなw

：冷静になってきてて草

レイ・ブレイブ：

今からでもやっぱり辞める？　ニーナちゃんの大丈夫なタイミングでOKよ

リリイ：

2週間後に予定してるけど延ばすか？

「い、いや、大丈夫じゃ。うん、何も問題はないのじゃ。我のこれまでの修行の成果を思えば不可能などではない。うん、そうじゃそうじゃ。ふふふ、問題はまったくないのじゃ。

それに魔王たるもの、一度交わした契りちぎを違たがえることなど、……あんまりあつてはならぬ。

……あれ、なんか変な汗かいてきた……　エアコンの設定温度間違えたかのう？　ハハ……」

：大丈夫かなこれ……

：不安しかない……

：天使が信用ならん

：マネージャーには言つてある？

「マネージャーに言つて許可はとつておる。

まあ連絡した時『え？』『……え？』って返信が来たけどのう。会社に諸々の許可は一応、勢いでとつてある」

：草

：至極まっとうな反応で草

：そらそうよ

：マネージャーが常識人で安心した

：マネとコラボで手を打つとけ

「案ずるな皆の者！ 我、昔はコミュ障じゃなかった話は雑談枠で散々したじやろう？ ちーちゃんと遊んでたときのような感覚を思い出せばよーじやよー！」

それにオフコラボまで2週間もあるんじや。なんとかなるじやろ！」

：大丈夫かなあ

：だれだよちーちゃん

：昔はコミュ障じゃない（当社比）

：フラグ乙

：これは一級フラグ建築士の才能ありですね

「そんなわけで2週間後にオフコラボなのじや！ 詳細は追って知らせる！」

「人違い…… じゃない」

2.3 配信目 てんこうせい

「はじめましてなのじゃな！ 我は■■■■じゃ！ 気軽に■■■ちやんと呼んでくれ。変な時期に転校してきたが、よろしく頼むぞ皆の者！」

うつむいて自分の机の木目模様を見ていると、元気な声が聞こえてきた。

ああ、そういうえば転校生が来ると昨日のH Rホームルームで先生が言っていた気がする。まあ私にはそんな事関係ないけど。

しかも何この口調。

現実世界で「のじゃ」口調の人とか初めてだ。

「それじゃあ、■■■さん。■■■さんの席は…… あそこの一番うしろの窓際の席ね」

「了解じゃ… おっと、了解です！」

私は顔を上げて、その『変な』転校生を見てみた。

肩まで有る、まるで濡鳥ぬれがらすのように綺麗な黒髪に、どこまでも見据えていそうな真紅の瞳。

幼い顔立ちだが、パーツ一つひとつが整っていて、可愛くて綺麗。

『了解じゃ』と『了解です』を間違えて言ってしまったようで、あはは、とからから笑っている。どうやら先生に対してはのじゃ口調ではなく、ちゃんと丁寧語で話すつもりらしい。

身長は低く、胸も控えめ。

まあ、俗っぽい言い方をすれば、ロリっ子だった。というより、本当に高校3年生なのだろうか？ 中学1年生というなら納得の身長だが、本当に私と同じ年なの？

転校してきていきなりこんな目立つ行動してこの子は大丈夫だろうか。

学校という閉じられた空間で、出る杭は容赦なく打たれる。

こんな時期に転校してきたというだけでもアレなのに、更に口調で悪目立ちするとは恐れ知らずなのか、世間知らずなのか。

まあ……別に私が心配することじゃないけれど。

あわよくば彼女が私の『代わり』になつてくれないかな……なんて。

……いや、私は何を考えているんだ。

はあ……私って最低だな。

何も知らないあの子が私のスケープゴートになつてくれないかな、なんて少しでも思ってしまった。

「■■■さん、なにその口調w ウケるんだけどw」

「ふっふっふー、変な時期の転校生、そして少し変わった口調。これ以上無いほどのキャラ付けじゃろう?」

「自分でキャラ付けて言っちゃうのジワるんだけどw」

「■■■さんのその髪型カワイイね!」

「これか? これはツーサイドアップという髪型じゃ。ロリっ子の我に似合っておるじゃろう?」

「ロリっ子って自分で言っちゃうんだ(笑)」

「その…… ■■■さんって、本当に高校3年生……?」

「まてまて、言いたいことは分かるが、歴れっきとしたJKじゃ! そう! 花も恥らうJKじゃ!」

それにほら、我身長は低いけど、威厳とか、あるじゃろう?」

「そんなドヤ顔で言われても…… 威厳かあ……」

「え、威厳…… 我無いのか……?」

転校生は先生に指示された席につくやいなや、周りの子達に矢継ぎ早に質問されている。

まあ、いいと思うよ。キャラ付けて自分で言っちゃうのはどうかと思うけど、アニメのキャラみたいで個性はたってる。

意外にもクラスの連中にはキャラ付けが上手くヒットしているらしいし。

……でも、やりすぎないようにね。
私みたいになっちゃ世話ないし。
そんなふうにし少し離れた席の彼女に思いを馳せて、私は再び自分の机の木目模様を目でなぞっていた。

*

転校生がうちのクラスに来てから数日が経った。

この短期間で彼女は驚くほど早くクラスに溶け込んだ。

あんな目立つ振る舞いをして、なおかつ男子とも仲良くやっている様子を隠そうとしない。女子に人気の隣のクラスのイケメン君とも仲良くしている。

普通なら女子の嫉妬心や反感を買っても良さそうだけど、彼女はそんなことにはならなかった。

クラスカースト上位の女子とも仲良くやっているし、授業と授業の合間の休憩時間にもクラスの男子たちと面白おかしく話をしている。

彼女はよほど世渡り上手らしい。

小さな身長も相まって、彼女はクラスのマスコットキャラクター的な位置づけになっている。

はあ……

私も彼女くらいコミュニケーション能力が高かったら、もっと違う学校生活があっただろう。

「■■ちゃん、今日一緒にお昼ごはん食べよう！」

「お、良いぞ良いぞ。学食でよいかの？」

「やった！ うん、学食にしよう！」

「え、なになに■■■■ちゃんとご飯食べるん？ 私らも混ぜてOK？」

「良いぞ良いぞ」

お昼ごはんもクラスの子たちと一緒に難なく食べている。

まったくもって羨ましいね。

まあ、私は今日も変わらずトイレの個室か、もしくは階段に座って

食べようかな。最近は暖かくなってきたし、トイレや階段で食べるのもツラくない。

ふと転校生の方を見る。

いつもどおり、からからと快活に笑って楽しそうだ。

「お、そうじゃ！　そこな眼鏡の文学少女。お主も一緒にお昼どうじゃ？」

「……へ？」

ちらりと転校生を見ていたら、ふいに目があつてそんなことを言われた。

……思わず変な声がでちゃったじゃん。

すると転校生に話しかけていたクラスカースト上位の女子が、あざ笑うようにニヤニヤしながら話し始めた。

「あー、■ちゃん。アイツは誘わなくて大丈夫だよ」

「ん？　どうしてじゃ。我、あの文学少女と喋ったことまだ無いから良い機会じゃと思つたのだが」

「アイツ、つまんない子だし、『ウザい』んだよねー。ねえ？」

「そーそーw」

「ふーん、そうなのか。じゃあ、お主的にはこのメンバーで良い感じかのう？」

「うん、皆で『楽しく』ご飯たべよう！」

カースト上位の女子たちはわざと私に聞こえるように、『ウザい』とか『楽しく』とか喋る。いつものことだ。そう……　いつものことだから気にする必要はない。

転校生もそれ以上なにも言わなくて良い。その女子たちに噛み付くところくなことはないから。

「……そうか。了解じゃ。」

ん？　お主、肩にゴミが付いておるぞ。……よつと、ん。OKじゃ」
「取ってくれてありがと。じゃー、またお昼のときにねー！」

話はおわつたらしい。

転校生にそう言うと、自分の席に戻っていった。

ちらりと時計を見るともうそろそろ2時間目の授業が始まる時間だ。2時間目はたしか数学の授業だったか。

数学の鬼山先生は鬼のように厳しいからね。さすがのクラスカースト上位でもお行儀よく、始業のベルがなる前に席に戻るようだ。

転校生はそんな女子を見送ると、ふいに小さく呟いた。

「……やっぱりのう」

何がやっぱりなのか。

はあ…… いけない。ついつい他人が喋ることを無意識に拾ってしまう。私のこの地獄耳は余計なことまで拾うのだ。

早く家に帰りたい。

「5千でいいからさ」

「ねえほら早く出してよ」

「ウチらも暇じゃないからさーw」

最悪だ。

放課後に呼び出しを食らったときから嫌な予感がしてたけど、お金をたかられるのは想定外だ。

いままではとにかく無視をされたり、ウザいとかキモいとか、わざと聞こえるように言われたり。そんなことぐらいだった。

こんなに直接的なものは始めてだ。

今日は特別虫の居所が悪いらしい。

今は放課後の、生徒たちの大部分が既に帰ってしまった頃。

今日は部活が全校的に無い日だし、先生も職員室にこもっているだろう。そもそも、校舎の中ならまだしも、校舎裏の端っこの方なんて誰も通りがからない。

まあこの女子たちもそれを見越してやっているに違いないけれど。

「今日さあ、■■■ちゃんに話しかけられてたとき、チヨウウザい顔してたの自覚ある？」

「ほんと、ニヤついててキモかったわーw」

「そんなキモい顔見せられた私達の気持ち分かる？ これはその感謝料ってわけ」

「そーそーw いしやりよーいしやりよーw 正当な権利なわけー」
間の悪いことに、今普通に5千円を持っている。

お金を持つていない、なんて嘘をついてやり過ごすこともできるかもしれないが、バレたらより最悪だ。

はあ……

もう普通に渡してしまおうか。

お母さんたちにバレたら財布を落としてしまったとか適当に言えば良いや。

この最悪な空間から一刻も早く抜け出したい。

私の心の中はそんな弱い思いで埋め尽くされる。

「ほうー……」

そんなふうにつむいて考えていると、ふいに頭上から声が聞こえた。

私を助けてくれるヒーローなんていないのに。

神様なんてこの世にはいないのに。

「放課後に4人で校舎裏か——」

ピンチにさっそうと現れる白馬の王子様もないのに。

悪をくじく魔法少女だつてこの世にはいないのに。

あるのはただ、弱肉強食の世界だけなのに——。

「——随分と楽しそうじゃのう。何をしておるのか、我にも詳しく教えて欲しいものじゃ」

小柄な少女がフェンスの上に座っていた。

肩まで有る、まるで濡鳥ぬれがらすのように綺麗な黒髪が、そよそよと風に揺れ、どこまでも見据えていそうな真紅の瞳はこちらを見下ろす。

弱い私が悪いんだ。

だから、助けを願うなんて烏滸おこがましい。

けれど、彼女の真紅の瞳に魅入ったとしても、それくらいは許してほしい。

だって、あまりにも綺麗だったのだから――。

24 配信目 わたしのまおうさま

「——随分と楽しそうじゃのう。何をしておるのか、我にも詳しく教えて欲しいものじゃ」

フェンスの上に座りながら、転校生はこちらをその真紅の瞳で見下ろしていた。

まるでアニメのワンシーンのような登場に私は脳みそが一瞬フリーズしたし、どうやら私のことをイジメている女子たちもフリーズしている。

意味が分からない。

いつからそこに居たのだろうか。全然気が付かなかった。

「……よつと。」

これ、何を呆けた顔ほうをしておるのじゃ。何をしていたか教えてくれるのか？」

転校生はフェンスから軽々飛び降りると、私をイジメているリーダー格の女子に、何も臆することなく言い放つ。

怖いもの知らずなのかこの転校生は。

リーダー格の女子は取り巻きの2人と目配せをしてどうしようか悩んで口を開いた。

「あー…… ■■ちゃん。別に、4人で仲良くお話してただけだよ。」

……なあ？」

なあ？と言いなながら、私をギロリと見てリーダー格が相槌を求めてきた。

もし、私がここで『違う』『喝上げされてる』なんて言おうものなら、このイジメっ子達は激昂げきこうするだろう。私へのイジメは後々、より苛烈になる。

いや、私へのイジメだけならまだいいけれど、この転校生へのイジメに繋がるかもしれない。

転校生が先生にこのことをチクったら、私に加え、転校生までイジメの標的になる。ただでさえこの転校生は目立っているんだ。

……苦しむのなんて、私一人だけでいい。

どうせ先生にチクったところで何も変わらないし、先生にばれないように、イジメはより陰湿なものになるに決まってる。

だから、ここでの答えは一つだ。

「……うん。話してただけだよ」

私の口から出た言葉はあまりにも弱々しかった。泣きそうだ。我ながら情けない。

けれど、これでいい。

助けを求めする必要はない。耐えてればいいんだ。

「……そうか。——本当にそうなのじゃな？」

転校生は目をすうつと細めてリーダー格を見る。

こころなしか声も低く、ドスが利いている気がした。

「ほんとほんと。ほら■■ちゃん、下校時間なんだから、お家に帰らないと駄目でしょー」

「そうそう、いい子は帰る時間なんだから」

リーダー格とその取り巻きはけらけら笑い転校生を帰そうとする。

今ここで帰れば何もしない、ここでのことは忘れろ、そう言いたげだ。

そんなイジメっ子達を一瞥いちべつすると、転校生は残念そうに深い溜め息をつく。

「はあ……なんて陳腐ちんぷな嘘なのじゃ」

「は？」

リーダー格は明らかに不機嫌な声で返した。

「陳腐な嘘じゃとっておる」

「……なにそれ。こいつだってお話してただけって言ってるじゃん。それとも何？ 証拠でもあんの？ ちょっとカワイイからって調子乗ってない？」

『5千でいいからさ』『ねえほら早く出してよ』『ウチらも暇じゃないからさー』

こんなことを言っておったのう？」

転校生はまるでミュージカルで歌う俳優のように、得意気に言う。

それは紛れもなく、先程イジメっ子たちが私に対して言っていた言

葉。

ニヤリと笑いイジメっ子たちを挑発した。

「ツ！……盗み聞きとか趣味悪くない？」

「さあ？ お主の肩に乗った、小さいなおまじないが我に教えてくれたのやもしれんのう？」

ギロリと睨むイジメっ子達を全く意に介さず、転校生は自分の右肩をちよんちよんと得意気に人差し指で叩く。

どういう意味だろうか？ 盗聴器でも仕掛けた？ でもイジメっ子の右肩にそんな機械はついてなさそうだし、変なものもついていない。そもそもそんなモノつけようとしたらバレるだろうし。

「……で？ 何？ 先生にでもチクる？ チクったらどうなるか分かってる？ 誰を敵に回すか」

「……くくく。カハハハハハ！ それは脅しのつもりか？ この我に？ いやあ、ククク…… 久々に片腹が痛いもう。

別にチクるつもりなど毛頭ない。

我が要求することは簡単じゃ。『帰れ』。そして二度とこのような阿呆あほうなことをするな。これだけじゃ」

「はあ？ なに言ってる——」

イジメっ子の言葉を遮るように、転校生は言葉をかぶせた。

鋭く、けれども慈愛をもった眼差しで。

「帰れと言っておる。」

……悪いようにはせんから帰れ。貴様の境遇に同情せんわけではないが、これは駄目じゃ。

……なんじゃ？ 不満か？

——これは命令じゃ。貴様らに拒否権はない。帰るのじゃ」

そのとき転校生のきれいな瞳が妖あやしく輝いた気がした。

本当にあの小さな転校生と同一人物なのか疑いたくなるほど、目の前の少女は威圧感が増していた。

いや、威圧感と表現するのは少し違うかもしれない。

私の語彙力では上手く言い表すことが出来ないが、オーラのようなものを感じた。

従わざるを得ない、絶対強者のオーラ。

「——ッ！ チツ、いくよあんたら」

「え、おい」

「おい、置いてくなって！ おいってば！」

そんなオーラに当てられたのか、リーダー格は一瞬ビクツと震えたかと思うと、そそくさ逃げ始めた。

リーダー格が逃げ帰ると同時に、取り巻きもあたふたといく。

あのイジメっ子3人を撃退しちゃったよこの子……

何者なんだ。

イジメっ子3人組が帰っていくのを見届ける転校生をふと見ると、両手を腰に当てて少し寂しげに怒っていた。

「まったく…… このようなことで自己を肯定しても仕方がないじゃろうに。」

ほら、文学少女。いつまでそのような情けない顔をしておる」

「……助けてくれて…… ありがとう」

私の喉から出た言葉は震えていた。

……ははッ、らしくない。大丈夫だと思っていたが、どうやら私は相当怖がっていたらしい。

両目に浮かんだ涙を拭って、転校生を見る。

「ん。それでよい。感謝を言える偉い子じゃ」

「……でも、私を助けないほうが良かったよ…… 貴女あなたきつとターゲットトにされちゃう」

「ターゲットとはイジメのターゲットか？ そんなこと、天地がひっくり返っても有りえんわ。」

……それにのう、私のクラスからイジメはなくなるぞ。良いか、これは予測じゃない。確固たる未来じゃ」

「貴女は強いね…… 私も貴女みたいに強かったら……」

「■■じゃ」

「え？」

「我の名じゃ。いつまでも『貴女』呼びは嫌じゃしの」

「え、ん？ 魔王……？」

「魔王じゃない！ ■■■じゃ！ まあ発音は似ておるが…… いやむしろ魔王で間違いないのじゃが… いやまあ、別に魔王呼びでもいいけど…… まあ主が呼びたいように呼べ。許す」

「じゃあ、■■■ちゃん。いや… それだと普通だし、まーちゃんって呼ぶね。……魔王様。ふふっ」

先程イジメっ子3人を相手取って毅然としていたこの小さな転校生があたふたしている様子がなんだかおかしくて、思わずくすつと笑ってしまった。

あんまり笑っては失礼かと思っていると、転校生がフツと顔を近づけてきた。

突然のことで危うく転びそうになった。急に顔近づけてくるのはびっくりするよ……

転校生はその小さく華奢な手を私の顔に伸ばし、まるで娘の成長を慈しむ母のように、転校生はともあたたかな笑顔を私に向けた。

「やつと笑ったな。お主はいつも暗い顔をしておったが、主の顔には笑顔が似合うぞ。きれいな顔をしておるのにもったいない」

転校生の手が私の伸びた前髪をさらさらと梳く。

私は自分の顔が熱くなるのが分かった。

まるで恋する乙女のように。

いや、いやいや。

相手は同級生の女の子だし。意味分かんないし！

落ち着け私。

「それで、主の名をまだ聞いておらんかったな」

「……ハッ！ んん… …■■■」

「そうか、じゃあ主はちーちゃんじゃな！ 主とは話が合うと思っておるのじゃ。明日のお昼ごはん、我と一緒に食べるように！ これは命令じゃ」

「えっ？」

突然のお誘いに思わず素っ頓狂な声を出してしまった。

「主がブックカバーに使っておるの、アレ、魔法少女ナナニカ・ニカニカの4巻初回限定特典じゃろ？ 我もナナニカのファンなのじゃ」

まーちゃんは去り際にこちらを振り向いて、まるでいたはずらが成功した子供のようにニシシと笑った――。

25 配信目 誰じやお主

【悲報】ニーナ・ナウルム氏、オフロラボまで一週間を切ってしまう。
私の脳内には某5ちゃんねるのようなタイトルが浮かぶ。

うん、やばい。

とつてもやばいのじゃ。

どうやばいかって？ そうじゃな…… すぐくやばいのじゃ。

「ああ、こんなんじやいかんのは分かかっておるのじゃがのう。」
六花に天花よ、我はどうしたら良いのかのう？」

ソファでゴロゴロしながら、六花と天花に話しかける。

あいも変わらず、小奴らはかわいいの。

近くに寄ってきた2匹をわしやわしやと撫でまわす。

「ニヤー」

「ニヤツ」

「そりや楽しく遊ぶだけでいいというのは分かるのじゃけど。それ
ができたら苦労しニヤいのじゃ」

分かる。分かるよ。

六花と天花が言いたいことはよく分かる。

オフロラボと言っても何も特別なことをする必要はない。勇者レイ・ブレイブと天使リリーの両名と楽しくお話をするだけで良い。そりや一分かっておる。

でも無理そうなのじゃ……。

2週間前、ノリで二人とオフロラボをすることに決めてしまった。

あの時は行ける気がしたんじや。なんて言うのかのう、アイワナをクリアしたもののだけが味わうことのできる万能感とでも言おうか。

で、まあ若干不安になりつつも、オフロラボまで2週間もあるし大丈夫大丈夫と思っていたら知らぬ間に1週間経っていたんじや。

あれ、もしかして我、タイムリープ時間跳躍してる……？

なんて現実逃避を試してみても現実は非情なわけで、オフロラボまであと1週間の事実は変わらない。

いや、我も流石にまずいと思つて準備してるんじやよ？

一昨日amazonで注文した『コミュカゼロのクソ雑魚根暗ヒキニートでも分かる！ コミュ障脱却100の方法！』という本は手元に届いておるしな。まあまだ半分くらいしか読んでおらぬが。ぶつちやけね、1週間も経って、我冷静になってきたんじやよね。

あれ？ オフコラボでまともに話せる未来が見えぬな、ってね。

そも、まだ一度もリアルで会ったことがない女子二人おなじといきなりオフで遊ぶって無謀じゃね？ コミュ力普通の人でも結構きつくない？ なんで1週間前の我はそんな約束したの？ (静かなる怒り) アフオなの？ 死ぬの？

もちろん、オフコラボは投げ出したくない。

約束を違たがえるなんてことはしたくないし、我とのコラボを待つてくられておるリスナーやあの2人にも報むくいたい。

「やばいのよな〜」

ソファに仰向けに寝転びながら天花を手で抱っこして天に掲げる。

にやーにやー鳴いてカワイイのじやが、我の心は晴れぬ。

うーむ、どうしようか。

いざとなつたら最終奥義もあるのじやが……

とりあえず六花が自分も抱っこしろと我の身体をよじ登ってくるので姉妹まとめて高い高いする。

。ピンポーン

「んあ？ なんじや？」

高い高いしていると、玄関の方から訪問を知らせる音が鳴った。

誰かウチに来たようだ。珍しい。

amazonの注文なら玄関前にいくつも設置してある宅配ボックスに入れてくれるし、まあ大方なにかの営業の人か、もしくは宗教の勧誘じやろう。一応玄関のドアカメラを確認してそれっぽかったら居留守してスルーしよ。

六花と天花を床にそつとおろし、玄関近くに設置してあるドアカメラのモニターを見る。

「……誰ぞ？」

モニターに映っていたのは、想像していたどれとも違った。

プラチナブロンドの髪に、メイクでバツチリ目元を強調した若い女性。簡単に言ってしまうえば、いわゆるギャルがそこにいた。

うーむ…… こんなタイプの訪問者は初めてじゃ。

なにかの営業、ではなさそうだし、宗教の勧誘…… でもないかのう？ あーいや、美人局的な何か？
つつもたせ サムシング

『うーん、居ない……？ せっかく会いに来たのに…… サプライズは良くなかったかなあ……』

モニターのスピーカーからギャルの声が聞こえてくる。

うーむ、こやつ間違えて我が家に来たのか？

当然我にはこんなイケイケギャルの知り合いなんぞ居ないし、そもそも知り合いそんなに居ないし……

もしかしてアレか？ ここらへんに住む友達の家初めて遊びに来たはいいけれど、友達の家の外観を詳しく聞いてなくてそれっぽい家でとりまインターホン鳴らしてみた、的なの？

……ありうるのう。こんなイケイケな感じなんじゃ。そんな感じでテキストに間違えて我が家に来てしまった説はある。

うーむ、映像のギャルは表札の位置をちらりと確認しておるし、もしかしたら此奴の友達が我と同じ苗字かもしれんな。

……しかし、この辺りで我と同じ苗字のやつなんていたかのう？

まあ引きこもりしてるから最近引越してきた者とか知らんし、同じ苗字のご近所さんがいるやもしれんな。

ほれ、気がつけ。

ここはお主の友達の家ではないぞ。

……少し待ってみたが間違いに気がつく素振りはないのう……
可哀想じゃし、ドアホンにしてみるか……？

……そうじゃな、ここで臆してはいいかん。これもオフコラボの練習の一環と考えれば良い。うん、出てみるぞ。よし、出るぞ。ほら、出るぞ我。

んん。

意を決して、我はモニター付きドアホンの通話ボタンを押した。

「あ、あのう〜…… たぶん、家、間違えて、ます。よお〜……」
うっそじやろ?! なんでこんな震え声なん?!

1週間後オフコラボのやつの第一声がこれとかマジ?! やばい。
余計オフコラボ不安なんじゃけど?!?!

『あー、よかつた居た! 久しぶり!!!』

我が自分の震え声に驚いていると、モニターの中のギャルがパアツと弾けるような笑顔になった。

え? いや、久しぶりっていうか、たぶんはじめましてこんにちはじゃけど。

「え、と、たぶん人違い、です……」

『ううん! 人違いなんかじゃないわ! 久しぶり、まーちゃん!!』
ん? まーちゃん?

え、まーちゃんと我を呼ぶやつなんて限られておるが…… ぱつと浮かぶのはちーちゃんじゃが、ちーちゃんでは絶対ないしな…… アヤツは眼鏡かけた、ザ・文学少女じゃし……

『ほら、私だつて! ちーちゃん! 貴女の大親友、ちーちゃん! ……んもう、疑り深い! ほら、これ見て!』

ギャルが取り出したのは、一冊の本。

魔法少女ナナニカ・ニカナ4巻初回限定特典のブックカバーをまとっている本だ。ちなみに、このブックカバーは現存数が少なく、ファンの間でプレミアがついているモノ。まあもちろん我は持つておるが。

え? ていうかソレ持つておるつて……

マ?

え? ちーちゃん? マジでこのギャルがちーちゃんなの……?

「マジでちーちゃん…なのじゃ……?」

『そう言ってるでしょ。まったく、まーちゃんつてば疑りすぎなのだわ…… ふふっ』

やっと信じてくれたのが嬉しいのか、ギャル—— 暫定ちーちゃん
は嬉しそうに微笑んだ。

『とりあえず、中に入れてほしいわ』

「りよ、了解なのじゃ？」今カギ開けるのじゃ？」

我は自分でもよく分からぬまま、暫定ちーちゃんを家に招き入れた
—。

26 配信目 5年で人はあまりにも変わる

「改めて久しぶり、まーちゃんー！」

「は、はい…… どうも……」

何が何だかよく分からぬまま、我は暫定ちーちゃんを家の中に招き入れた。

ふわっとしていて柔らかそうな、プラチナブロンド色のウルフボブの髪。

涙袋をぷつくりとさせたメイクに目を引かれるが、ソレ以外は薄めのメイク。いわゆる一部だけを強くメイクする『引き算メイク』というやつじゃろう。元の顔がいいからこそより引き立つナチュラル寄りのメイク。

片耳だけイヤリングをしておるし、ネイルもバツチリキメておる。

うーむ、改めて見ると、完全にギャルじゃ。もう、これは紛れもなくギャルなのじゃ。少し前のギャルではなく、今どきのギャルといった感じじゃの。

……本当にちーちゃん？

いや、たしかにドアカメラのモニター越しじゃなくて、実際に肉眼で見るとこやつ顔はちーちゃんの顔なのじゃが…… ちーちゃん
の従姉妹と言われたほうがまだ納得できるんじゃないか……

「ふふっ、そんなふうにはチラチラ見なくてもいいのよ？ ガッツリ見ればいいじゃない？」

「ん、いや、その…… 本当にちーちゃんですか？」

「ちゃんと本物のちーちゃんよ。忘れちゃったの？ ご飯とかよく作ってあげたじゃん」

「それはそうじゃけど……」

たしかにちーちゃんにはよくご飯を作ってもらった。

私の両親が亡くなってからじゃろうか。それより前にもましてちーちゃんは私の家に頻繁に来るようになった。あのときは掃除や洗濯料理なんかをやり頻繁に来てくれたのう。

我が自分でやるから大丈夫じゃと言っても、まーちゃんカップ麺

ばかりだから駄目”とか言われたな。

うん、そういう思い出は確かにあるのじゃけど、まじで変わり過ぎなんじゃよ。記憶のちーちゃんの外見全然違うじゃん？

前髪で顔が隠れててメガネを掛けてザ・文学少女。あの頃のちーちゃんは何処へ行ったのじゃ……

「なんで、ギャルになっておるのじゃ？」

「イメチェンよ。イ・メ・チェン。」

高校卒業するときに、大学進学で一人暮らしになるし、大学デビューで吹っ切れようと思ったの。あと、魔法少女ナニカ・ニカナ魔ナニカに出てくるニカナの相棒もこんな感じの明るい子だったでしょ？ その子目指したの」

「そ、そうか。メールでやり取りしてても全然分からなかった……」

ちーちゃんは「ふふん」と得意気だ。

実はちーちゃんとは高校卒業後もメールでやり取りをしている。

月1くらいのゆるーいやり取りじゃが、我にとつてなんとも心が休まる関係じゃ。

「で、メールでは全然ちーちゃん変わってないのじゃよ。」

なんていうか、やまとなでしこ大和撫子然りというような『たおやか』『おしとやか』の擬人化みたいな感じなんじゃ。めちやくちや綺麗な日本語でメールをくれるもんじゃからギャルになるとは全く思っておらんかったぞ。

「そ、そういえば最近忙しいとかメールで言っておったが、きよ、今日は大丈夫なのか？」

「もちろん、大丈夫だわ。ライターにも慣れてきたし、まーちゃんのために今日一日空けてきたんだから！ それに、これからはもつといっぱい会えるわ！」

「な、なるほど……？」

終始頭に疑問符が浮かびながらも、なんとか状況が飲み込めてきた気がする。

うん、とりあえずまあ、ちーちゃんがギャルになったことは理解で

きた。よくわからんが我のために今日一日空けてきてくれたというのも理解した。

そんなふうには我がちーちゃんとのやり取りに四苦八苦していると、私の隣りで六花と天花が「シャー……」と低い警戒音をだしてちーちゃんを威嚇していた。

「六花、天花。そう警戒せんでもよい。こやつは私の旧友じゃ」

私の両サイドでちーちゃんに警戒している六花と天花に言う。

いきなり見知らぬギャルが来てびっくりしておるのじやろう。2匹とも私のことを心配して両サイドでいつでもちーちゃんに攻撃できるように構えておる。

我が警戒を解くように言うひとまず2匹とも構えを解いた。

「ふふ、可愛い騎士^{ナイト}さんたちね。お茶が入ったコップを倒しちゃおうお茶目さんとは思えないくらい頼りがいがありそうね。

……それよりまーちゃん、何でさつきから私の目を見て話してくれないの？」

ちーちゃんが少しうつむき気味の私の顔を覗き込むように下から目を合わせに来る。私は目を流すことでそれをしれーつと回避する。

うぐう…… ソレを聞かれるか。いやまあ気になるよね。

「い、いや、ソレはのう……」

……か、隠しても仕方がないのう。我、実はちよーっつとだけコミュ障気味でな」

「やっぱりね。うーん…… 私でもそうなんだ」

「……ははっ、情けないじやろう？ メールでは変わらず威勢のいい我がこんなんになつて。……嫌いになつたかもしれないな？」

ちーちゃんの前ではなるべくあの頃のままの強いまーちゃんではないかつたのじやがな。こんな『まーちゃん』に幻滅しても致し方ないじやろう。

するとちーちゃんは私の頭を両手でそつとつみ、ギューつと我を抱き寄せる。

「なっ！ なに……んぐう!?!」

「私がそんなことでまーちゃんを嫌いになるわけ無いじやない——」。

神様も、ヒーローも。誰も救ってくれなかった私を、突然現れた『魔王』が助けてくれたのよ?」

春の日差しのような、柔らかい声でちーちゃんが語りかける。よしよしと、私の頭を撫で、そっと髪に触れる。

——まったく、こやつは……

しかし、今は少しだけちーちゃんの甘い優しさに身を委ねるとしよう。

「というより、ちょっとコミュ障のまーちゃんむしろ可愛いわ! そんな上目遣いで見られると守ってあげたくなくなっちゃう!」

ちーちゃんは我をもっとギューツとする。

ば、バカもの!?

や、やめろ、苦しい……! い、息が……!

「や……めんか……! く、くるじ……!」

「あ、ごめんねまーちゃん」

ジタバタ抵抗してやっとなんか解放された。

こやつ胸についたたわわな果実のせいで危うく窒息するところじゃぞ?!

「なんじゃ! お主、自分の胸が大きいアピールしたいのか?! まったく……!」

……というより、なんか高校のときより胸大きくないか?」

「うーん、どうなのかしら? 多少は大きくなったのかな?」

「今何カップじゃ」

「この前測ったときはEカップだったかしら?」

ふーん…… そうなんだ……

私の胸を試してみる。

自分で自分の胸元を見ても、普通に床が見えるし、つま先見るのも余裕。

あれ、おかしいな? 見えてないだけかな?

私の胸は透過性質があるだけで本当はたわたな果実がついているのでは? と思って自分の手で抑えてみても、やはりそこにはシンデレラサイズの胸しかないわけで。

「……チツ」

「やーん！ 胸の大きき気にしてるまーちゃんも可愛い!!!」

むぐゆう…!?

「またもやギューツと抱き寄せられた！ ぐるじい！」

「やめんか！ なんじゃ!?! そんなに我に心理的ダメージ与えたいのか?!?! まったく……」

「……それで？ 今日突然来てどうしたのじゃ？ 胸の大きき自慢のために来たのなら容赦せんぞ」

「あ！ そうだった忘れるところだったのかわ。」

「今日来た目的はズバリ！ まーちゃんのオフコラボ成功大・作・戦！」

「……ん？」

27 配信目 オフコラボ成功大作戦

「今日来た目的はズバリ！ まーちゃんのオフコラボ成功 大・作・戦！」

「……オフコラボ成功大作戦？」

まるで昔の匂い漂うTV企画のようにフリップでも持ち出さん勢いのちーちゃんに首をかしげる。

なんじゃそれ？ もうちよつとまともなネーミングできんかったのか。

まあ確かに、目前に迫った私のオフコラボが成功するよう頑張る作戦、というのは字面から分かりやすいの。ただな、名前が少々古臭くてナウイヤングの我にはちと合わんというか……

……つて、そんなの気にすることじゃないわ！

なぜちーちゃんが私のオフコラボの件を知っているのじゃ!? というかそもそも、我がV t u b e rになったことはまだちーちゃんには伝えてないぞ!!

「そう！ まーちゃんのオフコラボが成功するように頑張る大作戦を決行するのだわ！」

「ちよ、ちよつと待ってくれちーちゃん！ その前に、なぜお主がオフコラボの件を知っておるのじゃ!?」

「ふっふっふ。よくぞ聞いてくれたわ。まーちゃんつて、V t u b e rのニーナ・ナナウルムでしよう？」

にししと、したり顔で言うちーちゃん。

こやつ、私の正体を一瞬で看破しおった。

「な、なぜ分かったのじゃ…… いやまあ、いつかちーちゃんには言おうと思っただけど……」

「ふふん♪ そして、なんと私もV t u b e rなの！」

近野千香^{ちかのちか}。キラキラライブ第3期生の近野千香。つまり、まーちゃん
の1個先輩なのだわ！」

えっへんとドヤ顔でちーちゃんは言う。

……？ ちーちゃんもV t u b e rなの？ へあ？マジ？

ん？ しかも近野千香って……え？ 我と同じキラキラライブ？
近野千香。

キラキラライブ3期生、高校2年生という設定のギャル属性ライブー
じゃ。歴史が好きのいわゆる歴女で、また時折出る頭の良さそうな発
言など、遊んでそうなギャルっぽい見た目のギャップが人気だ。

我もときどき近野千香の配信を見ておるが、え、マジ……？

……今にして思えば、たしかに声質は似てる気がするし、ちーちや
んも近野千香も歴史好きじゃな… 頭もいいし……

「おっと、少し待ってくれ。今、私の脳に搭載しておる最新世代CPU
が使用率100%近いのじゃ……」
まてまて。

少し状況を整理しよう。

我はもちろんキラキラライブ4期生のV t u b e r ニーナ・ナナウル
ムじゃ。で、我がニーナ・ナナウルムであることがちーちゃんにバレ
ている。

そもそも、ちーちゃんにはいつか話そうと思ってたし、まあこれは
別にいい。たまたま私の配信を見て気がつく、なんてこともあるじや
ろう。我はもともとの性格のままニーナをやっている、キャラを作っ
ていることもないから、気づくことも低確率だが、まあなくはない。

しかし、しかしじゃ。

ちーちゃんも知らぬ間にV t u b e r になっていた、と。

しかもただV t u b e r になっただけじゃなくて、我と同じキラキ
ライブに所属し、私の1つ先輩にあたる3期生の近野千香である、と。

……こんな偶然あるう？

「ライブー活動にも慣れて色々落ち着いてきたから、今日の来訪は
まーちゃんへの報告も兼ねるの」

「こんなことってあるんじゃないやあ……」

「大学進学で遠方に行くことになって離れ離れになっちゃったけれ
ど、こうしてまた会うことができた。しかもV t u b e r として同じ
場所で二人が出会う……！ なんて運命的なのかしら！ やっぱり
まーちゃんとは赤い糸で結ばれているのね……！」

混乱している我をよそ目に、ちーちゃんはなにやら興奮して悦に浸っている。

「我がニーナ・ナナウルムだといつ頃から気づいておったんじゃ？
キラキラライブのスタツフにでも聞いたのか？」

「ううん、そうじゃないわ。実際に聞いてみたわけじゃないけど、流石にいくら同じライバーだからってスタツフの人もおいそれと個人情報を渡さないわ。」

ただ単純に、私が一人で気がついたの」

ちーちゃんは顎に手を当てて考え始める。

「えっと、最初は後輩3人のプロフィール画像見てたらこの魔王様
まーちゃんっぽいなあって、気になって初配信から見えたわ。」

何回も配信見るとやっぱりまーちゃんに似てるって改めて思ってたわ。声も、喋り方も、息遣いも、雰囲気も、間のとり方も。まあただ、高校のときのまーちゃんとは少し違う感じもしたし、1億3千万人もいる日本人の中でまーちゃんと似てる人が居てもおかしくないし、最近まで違う可能性も考慮してたわ。

でもこの前の配信で私とまーちゃんとの逢瀬に関連した話がちよろっと出た辺りでやっぱりまーちゃんだ！って100%の確信に近づいたって感じかな」

たしかに最初の頃は我の身の上話などほとんどしておらんかったが、そうか、声とか喋り癖とかでなんとなく分かったのか。

もしかしたらちーちゃんだけじゃなくて、かつてのクラスメイトの何人かにバレてる可能性もあるのかも、じゃな。」

「で、さっそく本題に入るわ！

まーちゃん、近々レイさんとリレイさんの2人とオフコラボやるんでしょ？」

「う、うむ」

「でも、コミュ障患ったから上手くできるか不安なんですよ？」

「う、うん……」

「私はコミュ障克服を一生懸命に頑張るまーちゃんの手助けがしたい
と思つて、居てもたつても居られず、こんなのを準備してきました！

というわけで、はい、コレ！」

ドンッ！つとちーちゃんがかばんの中から取り出したのは紙の束。図などが入りつつも、びっしりと文字が書かれたA4の紙が何枚もある。

「これは……？」

「私がまーちゃんのために独自で調べ上げた、勇者と天使の情報をまとめたものよ！ 『敵を知り己を知らば百戦危うからず』。兵法で有名な孫子の一節！」

戦いに勝とうと思うならば、まずは相手を研究して知る。そして、知った上で、自分の得意・不得意を知り、フォローする。これこそ、オフコロボ成功大・作・戦、なのだわ!!!」

「な、なるほど……」

たしかに、戦いにおいて情報というものは極めて重要じゃ。

先代魔王が情報部局を強化して戦況を大きく変えた話はセバスから耳にたこができるくらい聞かされた。

戦いにおいて、純粋な戦闘力もさることながら、情報も大事、これに異論は我もない。

なるほど、この理論を今度のオフコロボにも活かそうというわけか。

「コミュニケーションと一口に言っても様々なコミュニケーション障があるわ。まーちゃん的全配信をかかさずチェックしている私が思うに、ある程度相手のことを知っていて、且つ会話のネタも豊富にあれば、まーちゃんはある程度話せると思うの！」

たとえば、ここ！ 勇者は犬を2匹飼っていて、天使は猫を1匹飼っているわ！ つまり、まーちゃん含め、3人には『動物を飼っている』という共通点がある！ 会話デツキとしてこれほど優秀なものはないわ！」

「……！」

我はハツとした。

これぞ天啓！

そも、オフコロボの成功とはなにか。

今回のオフコラボの成功判定はシンプルじゃ。楽しくオフコラボができたか。もつと言い換えれば、楽しくお話し、遊ぶことができたか。

つまり、会話が重要だ。

その点において、会話で使う話題、すなわち『会話デッキ』を用意しておくというのは有用だ。

ちーちゃんに言われるまで全然考えが及ばなかった！

あまりに弱気になって、我はただ漠然と『楽しくおしゃべりしよう』としか考えていなかったのだ。何たる不覚か。

もしこのまま当日を迎えていたら、我は『天気デッキ』というただ一枚のペラペラカードで勇者と天使に挑まねばならなかった。そんな魔王にひのきの棒で立ち向かうアホと一緒にじゃ。

ちーちゃんの言うように、相手のことを知り、共通の話題があれば楽しくおしゃべりができる！ ……はず！

なにせ我は前世も今世も魔王じゃ！

そう！ 今でこそすこーしコミュ障だが、かつてはブイブイ言わせていた魔王なのじゃ！

「ちーちゃん、ありがとう……！！ 我は暗雲立ち込める茨の道に、今、

一筋の光を見た！」

「まーちゃん！ 今日はまだまだ長いわ！ 一緒に敵勢力の研究しましょう！」

「ああ——！！」

さあ、頑張るぞ——。

我はようやく登り始めたばかりじゃからな……！！

この果てしなく遠い魔王坂を！

我らの戦いはこれからじゃ！！

28 配信目 【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達
P a r t. !! 【キラキラライブ】

【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達 P a r t. !! 【キラキライ
ブ】

・
・
・

21：名無しの下級臣下 ID：pHltROglj
さて皆さん。明日はついにオフコロボ当日なわけですが……

24：名無しの下級臣下 ID：xDtkorxeO
審判の日がついに来てしまうのか……

27：名無しの下級臣下 ID：GOBounxGu
見たいような見たくないような、でもやっぱり見たい

30：名無しの下級臣下 ID：wRBTXg5jV
ほんとにやるんかコレ？

33：名無しの下級臣下 ID：AfzUmNoYB
魔王様にオフコロボができるわけ無いだろ！いいかげんにしろ！
あと300年は待つてからにしろ

36：名無しの下級臣下 ID：XLpSpZn3K
300年とか俺ら死んでるのでNG

38：名無しの下級臣下 ID：z9t7qwO7Q
骸骨^{がいこつ}剣士になって復活すればええんやで

40 : 名無しの下級臣下 ID : BV6Y8hO1U
かつて臣下だったガイコツたちがわざわざ墓場から蘇ってPCつ
けてVtuber見るの想像したら草

44 : 名無しの下級臣下 ID : 1w7AEYuMZ
カタカタ骨鳴らしながら見てるの草 of 草

48 : 名無しの下級臣下 ID : J2o6JHAO6
カタカタカタ : w

49 : 名無しの下級臣下 ID : DpsEOgaPI
まあオフコラボは普通にやるでしょ
トウウイッターで一昨日告知してるし、ここからドタキャンはよっ
ぽどないかと

ニーナ・ナナウルム

@nina | nanaulm

3日後に迫ったオフコラボじゃが、3人でたこパ（たこ焼きパー
ティー）することになったぞ。

我は3日後のために友人とともにコミュ障対策してるから皆の者
安心して見てくれていいぞ！

51 : 名無しの下級臣下 ID : pnoLJ4ogt
おなご達がキャツキヤウフフしてる空間尊い

53 : 名無しの下級臣下 ID : BOUa+bJcC
私、魔王様の告知で「たこパ」っていう単語を初めて知ったの……

55 : 名無しの下級臣下 ID : BYURcAu92
おじいちゃん : 若者言葉についていけないのね

57 : 名無しの下級臣下 ID : X h i J J p O R h
今なんでも略すしな
たこパとか鍋パとかおこパとか

61 : 名無しの下級臣下 ID : 2 Z p o Z H D 4 D
>>>57

鍋パはなんとなく分かるけど、おこパってなんや？

64 : 名無しの下級臣下 ID : b L M g f l s x w
>>>61

お好み焼きパーティーやぞ

68 : 名無しの下級臣下 ID : l 6 d p Y B Y 7 l
何でもかんでも略すの止めてクレメンス…… 新しい言葉覚える
の辛いんや

71 : 名無しの下級臣下 ID : v Q H p J I F a /
おこパは激おこぶんぶん丸パーティーの略の可能性が微レ存

74 : 名無しの下級臣下 ID : F Y E r e z K O l
>>>71

(そんな可能性) ないです

78 : 名無しの下級臣下 ID : w c x F M G p t X
魔王様友人とコミュ障の対策してらってトウウイッターで言っ
てるけど本当に大丈夫なんかね？

79 : 名無しの下級臣下 ID : F I z g 8 N c 7 Y
そもそも魔王様って友達いたんだ

80 : 名無しの下級臣下 ID : tClItVoZ0
火の玉ストレートやめいや

81 : 名無しの下級臣下 ID : P11KqgDz5
トモ・・・ダチ・・・？

82 : 名無しの下級臣下 ID : XCGR13ghN
どんな対策かな

友達と目を合わせながら喋る練習とか、どもらないように友達と喋りまくるとか？

85 : 名無しの下級臣下 ID : REsoYW4Em
そもそも友達とは普通に話せるんやっけ？魔王様

88 : 名無しの下級臣下 ID : 7wGwQRaa
どうなんやろ
というか普通に友達いてお父さんはホツとした

91 : 名無しの下級臣下 ID : dq4xHEdH4
後方父親面づらやめろ

94 : 名無しの下級臣下 ID : t1a/aVJ8q
今更だけど、何でオフコラボやるって宣言しちゃったんだよ・・・
普通にオンラインでライバーとゲームとかして仲良くなつてから
オフコラボやればよかったのに
どう考えても無理だよ。もうマジ無理・・・栗鼠りす化しよ・・・

96 : 名無しの下級臣下 ID : 9wsQAkrRE
魔王様がオフコラボ宣言したときリスナーの誰も信じてなくてくさだった

99 : 名無しの下級臣下 ID : g u l s Y m H c v
オオカミ少年と一緒や

嘘はついちゃいけないやなって

103 : 名無しの下級臣下 ID : N A u 4 G O S k m

オフコラボやるって言ったのって、アイワナの耐久配信後の思いつきだからなあ…

モンエナも確か5本キメてて完全に深夜テンションでおかしくなってたと思われ

105 : 名無しの下級臣下 ID : V f w 4 c l m K g

アイワナ配信普通に考えて頭おかしいよな

なんだよ25時間配信って… 寝て起きたらまだ配信してたンゴ

107 : 名無しの下級臣下 ID : V b / 8 R G c x Y

晩飯食べながら配信見て、朝ご飯のときも同じ配信を見る。

こんな体験そうないな

108 : 名無しの下級臣下 ID : Y z o q N l c a n

ここまでの長時間耐久配信は久々… つか初めて見た

112 : 名無しの下級臣下 ID : i t R I 4 J U D E

普通に途中で諦めると思ってたけど、ちゃんと完走してて普通に感心した

113 : 名無しの下級臣下 ID : L 2 C z z V X 6 +

根性あるよな魔王様

116 : 名無しの下級臣下 ID : V r U 6 t q C O A

なお途中からモンエナ5本でご乱心の模様

118 : 名無しの下級臣下 ID : lAq u / 8 h k 5
こんなにも長時間耐久できるのエライ!!!!

122 : 名無しの下級臣下 ID : P l n x G C T 6 j
(^ q ^) マオウサマバンザイ!!!

124 : 名無しの下級臣下 ID : j 7 L q w 2 2 J V
定期的にべた褒め勢と記者団出てくるの草

125 : 名無しの下級臣下 ID : C v c J b S r S n
記者団は配信前の待機所で定型化してるしな

127 : 名無しの下級臣下 ID : 8 8 N 2 P E e D i
魔王様がアイワナクリアしてマネージャーと勇者と天使に報告のチャットしてたの微笑ほほえましますすぎて画面の前でニヤニヤしてしまいましたしたことを謝罪申し上げます。

130 : 名無しの下級臣下 ID : / q d u N L D k 8
なんていうか、小さな子が頑張ったことを親に褒めてほしくて目をキラキラしている様子を私は思い浮かべてしまいましたことをご報告申し上げます。

134 : 名無しの下級臣下 ID : n k D W P I F 5 z
魔王様ってガチ恋勢より、親目線勢のほうが多そう

138 : 名無しの下級臣下 ID : a R z p J c G 8 t
そら、そう(あんな可愛い女の子が自分の娘だったらと夢想するのはしかたがない)よ

142 : 名無しの下級臣下 ID : m 3 c w O p j X V
魔王様がやったのって難易度 N I G H T M A R E だったけど俺が

やったら一生クリアできなさそう

143 : 名無しの下級臣下 ID : yH o l k z Z j I
そもそも一番簡単(セーブ箇所が多い)なEASYですら初心者な
らクリアむずい

146 : 名無しの下級臣下 ID : r G e x 8 F i K G
ナイトメアまじで1個も途中セーブ出来ずに最初から最後まで
ノーマスだから頭こわれちゃ〜う

147 : 名無しの下級臣下 ID : r J D B k v r M n
T A S 御用達のモード

148 : 名無しの下級臣下 ID : v b g O T a a 2 d
N I G H T M A R E クリアできる人は人間じゃないと思うの

151 : 名無しの下級臣下 ID : p r 3 + I s Y P l
魔王様は人間じゃない定期

154 : 名無しの下級臣下 ID : Y T L i l c L P Z
勇者も人間じゃないぞ
なお、本人は自分のことを人間だと思っている模様

158 : 名無しの下級臣下 ID : U p a q N / D e w
勇者人外説やめろ
目玉は取り替えるけど人間やぞ

159 : 名無しの下級臣下 ID : H e C O J d c x 6
なんにしても明日が楽しみや

162 : 名無しの下級臣下 ID : B / l w q V y / E

いつも土曜日は普通に仕事やけど明日の配信のために、明日は有給とつたンゴ！

163 : 名無しの下級臣下 ID : nF + j z U h B Z
有給とつてエライ！

164 : 名無しの下級臣下 ID : t v d 4 m R q u v
上司になんて言つて有給とつたの？

165 : 名無しの下級臣下 ID : B / l w q V y / E
「推しの晴れ舞台なんです。」つて正直に言つたら、「そうか。目に焼き付けてこい」つて

168 : 名無しの下級臣下 ID : e A 9 j 0 B M V 5
上司の器が広すぎて羨ましい

169 : 名無しの下級臣下 ID : 7 G n j + i 7 W r
ウチやったら「は？」で一蹴いっしゅうされて終わりやな

173 : 名無しの下級臣下 ID : i 3 m n E G K 2 Q
娘の晴れ舞台のために仕事を休む姿は紛まじうことなき父親の姿

175 : 名無しの下級臣下 ID : h / v r p E p U n
明日がきつかけで色んな人とコラボしてほしいな

29 配信目 オフコラボ前哨戦 ―旅立ちの日―

「留守番、よろしく頼むぞ。六花、天花」

「ニャー！」

「にゃー」

我を見送りに来てくれた六花と天花の頭をしゃがんで撫でまわす。
ふっ。

愛い奴らじゃ。私の緊張も少しほぐれるというものだ。

今日はついにオフコラボ当日。

ちーちゃんと血の滲むような修行を経て、私は強くなった。もう何も恐くない。こんな気持ち初めて。身体が軽いのじゃ。
さて、と。

六花と天花を撫で回すのを止め、2匹に少し下がるように指示を出す。

「テレポートを使ったのは真根さんと会ったとき以来か。V t u b e rを始める少し前…… 1, 0 0 0年の刻と比べれば瞬く間じゃが、随分と久しく感じるのう」

ひとりごちり、目をゆつくりと伏せ意識を集中させる。

自分を鼓舞する意味合いも込め、ふうと小さく息を吐く。

よし。

あの風景を思い浮かべながら、魔力を乗せた言葉を紡ぐ。

「求めるは遙かな雲路の果ての情景。灯火の揺らぎよ、煌々と輝き、照らし、悠遠なる旅路へと我を誘え。――テレポート」

シユンツ、と空気を切るような甲高い小さな音とともに、私の身体が六花と天花の前から消え、次の瞬間には全く別の場所へと我が出現する。

ビルとビルの中の狭い道。裏道とでもいえばよいか。

以前キラキラライブ本社へ来たときにここを見つけて、
「なんてテレポート向きの場所なのじゃ」と思ったものだ。

「よしよし、無事テレポートできたな」

まあそもそも、完全詠唱までして失敗するようなことがあれば、我

は恥ずかしさで死んでしまうだろう。

歴代最強の異名を持つ我が失敗するなど方に一つもありえない。

「やっぱり詠唱すると気分が上がってよいの……!」

ふふふ、と不敵に口角が上がる。

テレポートは高度な魔法だが、我にかかれば短縮詠唱はもとより詠唱破棄など容易たやすい。あえて詠唱をするメリットはいくつかあるが、教科書的に挙げれば、消費魔力の軽減や魔力コントロール難度の緩和、威力向上などだろう。

しかし!

詠唱をする最大のメリットは他にある!

——そう! カツコイイのじゃ!

カツコイイは全てに優る。

これは私の持論じゃが、やはり魔法はかつこよく、オサレに使う必要がある。実際、自分の気持ちを高めることは魔法行使に良い影響がでるとの魔法大学の研究成果も確かあったはずだ。

今世で中二病だと揶揄やゆされる言動も、異世界の基準に照らせば決して馬鹿にできなかつたりする。

やはりカツコイイは素晴らしい。

さつき我がテレポートするときとか、詠唱しているときにスカートがいい感じになびくように魔力コントロールしたり、目を紅く光らせたりしてたしな!

いやあ、さすが我。

前世で魔王に就任するよりもずっと前の幼少期に、魔法詠唱大会に出場したことがあるが、あの時を思い出すの…… 先駆者が打ち立てた記録を塗り替え、各賞を総なめにした実力は衰えておらん! 我ながら匠たくみの技じゃ。

ちなみに、詠唱はある程度自分でいじることができる。お好みで文章を変更することも可能だ。

まあ、欠かすことの出来ないファクターはどうすることも出来ぬ

が。

「さて……ここからが本番じゃ」

前置きはこれくらいにして、オフコラボへと意識を向ける。

今、我がいる場所はキラクライブ本社が入っているビルと、その隣のビルとの間の小さな裏道。

キラクライブ本社はこのビルの7階と8階だ。

うーむ、改めて考えると、東京のこんな一等地のビルの2階層分も借り上げているんだから、キラクライブの資金力と言うか『強さ』を感じる。

今日のオフコラボはキラクライブの多目的ルームの一室を使用して行われる。つまりこのビルの8階だ。

以前マネージャーである真根さんにどうしても会わなくてはいけなかったときは7階の一室だったので、実は、我はまだ8階へ足を踏み入れたことがない。

スマホのロックを解除して、真根さんから事前にもらったメールを改めて確認する。

要約すれば、メールには『7階の総合受付で私と合流して、一緒に行きましょう』と書かれてある。

「第一ミッションは7階で真根さんに会う。じやな」

もう一度気合を入れ直して、いぎ鎌倉。ビルの7階へ向かう。

ま、我ってば既にコミュカの化身みたいな所あるから余裕だけだな。

「あ、あ→の。 えっ……と」

「あら、可愛らしいお客さん。お父さんやお母さんは一緒？」

あかん。

びっくり。

いやもうね、流石に我も自分のことだけどびっくりしたよね。キョドってるし、挙げ句、受付の人に迷子みたいに思われてそうだし。受付の人、小さい子に話しかける時特有の目線を合わせるためにしやがむヤツやってくれてるし……
まて。

頑張るんじや我。そう、コミュ障脱却への重要なステップであるオフロラボはすぐそこなのじゃから。

「あ→の、ま、真根さんは…… いらつしやいますか?」

「マネさん? あ、真根さん? マネージメント課の真根さんかしら?」

「はい。えと、あの、私、えと、ニーナ・ナウルムで、魔王なんです」
しどろもどろになりながらも、なんとか伝えると、受付のお姉さんは合点が言ったようにパンつと小さく両手を叩いた。

「あ、思い出しました……! ニーナさんですね。真根さんが来る前に小さな女の子が来たら連絡するように仰せつかってます。802ルームでオフロラボの件ですね?」

いやあ現実でも可愛いだなんて、さすが魔王様です……!」

「は、はあ…… ありがとうございます」

急に褒められたんじやけど、なんなんじや?

「ごめんなさい。ついいつもの癖が……」

コホンッ。今真根さん呼び出しますので少々お待ち下さいね。

あ、今飴ちゃん持つてるんですけどおひとつどうですか?」

「あ、りがとう、ごございます……」

うむ。

とりあえずなんとか第一ミッションはクリア…… 出来たかな

……?

頂いた飴玉を口に含んで、受付近くの椅子に座って真根さんを待つ。
つ。

足をプラプラさせて待っていたのじやが、なぜか先程の受付のお姉さんがチラチラとこちらを見てくる。……はあ、そんなに挙動不審で

可笑しかったかのう。時折ニヤニヤしておるし、なんだか凹むわ。

そのまま座って待っていると、程なくして真根さんが来た。

あいつも変わらず元気いっぱい娘だ。

手を振ってこちらに駆け寄ってくるのじゃからな。ん、ていうか、若干恥ずかしいから手を振るの止めて。ほら、なんか周りの人も何だあれって見てるから。

「おまたせしました。ごめんなさい、ホントはこの受付の前で待っているつもりだったんですが、ボイス収録関係が長引きまして……申し訳ないです」

「だいじょうぶ、です。今日は、よろしく、お願いします」

真根さんの案内で8階の多目的ルームへ向かう。

「もう既にコラボ用の準備はしてありますので、あとはニーナさん、レイさん、リレイさんの3人が配信するだけです。」

配信開始時間までまだありますので、軽い自己紹介と、コラボの最終確認をしましょう。

あ！ そうだ！ 今日はニーナさんにもいっぱい楽しんで欲しくて、上司を説得して兵庫県明石市の最高級のタコを仕入れてありますよ！ ニーナさんのお眼鏡にも適うと思います！」

「りよ、了解です」

ただのたこ焼きに最高級のタコ使うのもつたいたい気がしなくもないが、真根さんのご厚意はありがたくだこう。というか軽く上司を説得しちゃう真根さんなにげに凄いな。

「今日の会場はここです。レイさんとリレイさんは先についてますよ」

緊張でゴクリと唾を飲む。

ある種、我にとつても待ち望んでいたイベントが、この扉の先にある。

精一杯、楽しんで、話して、頑張る。

——よし、いくぞ。

30 配信目 オフコラボ前哨戦 ―エンカウント―

多目的ルームの扉をカチャリと開ける真根さんの後ろに付いて、私も部屋の中に入っていく。

「あら？」

「お？」

そこには既に二人の女性が居た。

部屋に入った我に気が付き、二人ともこちらを振り向く。

一人は少し明るめのブラウンのロングヘアの女性で、ニコニコとしていて、タレ目が特徴的。

透明感のある肌に、色っぽい唇。それと、まあ、大きなお胸。出るところは出て、引つ込むところは引つ込む。そんなスタイル。一言で表せば大人なお姉さんな感じじやな。

背も我より高い。というより、我が身長149センチじゃから、たいていの場合皆のほうが背が高いんじゃないやけどね。目測で165センチ前後くらいじゃろうか？

もうひとりとは先程の女性よりも少し暗めのブラウンのショートカットヘア。

背は…… 170以上はある気がする。150もない我からすると結構背が高く感じる。

我の方を向いてニツ、と爽やか？に笑う。なんだかスポーツが得意そうな感じの活発な女性という印象。

「レイさん、リレイさん。ニーナさんが見えました！」

「ど、どうも……」

部屋に入っていく真根さんの後ろに付いて行って、一応挨拶する。まあ、目線はすぐにそらしてしまったけれど。いや、これは仕方ないんじゃないや。ある種の生存本能とでも言うべきものなのじゃ。

「あらあら、やっぱりニーナちゃんだったのね。チャットではやり取りしていたけれど、こうして会うのは初めてね。勇者レイ・ブレイブよ」

大人な女性——レイがこちらにとことこ歩いてきて、挨拶をしてきたので一応挨拶を返そう。うん、会話はキャッチボールじゃ。もらったら返さねばなるまい。……真根さんの影に隠れながら。

「魔王の、ニーナ・ナナウルム……です。本名は——」

「あぁー！ ニーナさんストローップ!!」

びっくりした！

何ぞ?! 急に真根さんの待ったがかかった。

「ニーナさん、ライバーと話すときは基本的に、相手のことはライバーの名前で読んでください」

「え?」

「配信中にポロツと本名を言ってしまつて身バレ、という事態を防ぐためです。」

特に今回はニーナさんにとって初めてのコラボですので、万全を期すために、レイさんとリレイさんの本名は知らずに配信をお願いしたいです。後々慣れてきたら本名を教え合うことは別に禁止しませんので、今日はとりあえずそういった感じをお願いできないですか?」

「わ、分かりました」

なるほど確かに配信中に相手の本名を口走ってしまうことは想定されるか。……そういえば、数年前にキラキラライブではない別のハコでそういった事件が起こったような気がする。業界全体的にここらへんのが敏感になっているのかもしれないな。

特に我、頭の中は割と冷静だけど、同時に、めっちゃ緊張してガクブル状態でもあるから危険じゃな。

ナイスストップ、真根さん。

「えと、じゃあ、改めて、魔王の、ニーナ・ナナウルムです。よろしく、です」

「(こちら)そよろしくね。」

ふふっ。何だかこんな事言うのは失礼かもしれないけれど、真根さんの後ろに隠れているの、お母さんの後ろに隠れる子どもみたいでほっこりするわ」

「我、一応、お酒飲める大人だぞ。……です」

「ごめんなさい、私、思ったことすぐに口に出してしまうの。ふふつ、そう拗ねないで〜」

我のことを完全に子供扱いしておるな。

たしかに今世の我は完全にロリっ子じゃが、今に見ておれよ？ 前世のダイナマイトボディの我みたく、今世でもボン・キュツ・ボン！な感じになるからの！ すぐに我が貴様を子ども扱いしてやろうぞ！

……とは言っても、望み薄なんじゃよね…… 中学からまったたく身長伸びておらんし。やっぱりあの時使った魔法があかんかった気がする。

「で、私が天使のリリイだけ。

……つたはー→ 何だか、自分が天使って紹介するの恥ずいな！ にしてもアレだな。レイが言うように、ニーナって現実リアルでも小さいんだな！」

「……我大人」

で、もうひとりがリリイか。

リリイは現実でも変わらず男勝りな性格っぽいのじゃな。

にしても二人して我のこと小さい小さい言うが、我、れっきとした大人ぞ？ なんなら前世合わせたら千年以上生きてるぞ？

「わあーってるって。でも、それはニーナの武器だけ？ 私はもとより、世の中のお兄様・お姉様を虜とりこにできる素晴らしい武器だ。誇れ。

あ、そうそう。こうして初めて会ったわけだが、チャットのとときと喋り方変える気は私あんまないから、ニーナもタメ口でいいぜ！

じゃ、そゆことで今日はよろしくな！」

そう言って、すつと右手を差し出して来るリリイ。

……これは握手を求めているのだろうか。

え？ マジ？

出会って1分で握手とかコミュ力高すぎない？ ——こやつ、さては陽キャだなッ？!

……え、やっぱコレって握手するんだよね？ もうちよつとステッ
プ踏まなくて大丈夫？

「つたあー！ なに照れてんだよ！」

「うえ、えあ」

「ほら、はいー… にぎにぎ。じゃ、よろしくな！」

「よ、よろしく……」

我が脳内でそんなことを考えていると、しびれを切らしたりリイが
私の右手を強引に引っ張って強制的に握手をした。

いや、え、うん？ お？

もしかしてお主、コミュカのスータータスカンストしてるな？

いきなりのもので、恥ずかしさや照れで頭からプシューって煙がで
てる気持ちじゃ…… っと、いかんいかん。しっかりせい、我。今日
のために、我だつてレベル上げてコミュカのスータータス上げて来たん
じゃから。

それに、リイはきつと、我がコミュ障だから自分からアクション
してくれたんじゃない。ちよつと強引ではあったが。

うむ。そう思うとなんともありがたい話じゃ。

よし、我も今一度、活を入れて頑張ろうかの。

——と思っていたのじゃが、握手した後のリイの方を見ると、自
分の右手を見て何やらニヤニヤしている。……変態さんですか？

「はい、じゃあ皆さんのファーストインプレッションは上々でアゲア
ゲって感じですね！ ささ、立ち話もなんですし、座って話しましよ
う！」

真根さんの言う『ファーストインプレッションが上々でアゲアゲ』
というのはよくわからないが、真根さんに付いて部屋の中央にあるダ
イニングテーブルの席につく。

「さつきレイさんたちには軽く話しましたが、ニーナさんも来たので
改めて詳しく説明しますね。」

この多目的ルームはオフロラボで使うことをもともと想定してい
る部屋の一つになります。なので、見ての通り、キッチンとか冷蔵庫、
机に、椅子。様々備え付けられています」

真根さんが人差し指を立て、得意気に説明する。

レイとリリーのインパクトがすぎすぎて最初はあまり気にしていなかったのだが、よくよく見てみると、この部屋は『普通』の部屋だ。企業が持つ会議室のような場所ではなく、一般家庭の普通の部屋。

リビング、ダイニング、キッチンがひとつになった、少し大きめのきれいな部屋だ。少し違うのは、配信用のパソコンが何台か設置されている点だろうか。

「で、今日は記念すべき4期生の初オフコラボなので、存分にリスナーに味わってほしいと考えています！ よって、配信が始まったら、この部屋には3人だけです。スタツフという雑味のない、純粋な味つけなわけです！」

あ、もちろん何かあるといけないので、私はすぐ隣の部屋に待機して配信をみています。

すぐに私を呼び出せるワンタッチの助っ人ボタンも一応預けておきますね。はい、ニーナさん

「え、はい。ども……」

「それを押すとBluetoothで信号が飛んで、私のスマホに通知がきます！ 私も配信を見ているので、配信を介して私を呼んでも大丈夫ですが、リスナーにバレずに呼びたいときとかに使ってください」

真根さんから渡されたのは、手のひらサイズの小さなボタン。四角い銀色の土台に、赤い円形のボタンが取り付けられたモノで、なんていうか、『ポチツとな！』って押す感じのボタン。

一応赤いボタンに『お助け！』って白字で書いてあるけど、大丈夫これ？ 爆発しないか心配なんじゃけど？

「さ、配信時間も迫ってきていますので機材のセッティングの最終確認しますけど、その前に質問とがあります？」

「……あ、あの〜？」

「はい、ニーナさん！ どぞー！」

「冷蔵庫の、近くにおいてある、クーラーボックスは…… なんですけど？ あの、その…… 何だか生命的なエネルギー感じるんですけど

……」

我が消え入りそうな声で真根さんに聞いてみると、真根さんは待つてましたと言わんばかりのドヤ顔で答えてくれた。

「ふっふっふー。さすがはニーナさんです！ アレには生きてたタコが入っています！ つまり鮮度バツグンです！」

「え」

「心配ご無用です！ リリイさんは料理の腕がプロ級なので、タコを締めるのはもちろん大丈夫ですし、3人で作るたこ焼きも超絶美味しいこと間違いなしです！」

「おう、私に任せとけ！ ちなみに、生きてたタコを提案したのは私だけ」

「え」

——え？

31 配信目 【#異世界たこパ】オフでたこパを開催
じや【レイ・ブレイブ／リリイ／ニーナ・ナナウルム】

【#異世界たこパ】オフでたこパを開催じや【レイ・ブレイブ／リリイ
／ニーナ・ナナウルム】キラキラライブ】

Now Loading...

：ドキドキ

：もうすぐか

：魔王様の勇姿が見れるな

：既にてえてえ

：なにげに勇者と天使の絡み初だから楽しみ

：てえてえ空間はここですか

：既に空気が尊い

：視聴者の数がエグイw

：同時接続数20,000超えwww

：ふあーw

：3人のそれぞれのファンが来てるからな

：有給とつて来た！

：たこ焼きが食べられると聞いて

：てえてえ

：まだなのかー！

：尊すぎてシンドイ

：とりあえずうんこ済ませてきた

：魔王様が天使に食われないか心配

：食われる（意味深）

：ガタツ

：ナイスウ！（やめろ！）

：この日のために1週間仕事頑張った

：勇者と天使に責められてタジタジな魔王様が見られると聞いて

：天使のオフでの対応が気になる

：天使は自制しないと警察のお世話に……

待機画面には既にたくさんのリスナーが来ていた。配信開始前にも関わらず、既に同時接続数が2万人を超えている。

もちろん我だけじゃなく、レイやリリーのファンもここに来るわけで、要するに3人分のファンが一堂に会しているわけなので、視聴者数も当然多い。まあ、それを加味してもすごい人数が多いけどな。

いやあ…… やばい、めちやくちや緊張してきたのじゃ……

こんなに緊張するのはセバスのお気に入り टीーカップ を割ってしまつてセバス相手に白を切り通す大立ち回りをした時に匹敵するな…… 結局割つたことバレて火山が爆発するか如く叱られたわけじゃが。あいつマジで普段温厚なのに怒る時やばい。静かにめちやくちや怒るんじやよね……

と、そんなことは今は良い。

今はこのオフコロボに集中するのじゃ、我。

そして思い出せ、ちーちゃんとの秘密の特訓を。

久しぶりにちーちゃんとお泊りできて楽しかった…… じゃなくて、特訓のおかげで我は自信を持つことが出来たはずじゃ。さつきレイとリレイと軽く会話をしたが、そこそこいい感じに話せたと思うぞ。うん、さすが我。略してさす我。

んゝんゝッ。

我の第一声で配信をスタートするとき2人と決めた。

レイもリレイも我の開始宣言を待つておる。ここはビシツとキメて、オフコロボ成功への景気づけにしようぞ。

：お？

：キタキタ！

：配信きちや！

：きちや

：きちや

：w k t k

：キタ——（。▽。）——！！

「皆のものによ！ ……皆の者！ お、オフコリやボ始めるぞお！」

：ズコーツ

：ε||ゞ(((、—ω・) |ズコー

：草

：うそやん…

：新喜劇並みにずっこけたわw

：かわいい

：かわいい

：ええ…

：うそん…

：皆のものよw w w w w

：かわいい

ウオオおおおおおおい！

なぜに!?

なして!?!?!?

なんばしよつとね?!

クソツ！ レイとリリィが目の前に居るせいで普通に緊張してしまつたのじゃ！ これではせつかく我が今まで積み上げてきた『尊敬すべき魔王様』というイメージに傷がついてしまふじゃないか！

「ニーナちゃん緊張しなくても大丈夫よ。落ち着いて、一緒に頑張らしましょう」

あたふたしていると、レイが後ろからそつと包み込むように抱きついてきた。

なんじゃこの包容力は…

温かみがあつてふわふわと内から浮かぶ安心感に加え、背中に当たるレイの程よく大きな柔らかい双丘が…

って違う！

「おおおおお主、なに急に抱きついてきてるんじゃ?!?!?」

「あら〜？ ごめんなさい、抱き心地が良さそうだったからつい〜」

「あ！ レイ、お前だけずるいぜ！ 私にも抱かせろ！」

「ば、ちよ、二人して抱きつかないでください……抱きつくな！」

…ああ～

…あら～

…あらあら～

…キマシタワー

…ふむ。続けたまえ。

…てえてえ

…何だこの尊い空間は。たまげたなあ…

…勝手にたまげてろ

…フーン、エツチじゃん

…キマシタワーの建築予定地はここですか

…私にも抱かせろ（意味深）

…鼻血が…

…あは～

…理想郷（アヴァロン）はここ←ここ→にあつたのか

抱きついてくる2人を振りほどき、乱れた服を正す。まったく。

まあ……ちよつと緊張はほぐれたかもしれないから、感謝しないこともないこともないのじゃけど……

「ニーナ、お前、すごい抱き心地いいな」

「そ、そんな低音ボイスでかつこよく言ってもダメでs……ダメなのじゃ！」

…凄いしみじみと噛みしめるようにリリイが言う。

リリイは女性にしては声が低く、本気を出すとめちやくちやかっこいい声、いわゆるイケボがだせる。こちらをまつすぐ見て言うもんだからすぐさま目をそらしてしまった。カツコイイ声で言っても、いきなり抱きつくための免罪符にはならん！

…というか、うーむ……ちーちゃんとの練習のおかげである程度は話せておるが、やはり目を見て話すの無理じゃね？ というか普通の人ってどうやって目を見て話してるのじゃ？ 何らかの特殊能力か

の？

それに敬語がつつい出してしまう。

ちーちゃんとの作戦会議でちーちゃんから「なるべく敬語は使わないほうが良い」と口酸っぱく言われている。

敬語というものは、ある種壁を作りやすい。

一応レイとリレイは初対面なので敬語を使いたくなるし、そもそも陰キャあるあるだと思うが会って間もない人にタメ口とかハードル高いじやろ。

じやが、ぐつと距離を縮めるためにも「敬語は使うべからず」とちーちゃんから言われておる。

さつきレイとリレイにもその旨伝えて断ったのじやがのう……
なかなかうまくいかぬ。

「ふふっ。少しは緊張がほぐれたかしら〜？」

それでニーナちゃん、今日は私達と何をするんだったかしら〜？」

レイがクスクスと笑い、我に話題を振ってくる。

そうじやそうじや。

今日はたこ焼きパーティーをすることはトウウイッターで発信しているが、一応何をやるのかは言わんとすな。

話題振りあげてえのう。

ナイスじや、勇者レイよ。

「う、うむ。今日はたこ焼きパーティーじや。

で、うん…… 誠に遺憾ながら、なぜかタコを締めるところから始めるのじや」

…どゆこと？

…タコをしめる？

…ん？ タコまだ生きてんの？

…ゆでダコ買ってきてないの？

「それについて私から補足するぜ！

今日のたこパはスタッフさんの粋な計らいで、一級品のタコを使用する。しかもまだ生きてるタコだから鮮度も抜群だぜ。産地直送だ。

……まあ、要するに、幼女が触手と格闘する場面から、この配信はスタートするわけだな。ちなみに生きたタコは私が提案した」

・草

・お前か

・事案の影に天使有り

・ふむ、続けたまえ。

・幼女×触手ですか…。いいと思います。

・触手プレイとはいい趣味

・産地直送（魔王様のSAN値が直葬）

・安定の天使クオリティ

・天使くんさあ……

・料理できる？大丈夫？

「私はタコ締めるのとか普通にできるし、レイも割と料理できるって聞いているから、ニーナが無理そうなら私達が代わってやる感じだぜ」
「ニーナちゃん、頑張って」

「……頑張るのじゃ」

「大丈夫だって！ 私が手取り、足取り、ねつとりと、教えてあげるからな。へへっ… ジュルリ… おっと、たこ焼きが早く食いたくてっ
い」

・やりたくなさそうで草

・ヨダレ…？ 犯罪臭がしますね……

・お巡りさんこいつです

・本当にたこ焼きが食べたくてヨダレ出ましたか？

・天使が天使してて草

・もしもしポリスメン？

・狂人がそばにいて魔王様可哀想

・触手にロリコン天使ですか。続けて。

「……変態め」

「クハッ…！ やば、今の上目遣いの『変態』、いいぜ……」

「恍惚こうこつとした顔をするでない！ 良い顔が台無しじやぞ」
「ふふっ」

・おいそこ代われ天使

・天使ずるいぞ

・今の「変態」いいね

・はあ…好き…

・良うわからんけど勇者のママみが凄い

・既に尊死とうとししてる人多そう

32 配信目 【#異世界たこパ】オフでたこパを開催 じや【レイ・ブレイブ／リリイ／ニーナ・ナナウルム】 2

「えつと、じゃあ早速調理に入るわけじゃが…… タコ、キモいな……」
目の前に置かれた8本の足を持つ無脊椎動物を見る。

……キモい。

え、めつちやキモくない？

我もタコは食べたことあるよ？ タコはとつても美味しい。

でも、我、生きているタコ見るの初めてなのじゃけど、想像を絶するくらいキモいんじゃない？

え、なにこの生き物。

そういえば地球上でタコを食べるのはほぼほぼ日本人だけ、という記事を見たことがあるが、初めて食べようとした日本人凄いな。
宇宙的な恐怖的な何かを感じるじゃろ普通。目の前のタコも何だか冒流的な動きでうねうねしてる。

我の居た異世界にも似たようなキモいのいるけど、アレを食べようとするやつなんておらんかったぞ。まあそもそも魔物は総じて不味いけどな。

「え、えと、リリイ…… あの、えつとその… 我は、どうしたらよい、でs、良いのじゃ？ コイツ “死にたくねえー！” 的な感じがひしひしと伝わってくるのじゃけど」

「アツハツハ！ そりや死にたくないだろうけど、食うためには締めないとな。」

まずはこの調理用のハサミでタコの目と目の間を、こう、ブスッと
イッチャってくれ」

：魔王様ドン引きで草

：勇者がクラーボックスから取り出した時点で怪しかったしなw

：そりやタコはキモイよw

：食べようとする日本人の勇気に、敬礼ッ！

：タコ「死にたくねえ！」

：そういえば魔王様動物の言葉分かるな

：草

：魔王様言葉分かるけど締めれる？

：声聞こえるならツラそう

：心優しい女の子になんてことさせるんだ：

：→この子魔王なんですが：

「ニーナちゃん、コメントでも心配されているけれど、その…… 大丈夫？

辛いなら私が代わるからね。私別に締めることに何も思わないから」

「あ、そそのことなら、大丈夫。じゃ。」

我魔王じゃし、命のやり取りとか、年の数よりしてるし、まったく問題ない、のじゃ。強がりでも、な何でもなくて、それこそ人間と話すより、100億倍、くらいは気がラク、じゃ」

：さすが魔王様

：よ、魔王様

：キャラ守るのもいいけど無理しないで

：さすまお

：まあ魔王様だしな（無理はしないで）

：勇者がまた何か怖いこと言ってる

：タコなんて瞬殺ですよ

「……うん。わかったわ。頑張つて、ニーナちゃん」

「ほらほらニーナ、タコが逃げようとしてるぜ？」

「わ、分かっているわ！ うぬう…… てい」

とりあえず取り押さえて、まな板の上から逃げないようにする。

うえあ…… ヌメツとして気持ち悪いのじゃ……

「つて、痛いじゃ！ や、やめろオ！ 吸盤でひつつくな！ ぶ、無

礼者！ 我が魔王と知つての狼藉か！ いた、い痛いのじゃ、やめて

……」

「ふむ。コレが現実リアルの触手プレイか。……まあ、100点かな」

・草

・魔王様に触手が絡まってるのか

・草

・w w w w w w

・ふう……

・ふう

・うーむ、触手プレイはいいなあ

・天使がハスキーボイスで珍妙なこと言ってるねえ！w

・天使w

・魔王様……ふう……

・いつもの天使でわらった

「くくく、この我に歯向かう度胸は認めてやろう……！　しかし、その程度ではこの我には届かぬと知れ！」

「ノリノリね、ニーナちゃん」

「んじゃニーナ、ほら、サクツとイツちやいな。ほら、ここら辺だ。ちゃんと締めれたらタコの色が変わるから、もし締めが甘かったら刺してから中でぐりぐりしてしてくれ」

「大丈夫じゃ、急所の場所は、ある程度、分かる。『輝き』がある、場所じゃ」

吸盤がまだ若干痛いのが、とりあえず押さえつけて、右手に持つハサミで狙いをつける。

タコの知能はイヌ並。人間に例えれば3歳くらいの知能はあると聞く。

我に弱者をいたぶる趣味などない。できる限り苦しませずに死なせるのが私の流儀じゃ。ならば一撃でこいつを屠ほぶってみせよう。

「てあー！」

「お、なんかいい感じの雰囲気だな」

狙い澄ましてハサミを穿うがつ――。

するとすぐにタコの身体の色が薄くなった。

身体から色が抜け落ちて8つの足はしばらくバラバラに動いて

いたが、徐々に力をなくしていった。

「出来たつばい……かの？」

「お、やるじゃねーかニーナ」

・さすが魔王様！

・やればできる子

・さすまお

・大丈夫？ 頭よしよしする？

・天使がお父さんみたいでほんわかする

・料理出来てエライ！1万点!!

「んじゃ次は内臓とかを取り出すんだけど…… 若干難しいからな、レイ、やってくれるか？」

「合点承知よ〜」

「んじゃニーナはちよい休憩な。ほら、おてて洗ってちよつと横で待っていてくれ」

「う、うむ……」

言われたとおりまな板の前から横にどいてレイにバトンタッチする。

一応どう処理するのかレイの横からちよこんと覗く。

「タコの頭の筋^綱をブチブチ切りつつこうやって裏返して…… ね？

こうやると内臓があるからブチブチとつて…… あ、これがスミ袋よ」

「え、お、うん……」

・勇者w勇者w

・勇者がwww

・いや正しいけど言い方ア！

・ブチブチw

・魔王様ドン引きで草

・内臓をブチブチ取り除きます（清楚）

・これが清楚粹ちやんですか？

「でね、タコの口と目玉も邪魔だから、こやって摘んで引きちぎって、目玉は包丁で周りに切れ込みをいれて……」

はい、完成。分かれば結構簡単よ」

「う、うむ…… 画面の前の皆、には、分かんと思うんじゃけど、結構グロかったぞ」

：うん。知ってる。

：ブチブチ引きちぎる音が聞こえてたから知ってる

：勇者の効果音からして結構分かる

：まあ内臓はグロいわな

：オレグロいの苦手なんだ

「うしっ！ お疲れさん。あとはぬめりを取って茹でるだけだ」

タコをボウルに移し、たつぷりの塩をまぶして準備万端。

リリイの話によると、結構ぬめりを取るのに揉む必要があるらしい。

「じゃ、ニーナ。タコを揉んでぬめりを取ってくれ」

「りよ、了解じゃ」

ボウルの中で念入りにタコを揉む。

ここでしっかり取っておかないと美味しく食べられない。

……くっ！

結構力があるし、つかれるのう！

意外と重労働じゃ……

そんなふう到我が必死になってぬめりをとっていると、リリイが顎に手を当てて何やら真面目な雰囲気近づいてきた。

「……ふむ。」

幼女がぐちゅぐちゅニチニチといやらしい音をたてながら、太くて猛々しいモノを必死にマツサージする。……なるほど。閃いた」

：ガタッ

：通報した

：ものはいいよう

：お巡りさんこつちです

：嘘はいつていないな

：天使！w

：ふーん、エツチじゃん

：そこに気がつくとは：やはり天才か
：草

——リリイ、お主言い方ア！

333 配信目 【#異世界たこパ】オフでたこパを開催 じや【レイ・ブレイブ／リリイ／ニーナ・ナナウルム】 3

タコを締めて内臓の処理もして、タコを茹でてようやく準備が完了した。

茹でるときも少しコツが有るようで、リリイの指導のもと、タコの足先からちよんちよんと少しずつ入れて、タコの足をカールさせながら茹でる。

いい感じに茹でたら鍋から取り出し、粗熱を取って、終わり。

うーむ、意外と大変じゃった。

やっと下処理が終わったのう。食材は通販で買うのが主な我じゃが、やって初めて分かる大変さじゃ。

それになんていうか……リリイが料理得意なのが結構ギャップが凄いの。

的確に指示を出してくれるし、意外と結構頼もしい。普段の配信では下ネタ特盛の配信で、どっちかって言うのがさつな印象もうけるしな。

リリイは見てくれは悪くないし、黙っていれば美人なのじゃけどのう……彼奴の性癖がそれをすべて台無しにしてる感がやばい。9割方がいいけど、残りの1割のアクが強すぎる。

レイも結構手先が器用じゃな。もともと配信でも言葉遣いは綺麗じゃし、清楚のイメージもあるしの。料理の知識はリリイに劣るっぽいが何をやっててもそつなくこなす感じがするな。

……まあ、発言が時々物騒じゃけど。なんかタコの下処理のときもおよそ清楚とは程遠い発言をちらりと聞いたりした気もしなくもない。

「おしっ！ タコの準備も終わったし、生地準備もソースも準備万端だー！」

「うふふ、ようやく食べられるのね。私、お腹ぺこぺこだわ〜」

「わ、私もペーパー、なのじゃ」

：急にオレもたこ焼き食べたくなってきた

：こっちまでお腹へってきたわ

：幼女の触手プレイ配信が終わってしまった…

：みんなよく頑張った！エライ！

：まだ幼女のお食事配信があるじゃろ

：なにげに魔王様の食事してる配信初めてな気がする

：勇者レイも初めてやぞ

：天使はビール飲みながら性癖暴露大会してたけどな

：あのビール配信か…

「ふっふっふー、今日はただたこ焼きを作るわけじゃないぜ？ ……

じゃーん！ これを見てみる！」

「ん？」

そうやって部屋に設置されている冷蔵庫から元気よくリリイが取り出してきたのは、小皿に分けられた色々な具材。リリイはテキパキとそれらをテーブルに並べていく。

ネギもあるし、チーズもある。桜えびやウインナーなんかもある。

「これも、たこ焼きに入れる…… のじゃ？」

「そうだ！ ただ単にたこ焼きを作って食べるのも美味しいが、今日は折角のたこ焼き『パーティー』なんだ。もっとハイカラに行かないと損だからな！ キラキラライブのスタッフさんと一緒にスーパールに行っただけで来た」

フツとドヤ顔のリリイ。

どうやらリリイは今回のたこ焼きパーティーオフロボに結構力を入れてくれているらしい。材料の買い出しの段階からスタッフと一緒に行っていったのか。

というか生きたタコを提案したのもたしかリリイじゃし、私の想像以上に裏で動いてくれているようじゃ。

まあうん、タコは茹でてあるタコを買ってきてても良かったのじゃぞ？

「チーズに桜えび、ウインナーにトマト。色々な具材があるわね」

気合十分のリリイを見て、レイもふふつと微笑んでいる。

：おー、ええやん

：タコだけじゃ味気ないしな

：チーズ入れたたこ焼き最高ゾ

：桜えびか

：トウモロコシとか意外にいいぞ

：トマト入れたたこ焼き美味いんか…？

：（それはたこ焼き生地をまとったただのトマトなのは…）

：バリエーション豊かなのいいゾ〜これ

たこ焼き器の電源は少し前に入れてあるので、十分に温まっている。
我とレイもいそいそと席につく。

「っしー… じゃ、焼いてくぜー！」

どこから取り出したのか、リリイはたこ焼きの屋台で使うような油引きを取り出し、手際よくたこ焼き器に油を塗る。

塗り終わったらそこに生地を入れ、タコを始めとした具材を入れていく。

じゅー、と食欲をそそる小気味よい音が鳴りはじめる。

そのまま焼けるまでしばらく待ち、垂れそうになる涎を抑えつつ、頃合いを見計らってひっくり返す。

そうして見慣れた球体が出来上がった。

「う、うまそうなのじゃ… ジュル…」

思わず涎が垂れそうになる。

香ばしい良い匂いが鼻孔をくすぐり自分の胃がまだかまだかと喚いている。

「まあまでニーナ。もう少し焦げ目がついてからだ。

…っし、そろそろいいんじゃないか？」

リリイから許しが出たら竹串で焼き上がったたこ焼きを刺して、そのまま自分の口へと運ぶ。

もちろんアツアツなのでふーふーして、はふつと食べる。

くくくつ！

美味しいのじゃ！

外はパリツと香ばしく、中はトロリと柔らかく、中に入ったタコも良い風味を出している。自分で下処理をしたからなのか、あるいは皆でやったからか、より一層美味しく感じるっ！

んくくく！ 美味しい！

そうやって美味しく味わっていると隣に座っているレイがフフツとこちらを見て柔らかに笑ってきた。

「……な、なんじゃ？ 我の顔にな、何かついておるか？」

「ううん。ニーナちゃん、とつても美味しそうにたべるなくって思っただけよ」

「確かに、私らと話すときはまだ結構緊張してるけど、今は破顔しているも以上にかわいい顔してるぜ？」

「ばっ……！ か、かわ……！」

…魔王様照れてるw

…かわいい

…かわいい

…くそかわ

…これは可愛いの権化

…可愛いは正義ってそれ一番いわれてるから

…画面が邪魔でみれない

…はあく…かわいい(クソでかため息)

「お、そうだニーナ、ニーナ」

何かを思いついたように、反対側に座っていたリイがとことこ歩いてこちらに来た。

「ほら、あくん」

「あ、あーん……?!」

「ほら、私がふーふーしてやったからもう熱くないぜ。プレートから上げて少し経ってるしな」

：ガタツ

：くそ！天使そこ代われ！

：ナイス天使

：てめ天使！

：ずるいぞ天使！

：オレも魔王様にあーんしたい！

：どけツ！俺がその役だ！

「なんなら私が口に含んで、それをキスしながら食べさせてあげようか？ あくんよりそっちのほうが良いか？ 私は一向に構わんどぞ」

「な、そ、そんなことできるわけなからう…！ そ、それにあ、熱い熱くないの問題じゃなくて、じゃな…！ よいか？ 我もう大人ぞ?!」

「照れんなよ。ほら、リスナーにサービスしてやろうぜ。ほら、あくん」

う、うぬ……

ええい！ままよ！

目をぎゅつと瞑り口を開ける。

「あ、あくん…」

「うえへへwへwへw 可愛いなあ…w はいあーん」

「んむぐ。……ま、まあうまいのじゃけど……」

そりやまあ美味しい。

さつき食べたから知ってる。けれど目の前にレイがいて気が気じゃなかったぞ。コミュ障なめるな。目をつぶってたから良かったけど、あんな至近距離はコミュ障にはきついじゃー！

ていうかコミュ障に何やらせてるのじゃ。だいぶ段階すつ飛ばしやがったよね!?

まあ、うん。たこ焼き美味しいからいいけど…… いいのじゃけどさ

：

「ニーナちゃんには申し訳ないけれど、小さな可愛い子を見ていると

とつても癒やさされるわね」

さて、それじゃあたし焼きを食べつつ焼きつつ、そろそろ事前に準備したマシユマロも食べていきましよう〜?」

「お、そうだった! たし焼きで頭いっぱいだったけどマシユマロの返信もやるぜ!」

「そ、そういうえば、さつきマネージャーさんが言っておったの」

オフコラボの配信を始める前にマネージャーの真根さんが言っておったの。

3人の初めてのコラボ、しかもオフコラボということで色々オフコラボに合わせたマシユマロが来ていた気がする。

えーっと、どんなのが来ておったかの……?」

34 配信目【#異世界たこパ】オフでたこパを開催
じや【レイ・ブレイブ／リリイ／ニーナ・ナナウルム】
4

「じや、マシユマロ返していくぜ！ 最初はコレだ」

ニーナ！ニーナ！ニーナ！ニーナ！ニーナああああわああああああ
あああああああああああああああん!!! ああああああ：ああ：あつ
あつー！ああああああ!!! ニーナニーナニーナああああわああ
ああ!!!

ああクンカクンカ！クンカクンカ！スーハースーハー！スーハー
スーハー！いい匂いだなあ：くんくん んはあつ！ニーナ・ナナウル
ムさんの綺麗な黒の髪をクンカクンカしたいお！クンカクンカ！
あああ!!

間違えた！モフモフしたいお！モフモフ！モフモフ！髪髪モフモ
フ！カリカリモフモフ：きゅんきゅんきゅい!!

配信初回のニーナたんかわいかったよう!! あああああ：あああ：
あつあああああ!! ふあああああんっ!!

レーペツクスかつこよく決まって良かったねニーナたん！あああ
ああああ！かわいい！ニーナたん！かわいい！あつあああああ！六
花と天花も名付けされて嬉し：いやあああああ!!! にやああああ
ああああん!! ぎやあああああああ!!

ぐああああああああ!!! 黒髪のじやロリなんて現実じやない
!!! あ：配信もレーペツクスもよく考えたら…

ニーナちゃん は 現実 じや ない？ にやああ
あああああああああん!! うああああああああああ!!

そんなあああああ!! いやああああああああ!! はああ
あああああん!! 魔王城ああああ!!

この！ちきしよー！やめてやる!! 現実なんかやめ：て：え!? 見：

てる？画面のニーナちゃんが僕を見てる？

画面のニーナちゃんが僕を見てるぞ！ニーナちゃんが僕を見てるぞ！のじゃロリのニーナちゃんが僕を見てるぞ！！

レーペックスのニーナちゃんが僕に話しかけてるぞ!!!よかった：世の中まだまだ捨てたモンじゃないんだねっ！

いやっほおおおおお!!!僕にはニーナちゃんがいる!!やったよ勇者!!ひとりでできるもん!!!

あ、画面のニーナちゃんああああああああああああん!!いやあああああああああああああ!!!

あっあんあっああんあ天使あ!!り、六花!!天花ああああああ!!!ノゾミちやあああ!!

うううううう!!俺の想いよニーナへ届け!!魔王城のニーナへ届け!

「ニーナ！ニーナ！ニーナ！ニーナああああわあああああああ
ああああああああああああん!!! ああああああ：ああ：あっ
あっー——」

「ばっ、読み上げて良い！ な、なぜそ、それを選んだんじゃお主?」
「あらあら〜」

：草

：いつものコピペ

：読み上げようとしてるの草

：天使w

：最初からカロリー高くて草

：さすがのセンスだ。気に入った殺すのは最後にしてやる

：納得の選出

：これは天使

「え、いやだって。この1〜2ヶ月の私の気持ちを見透かしたかのよ

うな素晴らしいマシユマロだったからしようがないのぜ……」

「おおおおお、お主のう……!」

「ちなみに今、私は猛烈にニーナの黒髪セミロングをクンカクンカしたいお!!!」

「や、やめんか! く、来るでない! 手をわ、わきわきするな……!」

「ふふふ、さあお嬢ちゃん、おじさんとスケベしようや… へへっ

……」

「あらあら、おいたはダメよりリイ? ニーナちゃん怖がっているわ」

「え、あ、うん。ごめんなさい。うん、謝るからさ、レイ、私の腕掴むのやめようか。ぎぎぎって嫌な音を立てながら腕を後ろに回されて私の腕の関節が悲鳴を上げてイテテテ! 痛い! ギブ! レイ!

私ギブ! ごめんで!」

「ふふっ、物分りが良い子は好きよ」

「この空間やばい奴しかいないのじゃ……」

・くっそw w w

・この数秒で3人の関係性が分かるなw

・悪はやっぱり敗れるんだよなあ

・悪(天使)

・勇者が魔王守ってるの草

・勇者(ボディガード)

・勇者力つよいなw

・たしか勇者握力70kgあるで

・ヒエツ

「じゃ、じゃあ次のやつ行くのだけ……」

3人でじゃんけんをして、負けたふたりがお互いに告白してください。
い。

で、勝った人はそれについてコメントをしてください。

「んなッ?!」

「ほう……」

「あらあら〜」

…ガタツガタツガタツガタツ

…→おちけつ

…魔王様負けろお! (魔王様頑張れ)

…→逆だったかも知れねえ…

…はよはよ

…わくわく

「ま、まてまだやると、決まった、わけでは……」

「なんだ魔王様ともあろう御方が敵前逃亡かく?」

「ぐぬ……い、いいじゃろう! わ、我が勝てばよいだけじゃからな

! 歴代最強! 一騎当千の強者と名高い我が、じゃんけんであろう

と負けるはずないのじゃ!」

「ふたりともやる気満々ね〜」

「よし、行くぞ! 最初はグー、じゃんけん——」

「二ポンっ」

…魔王様すーぐ乗せられる

…魔王様声震えてますよ

…まあ、魔王様未来が見えるともつぱらの噂ですし

…頑張れ天使

…→なんか水晶必須って言ってたゾ

…(いけるか……?)

…どうだ……?

…天使と勇者の告白も結構期待

「~~~~っ!!」

「っし！ お前ら！私の役割は果たしたぜ！」

「あら、負けてしまったわ」

・天使の一人勝ちか！

・ナイス天使！

・こればかりはナイスと言わざるを得ない

・勇者の告白ってどんなだろう……？

・→貴女は一生私が守るとか？

・なにそれええやん

・一生守る（拉致監禁）かもしれん

・草

「んじゃ私の勝ちだからな、二人には愛の告白をしあってもらいま
す！ イエーイ！どんどんぱふぱふ！」

「ぐぬぬ……」

「じゃあ私から行くわ」

「お、じゃあレイからな。3・2・1, キュー！」

我が悩んでいるのを尻目に、レイがこちらを向く。

一瞬目があつたが、我はすぐさま目をそらす。

いや、コレばかりは条件反射なんじゃ。許せレイ。

するとレイがこちらに近づき、我の両頬を手のひらで包み、強制的
に我の顔を前に向ける。そうすると必然的に我とレイの目と目が合
うわけで……

「にや、にやにを……?!」

「ニーナちゃん」

「は、はい」

「ニーナちゃん。貴女のこと大好き。今までも、そしてこれからも。
気がつけば貴女のことばかり考えているの。」

——これから先もずっと、私は貴女のことを愛していいかしら？」

「……」

まっすぐこちらをみて、柔らかに、けれど力強くレイは言う。

我は自分の頬が紅潮しているのが分かった。

な、なんじや?! こんなにもまつすぐな言葉が存在するのか?!
う、狼狽えるな我。

：百合の花が咲いたよ

：キマシタワー!

：はあ、好き。

：(鼻血)

：百合は素晴らしき無形遺産

：ここにキマシタワーを建てましょう

「つかあ~~~~~!!! 良い! すごく良いぜレイ!

いつものどこか天然な性格と、今の着飾らないまつすぐな告白の
ギャップがたまらん! 照れるニーナもサイツコーに良い! いい
ねボタンを何回も押ししたい気分だぜ。

さあ、それに対してニーナはなんて応えるんだ?!」

「わ、我も、……そなたのことが——」

うぐぬう……

こ、告白なんて一度もしたことないのじゃぞ?! 前世でも告白はさ
れど、したことなぞない!

ていうかなんかさっきのレイの告白で動揺しているから知らん
が、全然考えがまとまらない!

なんて言えばよいのじゃ?!

とりあえず好きって言わなきゃいかんのじやろ?!?!

ええーい!!

「そなたのことが—— 大好き、じゃ」

「つぐ……!」

「なはっ……!」

：おおおおおお

え、今勇者が限界化限界と化すこと。「限界オタク化」の略。した

?

：ぐって勇者が言ったよな?

…ついに勇者が魔王に堕ちた？

…つぐ… (致命傷)

「な、なんじゃ、わ、我にとつてはこ、これが精一杯なのじゃ」

「いや、そうじゃないぜニーナ。素晴らしいんだ」

「わ、私も今のはとつてもきたわ。なんだか久しぶりに心臓の鼓動が早く感じるわ」

「いやあやばいぜ… ちよつとたこ焼き食べて休憩するぜ…」

…この桜えびたこ焼きうまいな…」

35 配信目 【#異世界たこパ】オフでたこパを開催
じや【レイ・ブレイブ／リリイ／ニーナ・ナナウルム】
5

「チーズが入っているたこ焼きって意外と美味しいのね〜」

「だな。結構イケる」

「う、うむ」

「じゃあ、次のマシユマロは…… これにしましょう」

水35 L、炭素20 kg、アンモニア4 L、石灰1.5 kg、リン80
0 g、塩分250 g、硝石100 g、硫黄80 g、フッ素7.5 g、鉄
5 g、ケイ素3 g、その他少量の15の元素、ケミカルX 及びその
個人の遺伝子の情報

「これはなんの材料なんだ？ 理科の実験の途中かなにかか？」
「ふっふっふー。これは、人間の材料じやな。結構オタクには有名
じやぞ？ 若干変なものも混じっておるが、我の世界でも概ねこの素材
が通説じやったな。人間はこれらの材料から出来ておるが、ここから
完璧な人間を作るのは地球上でも、我のいた世界でも、まだ誰にも出
来ておらんな。」

かくいうこの我も魔法大学時代は人体錬成の研究—— まあもつ
と平易に言うとはムンクルスの研究をしておったのじやがこれがま
あ難しいのなんの。ゴーレム学をもともと専攻しておったからそこ
からの応用で、地球で言うところのAIみたいな思考回路を持ったホ
ムンクルスの錬成に一応は成功したの。ただなあ、魂や感情の定義付
けがどうしてもうまく行かなくて結局は完璧なムンクルスには程

遠かったの。一部の感情が突出してしまうし普通の人間みたいな標準な感情或いはときに波風立つ感情というものは――」

「うおっ?! 急に饒舌になるなッ?! びっくりするわ!」

：魔王様特有の早口

：自分の好きな分野で早口になるオタク君

：ああまた発作が……

：全然息継ぎしなくて草

：w w w w

：いつもの

：おいたわしや魔王様

：そんなんやからコミュ障なんやぞ

「感情に乏しいホムンクルスは比較的容易に作成することは可能じゃが、これを逆に、一部の感情のみ突出するようにしても比較的簡単につくることはできる。まあ比較的簡単とはいっても作成には莫大なコストと労力が必要不可欠なわけ――」

「さあ、それじゃあ次に行くわ」

3人でお泊まりオフコラボしてください

お願いしますなんでもしま（ry

三人オフコラボでゲームを所望します!!

次回のオフコラボはいつですか？

気になって夜も9時間しか眠ることができません。

正直なところ、オフじゃなくてオンでも良いのでコラボ見たいです。

例えばホラーゲーム実況とかどうでしょうか？

天使様や勇者様はホラーゲーム耐性があるかも知れませんが、おそらく魔王様は耐性が低いと私は睨んでいます。

ということとはつまり、魔王様の悲鳴やら泣く様が聞けるわけです。私はその声が聞きたいと思っています。

ご一考のほどよろしくお願いいたします。

「ほらニーナちゃん。次のマシユマロよ。

次のオフコラボはいつですか？ ですって〜 どうする〜、ニーナちゃん〜？」

「え、あ、う、うむ。すまぬ…… う、うむう…… オフ、コラボ…… い、いや、というか最後の何じやよ?! 最後送ってきたやつ、お主の文章のほうが幽霊なぞよりよっぽど怖いわ！」

：ん？今なんでもするって…

：草

：後半正体現してて草

：コラボ乱発してもいいぞ

：今回でコラボだいたい慣れた？

：なんか最後のやつ、最初期のマシユマロで似たような文章あった
希ガス

：悲鳴大好きニキwww

：快眠で草

「ホラーゲームか…… なるほど閃いた——」

「閃くんじゃない！ お、お主よいか？ やめろよ？ たとえ誘われ
ても我はやらぬからな……！ ホラーゲームほど意味の分からんも
のではないぞ？ びっくり系は最悪別に良いのじゃが精神系ホラーだ
けはぜつつつたいたいダメじゃ。なんていうのかの、暗い部屋に日本
人形とかおいてあるやつとか精神がおかしくなるようなやつとかダ
メじゃ。ピザ屋のバイトとかもダメじゃぞ。昼間に見てもどこか不
気味なおもちやが夜に歩いてるとか——」

「ニーナちゃん落ち着いて落ち着いて。ふふっ、まあ、そうね。今後
の参考にしますってことにしましょう？」

「うーむ、単純に誘ってもダメなら何かの罰ゲームか……」

「おおおおお主、何をブツブツい、言っておるのじゃ……?!」

・あいかわらずの天使で草

・ピザ屋キボンヌ

・草

・魔王様結構打ち解けてきたなw

・悲鳴ニキのマシユマロすこ

「さあ、次へ行きましょうね」

私は魔王軍のしがないゴブリンです。

実は、ニーナ様はあまりコミュニケーションに長けておりません。

我が主は此度の「おふこらば」なるものを

楽しめておられますでしょうか？

心配で昨日は寝付くことが出来ませんでした。

勇者殿、天使殿。

ニーナ様は照れ隠しで尊大な態度をとってしまうこともあります
が、

根はとても優しく部下思いの良い主なのです。

どうか、我が主を温かい目で見守ってください。

「んにやつ……!」

「今、ニヤ」って言ったよな」

「あらあら、魔物のくせに意外といいこと言うわね」

・めちやくちや真面目で草

・いい部下やん……

・ゴブリンのくせしていいヤツ

・ゴ布林どもは皆殺しだ

・→スレイヤーさんは落ち着いて

・(魔物の「くせに」……?)

・悲鳴ニキのマシユマロのあとにこれは草

「で、実際どうなんだ？ 私的にはニーナも結構楽しめてると思うんだけどなく。最初の方は緊張しまくりだったけど、今はもう結構慣れてきてる気がする」

「う、うむ…… 確かに最初、ほどは緊張してない、と思う。結構なんだかんだ話せてるし……」

その…… 事前の練習の甲斐もあるし、なんていうか…… その……

お主ら、結構いいやつじゃしな」

「あら。そんなこと言われると抱きつきたくなっちゃうわ……。えいっ!」

「って言うとするそばからだ、抱きつくな! そういうところは好かんのじゃ……!」

「ふふっ」

・てえてえ

・てえてえ

・素晴らしい

・あら〜

・てえてえ

・日本が核を持たない理由

・これがV t u b e rですか

・ふーむ

「まあ、まだニーナは目を合わせて私らと話してくれないけどな！」

「しよ、しようがないじやろ？ 人の目を見て話すとかそんなレベルは無理じゃ。あと1年は待ってほしい」

「1年は長いわね〜」

36 配信目 魔王様のペットになるボイス

「ふんふんふーん♪」

鼻歌を歌いながらパソコンを操作する。

今日は魔王ニーナ・ナナウルム様こと、まーちゃんのボイス発売日だ。

そう、まーちゃんの初めてのボイス販売なのだ……！

もちろん購入した。

私は普段、V t u b e r のボイスをあまり買わないが、今日は別だ。爆速で買った。光の速さで買った。何なら家にあるイヤホンが調子が悪かったので、事前に良いやつを買ってある。準備万端。

今回のボイスはまーちゃんの登録者が15万人を突破したことを記念して収録されたものだ。

つい先日、登録者10万人突破記念でオフコラボがあったが、そのオフコラボ開催直後に今回のボイス収録の話が持ち上がったらしい。初めてのボイス収録にまーちゃんは行ってこ舞いだった。まああのテンパりぶりもカワイイことこの上ないのだけれど。

オフコラボのときはちよつと協力したけれど、今回は普通の「ニーナ様のファン」としてボイスを聞きたかったので、ネタバレ回避のため、収録会場に付いていくことはしなかった。

まーちゃんは「ええ?! 来てくれないのか?! キラキラライブのし、知らない人とお、お仕事とか無理じゃ… 無理ゲーじゃ…。」と嘆いていたが、オフコラボで仲良くなったレイさんとリリースさんも同日にボイス収録があるので、一緒に行ってくれることになって、なんとか納得してくれた。

涙目になりながらも頑張つて収録に行くまーちゃんとっても良かった。

まーちゃんってどんなことしてもカワイイから凄い。はあ……あのときの表情、ムリ。尊い……。

ちなみに、レイさんとリリースさんも同じく登録者15万人突破記念のボイス収録だそう。

魔王、勇者、天使の3人は登録者数が各々ほとんど一緒なので、○記念、というのが結構時期がかぶったりする。

「やっとな準備完了なのだけ」

そんなふうに思いを馳せていると、ダウンロードが終わった。

現在時刻、休日の13時過ぎ。

ボイス販売開始時刻の13時ジャストにすぐさま購入して、パソコンにダウンロード。そして、それをスマホに移して、ベッドへGO。今日はこのビッグイベントのために他の予定を何も入れていない。存分に楽しむのだけわ！

先日買った、そこそこ良いお値段のするイヤホンをセットして、ベッドに仰向けになって目を閉じる。

ボイスを聞くときは、なんていうか、自由に救われてなくちやいけないのは常識だ。

「ペットになる準備は万端ねー！」

今回のボイスのタイトルはなんと『魔王様のペットになった件』。販売ページの説明文もそそのる内容だ。

*

日本ではない、遠い、遠い世界。

ある日あなたは人類と敵対している魔王軍に捕まってしまいます。屈強な魔物に連れていかれた先には、小さな魔王様がいました。魔王様はその小さな唇で貴方に命令を下します。

『人間よ。お主には、我の愛玩動物——すなわちペットになってもらおう』

妖艶に笑う魔王様は心底楽しそうです。

*

一体どんなボイスなのか、ワクワクが止まらない。

タイトルのなにかいかがわしいものを想像してしまいそう。まあ私はそれでも一向にかまわないけれど。というよりまいちゃんのパットになることを断る人は多分いないだろう。

スマホの画面でミュージックアプリを起動して、パソコンから取り込んだボイスを選択。

ボイス時間は40分。初回用と2回目以降視聴用の2つがある。結構力が入った作品だ。

「んし」

精神統一して再生ボタンを押す。

程なく、コツ：コツ：と冷たい石畳を歩く音が流れる。同時にジャラジャラと、金属と金属が当たる音がする。状況的には、手錠をかけられて、鎖で魔物たちに引っ張られて、暗い石畳を歩かされている感じ：かな？

しばらく靴音だけが続き、ギイ：と重い扉が開く音がした。

そしてまた歩かされ、ドサツという音がする。

魔王様の前に突き出された感じだろう。

『くくく…… 呆けた顔をしておつて。なんとも：いじり甲斐のありそうな人間じゃ』

聞き慣れた、けれども雰囲気の違い、甘く可愛い声。

今の私は、魔王軍に捕らえられ、魔王の前に突き出された哀れな人間。

——ああ、やばい。ゾクゾクする…… 今までこういうシチュエーションの買ったことないけど、存外いいかんじじゃん。

魔王ニーナ・ナナウルムから見下されながら状況の説明が始まった。

私が魔王軍につかまったこと。

ここから逃げ出すことは出来ないこと。

魔王様が新しいペットとして人間を飼いたいと思っていたこと。

『やはりトツプたるもの、変わったペットを飼いたくなるものなのじゃ。ふふふ、安心して良いぞ？ ちゃんと人間の飼い方は調べてあるからの！』

……ああ、そうじゃった。これをしないとセバスから怒られるからな。ククツ。ほれ、顔をこちらに向けよ』

コツコツと靴音がこちらに近づいてきて、布のこすれる音が近づいてきて、いたずらっぽく魔王様が笑う。

そして、『チュツ…』という口づけの音がした。

『今のはちよつとした隷従魔法じゃ。お主が我に謀反を起こさぬようにな。』

これをしてないとセバスが煩いんじゃないやよねえ。ニーナ様の身の安全が、とか。こんな小童こわっぼに我がやられるわけなからうに。のう？

ククク… そう怯えるな。お主にとつても悪い話ではないぞ？

なんせ、この我から寵愛を受けられるんじゃないやからのう。それに……お主、人間の世界では色々とストレスがたまる生活をしておったじやろう？ ククツ、我に隠し事は無駄じゃ。『見える』からの』

魔王様は『さて…』と話を続ける。

『お主は愛玩動物じゃ。つまり、我から大切に可愛がられることが仕事なわけじゃが……』

もう夜も更けてきたのう。ほれ、私の寝室にいくぞ。……なんじゃ？ 愛玩動物なのじゃから、我と一緒にするのは当然じやろう？』

べ、ベッド……!!

『ケルベロスがまだ小さいころは一緒にベッドで寝ておったのだがのう。体長が12メートル超えの今となつては流石に一緒にベッドで寝るのは厳しくてな…… 我は構わぬのじゃけど、セバスがダメっていうのじゃ。『そんな凶体の大きな生き物を城内にうるつかせてはいけません』』とな。ちーとばかり厳し過ぎと思わんか？

……うーむ、相づちはしてくるが、お主、随分と無口なやつじやのう。まあよい。最初は少しツンケンしてるくらいがちようど良いのじゃ』

そんなふうに魔王様から話しかけられつつ、コツコツと小気味よい靴音が響く。

『ここが寝室じゃ。なかなか良いベッドじやろう？』

さて、ふあくあ…… じゃあ……寝るかの。……ほらどうした。お主、もっと近ちこう寄らんか』

魔王様の着ている服の擦れる音か、はたまた掛け布団の音か。布が擦れる音が心地よい。

そして魔王様の吐息が耳元で聞こえる。

『ふふっ…… そう照れるな。初^{はつ}いやつめ。

お主が人間界でどういう扱いを受けていたのかはある程度知っておるぞお？ 仕事か学業かは知らぬが、随分と疲れる生活をしておったじやろう。今日も随分と疲れたんじゃないか？

もう、そのような生活は綺麗サツパリ忘れろ。

我はお主を愛でる。それすなわち、お主は我に甘えて良いということじゃ』

魔王様の心地の良い囁き声が耳を撫でる。

まるで本当に隣に魔王様がいるみたいだ。

『ケルベロスは顎の下を撫でるのが好きじゃったが、お主は人間じゃからな。頭をよしよしと撫でるのが良いじやろう。飼い方を調べた本にもそう書いてあったしな。

ほら、よしよし。いっぱい甘えろ。私の愛情を拒否するなど愚行にも程があるからな』
なんだろう。

すごく気持ちよくて心地よくて、このまま眠りについてしまいう。このボイスは安眠用のボイスだったのか…… 毎日聴こうかな……

『ふふっ。眠くなってきたか？ うとうとしている姿もなかなか可愛いじゃないか。

お主をペットにして正解じゃ。

……そうじゃ。子守唄でも唄ってやろうか？ 我がよく母上に唄ってもらっていた唄じゃ。

~~~~~♪ ~~~~~♪』

どうやら日本語じゃないようだが、不思議と耳に馴染む、優しい音色。

このボイスのために作ったのかな？ 凄<sup>すご</sup>い曲ね。

\*\*\*\*\*

「良い……」

ボイスが終わって、自然とその言葉が私の口から溢れた。

あく！ やばい。

まーちゃんのちよつぱり嗜虐的な声色も、耳元で囁かれるような声も、とつても良かった。

人間の世界なんて未練ないから、魔王様の従順なしもべになるしかないわ！

やつぱりまーちゃんは最高だ。

いやあ、本当に素晴らしいのかわ！

「ボイスだけでも素晴らしいのに、こうやって沢山のまーちゃんに囲まれながら聴くボイスはより一層最高だわ……！」

そう言って、私は部屋を見渡す。

天井や、四方の壁。至るところに「まーちゃん」と「ニーナ・ナナウルム」の写真が貼ってあり、どこに目を向けてもまーちゃん達と目を合わせることができる。

部屋にはニーナ・ナナウルムのグッズももちろんすべて完備してある。

私は壁にある一枚の写真を見る。

オフロボ前のまーちゃんとの特訓のときに撮った写真だ。

恍惚としながら、なんとはなしにその写真を右手で撫でる。

「ああ…… まーちゃん。やつぱりまーちゃんは素晴らしいのかわ……」

これからもずっと推していこう――。

37 配信目 【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達  
P a r t. # \$ 【キラキラライブ】

【V t u b e r】魔王様を見守る臣下達 P a r t. # \$ 【キラキライ  
ブ】

・  
・  
・

36 : 名無しの下級臣下 I D : B W L L N Q O M 2  
皆はボイス買ったか？

37 : 名無しの下級臣下 I D : Z 9 L o H V 9 e 4  
魔王様、勇者、天使。いずれも販売開始の13時に買ったがなにか  
？

40 : 名無しの下級臣下 I D : u l 4 8 F b r e o

>>>37

下級臣下の鑑

41 : 名無しの下級臣下 I D : a 9 t c b 2 C S 5  
正直俺買うか迷ってるんだけど、どうしよっかな…… V t u b e  
rのボイスとか買ったことなくなっけ。Vのボイスって結構高い  
じゃん？

買って後悔しないかな

42 : 名無しの下級臣下 I D : 7 2 s 6 t W n l l  
絶対後悔しない

44 : 名無しの下級臣下 I D : Q z M F t y M S y  
確かにVのボイスって結構高いけど、今回の魔王様のボイスに関し

ては間違いなく買いだよ。

45：名無しの下級臣下 ID：FpCJfjDLf

魔王様のボイス収録時間が合計1時間弱もあるし、初回用と2回目以降の2本立てとかいう超豪華仕様だぞ。

初回用はペットになる導入が入ってて、2回目以降用のは添い寝から始まるから寝る前に使いやすい。

46：名無しの下級臣下 ID：UMa5Ymnf9

ボイスとしての完成度高いし、普通に安い

48：名無しの下級臣下 ID：5xSbiJaYj

なんならおまけで子守唄だけVer.もあるしな。

50：名無しの下級臣下 ID：pP+HcLZdA

子守唄ほんとすこ

たぶんこれから寝る前に毎日ループ再生すると思う。

53：名無しの下級臣下 ID：+s7Vhs5S5

おk、分かった！

めっちゃ迷ってたが、ここの臣下達がそこまで推すなら買うわ！

55：名無しの下級臣下 ID：FC4wL2AVY

ようこそ、魔王様の子守唄沼へ：（満面の笑み）

58：名無しの下級臣下 ID：6xby3r+pZ

そんなに子守唄いいの？

59：名無しの下級臣下 ID：JAyBU7mVa

子守唄が良いというよりは、ベッドシーンが全部良い。

ほんとに魔王様が隣に居るんじゃないかと錯覚してしまう。



62 : 名無しの下級臣下 ID : 09XFx+LmL

>>59

ベッドシーン (意味深)

65 : 名無しの下級臣下 ID : HB17YtTZT

音響もかなりこだわってるよな。

というか魔王様だけじゃなくて、異世界3人組のボイス全部音響す  
ごい

68 : 名無しの下級臣下 ID : 9YcY0oObv

キラキライブも着実に技術面で進化してるからな

69 : 名無しの下級臣下 ID : 4HNa++lAZ

子守唄、日本語じゃなくてたぶん造語、というか適当な言葉を歌つ  
てるんだけど、めっちゃ心地よい。

魔王様の優しい声に、温かいメロディ。

素晴らしいの一言です。

72 : 名無しの下級臣下 ID : 3Kv3Njq3o

>>69

あれ今回のボイスのためにキラキライブが作ったのかな？

かなりしつかりした曲だけど

74 : 名無しの下級臣下 ID : aAgakyeFl

一応魔王様がトウウィッターで言及してる。

メタ読みすればたぶん魔王様の持ち込み

ニーナ・ナナウルム

@nina | nanaulm

ボイスに収録されている子守唄、皆気に入ってくれているみたいで

我は嬉しいぞ！

あれは我が作曲したわけじゃなくて、我が国に古くから伝わる歌じゃ。我も小さい頃はよく母上に歌ってもらっていたぞ。懐かしいのう…

76：名無しの下級臣下 ID：vWnM9o140

魔王様すげーな。曲もつくるとか才能の塊かよ

79：名無しの下級臣下 ID：QYFwHk87B

実際魔王様は凄い多才

81：名無しの下級臣下 ID：XgieRI85f

魔王様の写真壁に貼って、グッズ置きまくって囲まれながら聴くとより一層良いぞ！

84：名無しの下級臣下 ID：m35CwiqL9

そんな頭のおかしなことをするやつおらんとw

87：名無しの下級臣下 ID：XgieRI85f

>>>84

やってるが？

88：名無しの下級臣下 ID：AZB2emeGo

ヒエツ

90：名無しの下級臣下 ID：k0+hhmEh2

>>>87

ストーリー犯みたいなことしてんなお前w

91：名無しの下級臣下 ID：DSuS2Nea7

>>87

キツシヨwwwwww

94：名無しの下級臣下 ID：Xg i e R I 8 5 f  
ただ単に推してるだけだよw

96：名無しの下級臣下 ID：J U 7 Q O S M A E  
異常かどうかは周りが判断するんやで

97：名無しの下級臣下 ID：6 M c g 2 k o t P  
臣下の中にも頭のおかしいやつはいるんやなって

100：名無しの下級臣下 ID：K q e f 9 C 3 H C  
そういえば、今回のボイスってオフコラボのあとに話が持ち上がったんだっけ？

102：名無しの下級臣下 ID：4 k q 2 0 6 u Y w  
>>100

そそ、オフコラボのあと3人の登録者数がうなぎ登りになって3人とも15万人超えたから、じゃあ記念も兼ねて作りましようかってなった

105：名無しの下級臣下 ID：y K V 0 8 k 0 w H  
オフコラボ良かったよな

108：名無しの下級臣下 ID：k g f a f I p f g  
オフコラボからはや数週間か  
時が経つのは早いな

111：名無しの下級臣下 ID：x O N 4 5 8 b K 2  
>>105

一緒にたこ焼き機買ってきて作ってたわ  
たこ焼き機でたこ焼き作るのとか学生の時以来だけど、結構楽し  
かったw

112 : 名無しの下級臣下 ID : 0eVJpJhd3

>>>111

一人でやってて楽しいんですか？

114 : 名無しの下級臣下 ID : pqFBOPmA3

>>>112

友達2人と一緒にやってたんだが？

115 : 名無しの下級臣下 ID : aerFMak05

一緒に推しVtuber見ながらたこ焼き作れる友達居るとか羨  
ましすぎンゴ…

116 : 名無しの下級臣下 ID : HerSYnazu

俺は魔王様と勇者と天使と一緒にたこ焼き作って食べてたが？  
一緒に食卓を囲んでいたが？

悔しくないが？

118 : 名無しの下級臣下 ID : hvzLnVmmj

>>>116

やめるんだ…

これ以上傷口を広げることはない…

119 : 名無しの下級臣下 ID : akgsstxt0

オフロボで幼女にぬるぬる触手プレイをさせた名プロデュー  
サーがいるってマ？

121 : 名無しの下級臣下 ID : aiT4JerUr

>>119

材料の仕入れからスタッフと一緒に仕込んでいた天使がいたらしいですね

122 : 名無しの下級臣下 ID : +Y.iHdAX51  
天使のそういうところすこ

124 : 名無しの下級臣下 ID : t9JAfTYJW  
??? 「こうやってブチブチに筋をとって、引きちぎるのよ」

127 : 名無しの下級臣下 ID : 8BKcPSVs4  
人間のふりをしている勇者の話はやめるんだ  
消されるぞ？

128 : 名無しの下級臣下 ID : h97tFYsbZ  
まあでも勇者が人間じゃないのは当たり前というか、あの勇者実は  
……誰だよこんなじかんうわなにをするやめr

130 : 名無しの下級臣下 ID : kZlCIhKm+  
その後彼を見たものは居なかった

131 : 名無しの下級臣下 ID : 5jaSZJ5D5  
一件落着やね

133 : 名無しの下級臣下 ID : ZmEsWWcWX

>>128

>>130

>>131

草。久々にこのテンプレ見たけどなんかほっこりした

### 38 配信目 【雑談】 オフコラボの振り返りがメイン 【キラキラライブ／天使リリイ】

「おつす、皆！ 私の声とBGMの大きさ大丈夫か？」

：おk

：ちようどいい感じ

：オフコラボの話と聞いて

：いいかんじ

：問題ない

「オツケー。大丈夫そうだな。で、今日は配信のタイトルにもある通り、3週間前に行ったオフコラボの話をしようかなと思ってるぜ」

：いいじゃん

：オフコラボよかったぜ

：天才プロデューサー

：ボイス買ったよ！

：ボイス3人も買った！

「お、そうそう。私ら4期生のボイスが絶賛発売中だからよろしくな！ 購入してくれた人はサンキューだぜ！

で、うーん、何から話そうかな…… 皆はなんか質問あるか？」

そう私がリスナーの皆に質問を投げかけると、コメント欄が加速する。

実際に初めて4期生が会って、印象とかどうだった？

たこ焼き美味しかった？

魔王様に触手プレイさせたのナイスすぎ

魔王様のコミュ障具合どうだった？

リリイが本当に料理できるの草だった。今まで疑ってゴメンゴ…勇者と魔王様の愛してるゲーム間近でみてどうだった？

……ふむふむ。

概ね皆のコメントはまとめるとこんな感じかな？

よし、じゃあここらへんの話をしようか。

「そうだな、実際にニーナとレイに会った印象は…うーん…」

レイとはデビュー前に数回会ってるけど、やっぱり清楚な感じがしたな。なんていうか、育ちが良さそう？な感じだな。たこ焼きとか食べてる様子も上品だった」

：はえ、勇者そうなんすね

：勇者はお嬢様か

：確かに言葉遣いとかも綺麗だしな

：→お、そうだな（すつとぼけ）

：ブチブチに千切るといふ発言は上品ですか？

：目玉取り替えてくるね（清楚）

：上品とは…うごご

「ま、まあ発言内容はともかくとして、第一印象は間違いなく清楚・上品だぞ？」

あの日も落ち着いた色合いの大人っぽい服で… あく、どこまでリアルのこと言っているかわからないが、まあ服装くらいいいか。とにかく『落ち着いた女性』って感じだった」

：人は見かけで判断してはいけない（戒め）

：見た目『は』清楚なんだな！

：中身はゾンビみたいなものだから…

：言葉だけは丁寧だからな

：発言内容がヒヤッハーすぎる

「で、ニーナは皆の想像通り、コミュ障だったぜ！」

：草

：自信を持ってコミュ障って言うなw

：草

：おハーブ生えますわ

：これはモーリーファンタジー

「配信前によく握って握手したんだけど、握手もなんか躊躇してたから私から強引にしたな。」

あと、全然目を見て話してはくれなかつたな。事前練習のおかげか配信中の会話は割と出来た気がするけど、目だけは一生合わなかつたな。

あんなにロリ顔でカワイイのにもつたいないぜ！」

：これだから陽キャは……

：最後の発言で台無しだよ

：うーん、これは事案w

：事案

：お巡りさんこつちです

：魔王様に変なこと真顔で言ってるそうw

「いやいや！ 私はなんにも変なことしてないのぜ?!

ただ少し、ニーナに人生経験してほしいと思って生きてたタコでヌメヌメ触手プレイをちょーっとしてもらって、そろそろ仲良くなってきたなーってタイミングでニーナにあくんして食べさせたただけだぜ?!?!」

：ギルティ

：有罪じゃん

：推定有罪

：最初から最後まで有罪じゃん

：→最後までチョコたつぷりのお菓子みたいだな

：ぐぬぬ

：満場一致でギルティです。

：羨ましい

：★そういえば、タコとか食材の仕入れってリリイがやったんやっけ?★

「がーん…… 皆が私の弁護をしてくれないのだぜ……」

あー…、私が食材の仕入れに行つたつてより、スタッフと一緒に準備した感じかな。生きたタコは私が提案したし、結構企画の段階から一緒にやらせてもらった。裏方の仕事も結構楽しかったぜ」

：これな、意外と天使やるよな

：えらい!



：めっちゃやる気じゃんw

：オフコラボにける思いが強い

「まー、なんていうか、私ら4期生が初めて一堂に会する場面だったしな。

私も〴〵いっちゃ記憶に残る素晴らしいコラボにするか!〴〵って感じで結構ノリノリだったな」

：己の情欲以外は素晴らしい天使

：性癖だけがダメな女

：性癖以外は完璧なんだけどな。。。

：仲間思いのいい女

：ホント性癖以外はいいんだよなあ

：神はすべてを許すからね、しようがないね

：おお、神よ！なぜ変な性癖を植え付けてしまったのか

：★魔王様はどんな服装だったの？★

「マイナーな性癖は世界を救うから良いんだぜ！

ん？ ああ、ニーナの服装か。ニーナさ、まじであのまんまの口りっ子でさ。私びっくりしたんだよね。〴〵ああ、天使はここに居たんだな〴〵ってね」

：天使はお前定期

：天使はお前だよw w w w w

：あんたが天使じゃw w w w w

：魔王が天使とは・・・？

：天使w w w

「いやいやマジでこの世の宝な感じの口りっ子でさ。オーバーサイズのダボツたいTシャツに、下はショートパンツでさ、そのくせのじや口り口調じゃん？

〴〵おいおい、オタク君の好きなものでんこ盛りじゃん〴〵っていう感想でしたね、はい」

：天使が興奮してるw

：性癖暴露大会なみに言葉に熱がこもってるw

：魔王様マジでロリっ子なのか：

：→古参はおてて配信でロリっ子なの常識ぞ

：おてては確実にロリだったしな

「まあ、コミュ障なのは配信と同じでさ。なるべく優しく声掛けしたり、会話のパスがしやすいように話そうなって、ニーナと合う前にレイと打ち合わせしてたんだよな。」

あと、ニーナも交えてチャットで色々交流図って少しでも打ち解けられるようにな。

その甲斐もあって、目こ合わせられなかったが、結構ニーナと打ち解けられてさ、なんていうか、オフコラボしてよかったな：って感慨深かったよ」

：はえ、リリイいとこあるやん

：その心遣いやっぱ天使イケメンやわ

：これがコミュ強か：

：随所に心遣いが観られた良い配信だったな

「んで！抱きついたときにニーナのおっぱいというか、ちっぱいに触っちゃってさ——！」

：、（・ω・）／ズコー

：あーあ、台無しだよwww

：おいー！www

：イケメンかよって思ったら変態だった：

：人がせつかく見直していたのにw

：草

：急に方向転換するのやめいwww

### 3.9 配信目 ビッグイベントを企画中なんです！ぜひ！

『キラキラフェスティバル……ですか？』

ある日の夜、突然真根さんからチャットが来た。

内容はよく分からなかったが、キラキラフェスティバルなるものに出てほしいというものだった。我はその単語を初めて聞いたが、なんのこっちゃ分からんぞ？

とりあえず復唱する形でチャットにそう返信する。

『そうです！ キラキラライブを応援してくれるリスナーさんたちへの感謝も込めて、会場を借りてやる大きなイベントを現在計画中なんです。』

ライブがメインで、その他にも色々なイベントを企画中です』

『ライブというのは？』

『歌って踊るライブのことです。それにニーナさんも出てほしいんです！』

我は内心ええ……と思う。

たしかにV t u b e rでも現実の人間のように、現実の会場を借りてライブをすることはある。キラキラライブより1年先輩のV t u b e r会社もたしか半年くらい前にライブをやっていたと思う。

知らない人からすると、「現実に存在するわけではない存在がライブをやる？どゆこと？」となるだろうが、実は前例が結構ある。V t u b e rに限らず、ボーカロイドみたいな電子アイドルも現実でイベントをやったりするのだ。

学校や会社で使うプロジェクターやスクリーンは、スクリーンに対して、直接前から光を当てて映像を写しているが、こういったバーチャルとリアルを融合させたライブでは、透明なスクリーンに後ろから光を当てて、あたかもそこに存在するように見せる技術を使っている。

ホログラムみたいな技術はまだないが、現代の技術でも似たような

ことはできるのだ。

なので、キラキラライブが現実で大きなライブをやるとしても、別に不思議でもないし、応援したいと思う。

じゃけどね？

我に出演しろというのはいささか酷じゃなからうか？

我、自慢じゃないけど、コミュ障じゃからね？

うん…… 言ってて悲しくなるけど、コミュ障なんじゃよ。コンビ二で「袋はどうされますか？」って聞かれて、「え、え、あ、い、います……」って言っちゃうくらいにはコミュ障じゃからね？

そんな我に、大勢の前で、歌って踊って、皆を笑顔にしてください！っていうのは結構無理言ってると思う。

まあたしかに？ 最近は結構コミュ障とか改善してる気もするけどね？

オフコラボとか大成功だったし？

我、自分の成長が恐ろしいけどね？

『私にライブはまだ早いというか…… 無理な気がします。』

せっかくお金を払って見に来る人に申し訳ないというか……』

『大丈夫です！』

ニーナさんはきつと大勢の前に出ることを不安視されていると思うのですが、そこはV t u b e rですから問題ないです。

お客さんの前には、大きな透明スクリーンが設置されていて、そこに等身大のライバーの皆さんが映し出されます。ライバーの皆さん自身は別室のキャプチャ部屋で歌って踊っていただきます。つまり、直接出るわけじゃないのです』

確かに我はV t u b e rじゃから、直接お客さんの前に出ることはない、か。

別室でモーションをキャプチャするための機器に囲まれながらライブをやるわけだな。

うーむ…… それならできるのか？

いや、でも、普通に考えて、あまり話したことのないキラキラライブのスタッフさんと一緒にやり遂げられるか？ レイやリリイ、ちーちゃんならまだしも、全然話したことのないライバーだってたくさんいる。

コミュ障の我が見知らぬ人に囲まれてうまくできるか……？ ボイス収録のときの比じゃない。甚だ疑問ぞ？

『うーん……』

『フアンの皆さんもニーナさんが出演してくれることをきつと期待しています！』

それにあれですよ！ ニーナさんが目標にされているコミュ障脱却にも一役買おうと思うんです！

スタッフやライバーの皆さんと一緒に大きなことを成し遂げる。きつと皆さんと仲良くなれます』

『うーむ……』

『ニーナさんには私、個人的にも絶対来てほしいんです！』

他のスタッフさんもそう思ってます。この前のオフコラボ、社内でもちやくちや褒めてましたんですよねえ』

うーむ……

ん？ 今なんと？

『そんなに評判良かったんですか？』

『ええ！ たじたじなニーナさんが可愛かったこともそうですが、なによりコミュニケーションがあまり得意ではないのに、オフコラボに一步踏み出したその勇気を称える声も大きかったです。特に部長がめちやくちや褒めてました』

『そんなに褒めてくれたんですね……』

『そりやすごかったですよ！ 部長って、たしかニーナさんの面接も担当してたんですけど、〃自分の目標を見失わずに、着実に前へ進んでいる。誰にでもできることではない〃 って手放しに褒めてました

！』

ふふふ、そんなに褒められるとて、照れるのおく。

部長とやらは私の面接を担当していたのか。

ふふふ、なかなかどうして良い審美眼をもっているじゃないか。

『そんなに褒められると悪い気はしませんね…！』

『私含めファンのため、部長のようにニーナさんに期待している人のため、そして何より、ニーナさん自身の飛躍のためにも、参加、いかがでしょう…?!』

ニーナさんの声とっても綺麗だし、歌も映えると思うんです！』

そこまで言われると悪い気はしない。

やはり、見る人が見ればわかるものだ。

私は成長している。そして我は素晴らしい。

……ふふふ。

いかん、口角が自然とあがってしまうな（笑）。

『そこまで言われてしまうと断れませんか。分かりました。頑張ってみます』

『ありがとうございます！』

では早速参加の方向で調整しますね！』

まあ、不安もあるが、……ふふふ。なんとかなるじやろう。

我ってば、まっこと天才じゃな！

## 40 配信目 魔王様3D

我は今日、キラキラライブの本社に来ている。

先日の真根さんとのチャットでキラキラフェスティバルへの出演を了承してからすぐ、真根さんから3Dを試してみたいという依頼があった。

そういえば我、3Dモデルないけどどうするのかな?と思っていたが、どうやら魔王、勇者、天使の異世界3人組の3Dモデルは水面下で製作中だったらしい。今回のキラキラフェスティバルの話が持ち上がったので、じゃあそこで3人のお披露目もやりましょうという話になったとのこと。

ちなみに、今日は我、レポートでキラキラライブ本社に来ているわけではない。

なんと、電車とバスという公共交通機関を使ったのだ!  
ふっふっふ。

さすが我。

成長が著しすぎてびっくりじゃ。

キラキラフェスティバルなんていう大きなイベントに出演するのだ。

これくらい出来なくてはいけないからな。

……まあ、かなりしんどかったのは内緒じゃな。

そもそも電車の切符の買い方とかすっかり忘れていたからのう……

困っている我を見かねた駅員さんが教えてくれて事なきを得たが。心優しき駅員さん、ありがとう。挙動不審な我を助けてくれて。

「よっ」

頬を軽く叩いて気合を入れる。

さあ、キラキラライブ本社の受付に突撃じゃ。

「あ、あの。ニーナ・ナナウルムですけど、あの、その、3Dモデルの

件でき、来ました……！」

「あらニーナ様……じゃなくて、ニーナさんですね。ふふつ。お久し振りです。」

今日は3Dモデルの試着でしたね。真根さんから聞いています。ではこちらの名札をつけて801室までお願いします。

……お一人で行けそうですか？　なんでしたら私も一緒に……」

「い、いえ。大丈夫、なのじゃです。わ、我も成長しているので……」  
キラキラライブ本社の受付で許可証をもらって、801室まで向かう。

本当はキラキラライブ本社にあまり来たことないし、一緒に来てほしいけれど、ここは我慢じゃ。我だってもう一人前のライバーなのじゃからな！

ビクビクしながらも、なんとか8階まで向かう。

途中すれ違う人たちが心配そうにこちらを見てきた気もしなくもないが、きつと気のせいじやろう。むしろ我が魅力的すぎてこちらに目を奪われているだけな気がする。うん、絶対そうじゃな。

「ここ、か」

コンコンコンと3回ノックして、部屋へ入る。

「あ！　ニーナさん！　よかったあ〜！　心配しすぎて携帯握りしめてましたけど、杞憂でしたね」

部屋へ入るやいなや、真根さんがこちらへ寄ってきて声をかけてくれた。

「お、来たなニーナ。迷子の案内放送がかかるんじゃないかと心配してたぜ？」

「こんにちは〜、ニーナちゃん。オフコラボ以来ね〜」

真根さんの後ろにはレイとリリイも居た。

今日は二人の3Dモデルの試着もある。オフコラボ以降、二人とはちよつとだけ距離が近くなった気がするし、居てくれるのはすごく安心する。

ま、まあ、我の昨今のコミュカレベルの上がり方を考えれば、二人が居なくてもよゆ〜じゃけれどな！



「それじゃ早速やっついていきましようか！」

とりあえず、お三方にはまず、3Dモデルを見てもらいますね」  
そう言つて真根さんは男性のスタッフに指示を出す。

カタカタカタというキーボードの小気味よい音がなると、部屋に設置されている大きなモニターに3人のモデルが映し出される。

それぞれが2Dのイラストをそのまま3Dに落とし込んだかような、綺麗なアニメグラフィック。素人目に見ても相当手のこんだ3Dモデルだということが分かる。

「おお！ 凄いな」

「ほんとうね、かわいいわ」

「う、うむ」

おのおの 各々感嘆の声を漏らしていると、腕を組んで真根さんがドヤ顔をしている。ついでに、さきほど真根さんが指示をだしていた男性スタッフもメガネをクイツとしてドヤ顔だ。

「ふふふ。そうでしょうそうでしょう？ 私が監修しつつ、私の1年後輩の彼のチームが腕によりをかけて作ってくれましたからね！」

真根さんがそう言うと、後ろの眼鏡の男性スタッフがより一層ドヤ顔をする。

「それじゃあ、早速試着してみましようか。」

モーションキャプチャには、マーカアの付いたこの専用の服をきてもらいます。アチラに更衣室がありますので、着替えてきてください  
ね」

渡されたのは全身真っ黒のスーツ。

関節部などにマーカアが付いた、一見するとウエットスーツのような服。

これを着ることによって、機材を通じて3Dモデルに動きを反映させるわけじゃな。

更衣室へ行き、早速着替える。

うむ、服のサイズも結構ジャストじゃ。

真根さん、いい仕事するではないか。

レイヤリイも隣でキャプチャスーツに着替えているが、このスー

ツはある程度体にピッタリした服だ。まあ、つまり、体のラインが結構出るわけで……

「チツ……」

我は思わず小さく舌打ちをする。

どうして私の周りは胸が大きいやつしかおらんのかな。

まあ別にいいけどね？

人は見かけじゃなくて中身だし？ 我って大人の魅力の権化的なところあるし？

「さて、じゃあ早速やってみましょうか」

そんなことを頭の片隅で考えていると、スタッフたちがあれやこれやとテキパキ準備をすすめる。

機器に囲まれながら、スタッフさんたちからの指示を待つ。

スタッフさんたちがいそいそとパソコンとにらめっこしながらしばらく調整をしてくれると、3Dモデルに私の動きが反映された。

「おお……！」

これは凄いな。

若干動きにノイズが乗っているが、リアルタイムに動いておる。

「おおすげ」

「すごいわ〜」

レイもリレイも興奮気味だ。

「じゃああとはお三方に動きのサンプルをいくつか頂いて、こちらで調整しますので、もう少し々お願いしますね」

3Dモデルを持つVtuberは、『視聴者』としては何度も観ているが、こうして自分になると感慨深いものがあるのお。

## 4-1 配信目 ライブの練習

3Dモデルの試着の日から数日後。

今日はライブの練習のためにキラキラライブ本社へお呼びがかかった。

一応3Dモデルの日以降も真根さんや他のスタッフさんとも打ち合わせが何回かあった。以前までの我なら全部文字のチャットでなんとか済ませてしまおうところだが、なるべく音声による打ち合わせも入れるようにしている。

直接会って打ち合わせをするわけではないが、これでも我にとっては大きな1歩だ。

キラキラライブに入る前と比べたらだいぶ成長したな、我。

さすが我。略してさすが我。

しみじみと思いを馳せたいところではあるが、現実に戻ろう。

打ち合わせを重ねていくことにライブでの私の役回りも決まってきたいて、我は異世界3人組で歌うのと、あと、なんと！ 白月ノゾミちゃんとのデュエットも任されたのだ！ ぐへへ、ノゾミちゃんとデュ、デュエットとか…… 考えるだけで垂涎ものだ。

ノゾミちゃんとはまだお互いの配信でコメントを残したり、トゥウィッターでお付き合いをする程度ではあるが、このライブを機にぐつと距離も縮まって、あんなことやこんなことも……

うへえへあ……

その分緊張も凄まじいな。

で、でも、ら、ライブが終わったら、こ、コラボとか誘ってみちやったり?!

うーむ…… 冷静に考えたら色んな意味で死亡フラグになりそうじゃの。

ノゾミちゃんとコラボとか心臓を3つくらい用意しないとまたないな。……イカかな？

で、今日はライブの練習だ。

V t u b e r のライブの練習と聞けば、現実のアイドルのライブ練習となにか違うことをやるのかも？と思われるかも知れない。しかし、3Dモデルがお客さんの前に出るとはいえど、踊るのは中身である我なので、結局のところ、ダンスと歌のレッスンになる。

「よろしくお、お願いします」

「うし、いっちょやるかー」

「お手柔らかにお願いするわ」

上下赤色のジャージを着て、レイとリレイと一緒にトレーナーさんに挨拶をする。

なんていうか最近レイとリレイと一緒にいることが本当に増えた気がする。

オフコラボがきっかけになつて、ゲームでもちよこ一緒に遊ぶ。まあ配信外でだけど。なんていうかまだリスナーの皆に見せられるような代物しろものじゃない気がするからのう。どもりまくりで挙動不審のフルコースじゃ。

でも、そろそろオンラインコラボしても良いかも知れない。

「はい。じゃあまずは3人のリズム感をみるから軽いステップからですぬ。

私がお手本を見せるから、そこで見ててくださいね」

そう言つてトレーナーさんが曲に合わせてステップを刻む。  
むむ。

簡単なステップと言つていたが、存外難しそうな気がするが？

え？ 何その足さばき？

「はい。じゃあ、とりあえずやってみましょうか」

とりあえず見様見真似でやってみた。

トレーナーさんの指導を受けつつ、何回かやってみる。……結構難しいな……

「うーん…… そうですね。結構3人共筋は良いと思います。

ただ、リレイさんはちよつと振りが大雑把すぎで、ニーナさんは振

りが小さいです」

た、たしかにちよつと気恥ずかしくて振りが小さかったかも知れぬな。

うーむ、難しい。

「本番では後ろの方のお客さんにも見えるように、大きな振りが必要ですが、大きく振るにも繊細さも必要です。まあ、結局は練習あるのみです。

さあ！どんどんいきますよー！」

\*\*\*

「ぜえ…はあ……」

「はあ…はあ……」

そこからみつちり3時間練習した。

いやびつくりじやよ。

ダンスってこんなにも疲れるんじゃない… 歌いながらダンスは

もつと疲れた……

優秀な自宅警備員であるこの我に、なんという仕打ち。ぐぬぬ。

「はい。皆さんお疲れさまです」

「楽しかったわ〜」

ぜえぜえと息を切らしている我とリリイを尻目に、なぜかレイは全く息を切らさずにニコニコしている。

もちろんレイも我らと一緒にみつちり3時間練習していたわけで、なんなら一番キレイツキレに動いていたまであるわけだが……

え？ 意味が分からんが？

何だこのフィジカルおぼけ？

これが世界を救う勇者の体力か——。  
「うん、レイさんはさすがですね。動きに無駄がなく、体力も素晴らしいです。」

ニーナさんやリリイさんはもう少し体力をつけてくださいね」  
「お、おう」

「りよう、かい、じゃ……」

これはアレじゃな、自宅でゲームしながら運動できるリングフットアドベンチャーをみっちりする必要があるのう……

そのまま今日は解散となった。

我はまだ少し息が上がっていたので、そのまま地面にぺたんと座っていたのだが、隣で座っていたリリイはだいぶ体力が回復したのか、うんしょと立ち上がった。

「ふあ……あー！ つつかれたー！ いやあ、ひつさびさにこんだけ動いたわ！」

なあ、帰りにアイスクリーム食べに行こうぜ！」

「あらいいわね」

「天真駅近くに33ー4アイスクリームができたらしいな！ ニーナも天真駅から帰るだろ？ 帰りにちよっくら寄ろうぜ」

今日はレポートを使わずに来てるからたしかに天真駅から帰るが……

そんなコミュ強リア充みたいなことできるじやろうか？

……ええい！ 思い切りが大事じゃな！

「う、うむ」

「うっし！ 決まりだな！」

それに高校生時代を思い出してなんだか懐かしい気持ちが出て、悪くない。

懐かしいのう。放課後に友達と他愛もない話をしながら、夏の暑い日にはコンビニで安いアイスを買って食べたが、アレは格別美味しかったの。

鬼山先生の出す宿題が多すぎるって文句をみんなで言ったり、アニメの話をしたり……

ふっ。

「な〜にニヤついてんだニーナ？」

「うわっ」

昔に思いを馳せていたら急に後ろからリリイが抱きついてきた。

「び、びっくりするじやろう?!」

「いいじゃねーか。ニヤついて楽しそうだったし? なあ?」

「ふふっ、そうね。なんだか楽しそうだったわ。何を考えていたのかしら?」

「いやべ、べつに…… 昔を少し思い出していただけ、じゃ」

「ふーん。ま、そのあたりはアイス食いながらじっくりと聞きますか」

「あら、楽しみね。じゃあ行きましようか」

「あ、ま、まってくれ。我を置いていくなんてとんだ罰当たりじゃぞ——!」

地べたから急いで立ち上がり、リリイとレイの背中を追いかける。

その背中を見てふとあの日々が重なる。

そしてふと感じた。あの日々と同じくらい、今が「楽しい」と感じている自分がいる。

——ああ、悪くないな。

## 4.2 配信目 ライブの練習2

今日はやばい。

とつてもやばい。

何がやばいのかといえば、今日は、なんと！

ノゾミちゃんとの合同練習だ！

ノゾミちゃんには何度かコラボを誘われたりしたのだが、私の心が持たないので今までちよつと遠慮していた。お互いの配信のコメントで交流したりトウウイッターで交流したりは最近は割とあるがの。それがいきなりノゾミちゃん本人とオフで会い、かつ一緒にライブの練習なんて……！

楽しみがやばすぎるが、緊張もやばたにえんの無理茶漬け状態じゃ。

……落ち着け、我。

何事も第一印象が大事じゃ。初めて現実でノゾミちゃんと会うわけじゃが、この対応が今後の我とノゾミちゃんとの関係性の構築へ多大なる影響を与えることは火を見るより明らかじゃ。

……んんっ

「ぎよきよきよ今日はよよおおおろしくお願いします!!」

90度腰を折ってした挨拶がこれだよ……

え？あ？ 第一印象？

彼は遠い旅にでたよ……

「ニーナちゃんってば緊張しすぎだよ〜！ ふふつ。今日はよろしくね！」

緊張しまくりの噛みまくりの挨拶をして、顔を上げれば、そこにはこの世の「善」と「かわいい」を詰め込んだように微笑み、我を気遣ってくれる聖母ノゾミちゃんの姿。

ああ、ここが天国ですか？ え？違う？ じゃあノゾミちゃんは現人神かなにかかな？



「なんだかんだ、ニーナちゃんとかうしてお話するのは初めてだねー！ ニーナちゃんってばイラストそのまんまみたいにかワイイ！」  
「か、かかつかかワイイなんてそそそれほどでもないでございませぬのですのじゃ」

ノゾミちゃんにかかかワイイと褒められたぞ！

おいおいおい、今日の我大丈夫か？ 帰り道で交通事故にでも遭うんじゃないか？

というよりカワイイのはノゾミちゃんなのじゃ。

ノゾミちゃんこそイラストと遜色なくらい、というかそれ以上にカワイイのじゃよ。低身長の我より少し背が高く、お目々パツチリ、肌はきめ細やか。サラサラの髪に思わず指でツンとしたくなる柔らかそうな頬。

おいおいおい、神は、こんなところに至宝を落としてしまったようじゃな！

はあく…、好き。

うーむ、というかマジで天は二物を与えずとかまつぴら嘘じゃね。間違いない。

これほどまでにカワイイのに、ASMRでおなじみのあま〜い神ボイスも合わさりまさに最強。ニコニコと人懐っこそうな表情にグツと来る男子諸君は多そうだ。

「お二人とも、そろそろ時間ですのでレッスンの方始めてもよろしいですかー？」

「あ、はいー！

じゃあ、ニーナちゃん。今日はよろしくね！ 一緒に頑張ろう！」

「ひゃ、ひゃいー！」

うえっへっへへ。

ノゾミちゃんまじかわいいなあ。はあはあ。ノゾミちゃんはマジprpr。

あれ？ ていうか、我、意外とノゾミちゃんといい感じで話せていないか？

具体的に言えば100点満点中、300点くらいのコミュニケーション

シヨンできてるな？

我、成長したな——

自分の成長具合と、今日この日を迎えられることに感謝しつつ、トレーナーさんのところへ向かう。

今日のレッスンは、本番でやるノゾミちゃんとのデュエット曲の練習だ。

特に振り付けの細部を詰めつつ練習するのが今日の目標だ。ある程度振り付けは決まっているが、我やノゾミちゃんらしい振り付けをもうちよつと増やしたものにしたいとのことらしい。

なので、一回通して練習してみる。

ノゾミちゃんとやる曲はカッコカワイイ曲調で、少しテンポがはやいが、振り付け含め、デュエットの資料は事前にもらっていたし、ある程度予習もしてあるから大丈夫だ。

「うーん、ここつてさ、あんまり動きないよね。ニーナちゃん、二人でなんかここにポーズ入れない？」

ノゾミちゃんが事前の配布資料に指を指しながら提案する。

「ぽ、ポーズなのじゃ？」

「そうそう！ たとえば…… トーテムポールとか！」

「と、トーテムポールな、なのじゃ？」

「ニーナちゃん！ トーテムポールっぽいポーズお願い！ 3・2・

1・キューー！」

「え、え、え、こ、こうなのじゃ?!」

突然のノゾミちゃんからのフリに、とりあえず頭にパツと浮かんだ鳥のトーテムポールをイメージして、両手を広げて立ってみる。

……トーテムポールというより「T」の字みたいじゃな…

「いいね！ じゃあ、私はここだね！」

ノゾミちゃんは満足そうにうんうんとうなずくと、Tの字で立っている私の前に座って、我と同じように両手を広げる。

「うん、完璧っ！」

ノゾミちゃん的には完璧らしい。

ノゾミちゃんつてば、結構配信でも天然なところがあるからう。ま、そこがカワイイんじゃないけどな！

謎ポーズをしつつ、大層満足そうな顔をしているノゾミちゃん、ギザかわゆす！

「うーん、あとはそうだなあ〜……」

配布資料を手に、ノゾミちゃんは他にアレンジできそうなところをうーんと唸りながら探してる。

その眼差しは真剣そのもの。

配信と変わらない、ふわふわとした雰囲気も似合うノゾミちゃんだが、真剣に取り組むその姿は、「かっこいい」という言葉がまさにふさわしい。自然なギャップ萌えに思わず惚れる。

——つと、我もいつまでもミーハーな気構えでやってはいかないな。今一度シャキッとせんとな。

ノゾミちゃんのキュートさに浮足立っていたが、今一度気を引き締め直した。

## 43 配信目 【Vtuber】魔王様を見守る臣下達 Part. !;【キラキラライブ】

【Vtuber】魔王様を見守る臣下達 Part. !;【キラキライ  
ブ】

l : 名無しの下級臣下 ID : B e N s P o l o i

株式会社キラキラライブ所属の魔王ニーナ・ナナウルム様を愛でるス  
レです

- ・ 次スレは>>950が宣言して立ててください
- ・ 立たない時は>>960が立ててください
- ・ 荒らしや煽りはNG登録して徹底スルーしましょう
- ・ スルーできずに構う人も荒らしです

■魔王様公式トゥイッター

<https://twitter.com/ninanaulm>

■キラキラライブ本スレ

<https://kakuunosure/kirakiliv>  
e/465498987

■前スレ

【Vtuber】魔王様を見守る臣下達 Part. !;【キラキライ  
ブ】

<https://kakuunosure/kirakiliv>  
e/465679854

【Vtuber】魔王様を見守る臣下達 Part. !;【キラキライ  
ブ】

<https://kakuunosure/kirakiliv>  
e/465465432

10 : 名無しの下級臣下 ID : U I L C v H F 8 M

>>>1

スレ立て乙

11 : 名無しの下級臣下 ID : w 6 4 4 7 1 U S 4

(・ω・)乙

「こ、これは>>>1乙じゃなくてポニーテールなんだから変な勘違いしないでよね！」

13 : 名無しの下級臣下 ID : O o W X F q D Q x

そろそろきらきらフェスティバルまで1週間を切ろうかというところですが

15 : 名無しの下級臣下 ID : 2 6 q o r g v Q 1

魔王様が出演すると聞いて爆速でチケット買ったあの日からドキドキが止まりません

18 : 名無しの下級臣下 ID : N u 6 F T i Y G W

キラキラライブの総合スレも盛り上がってるな  
来週が楽しみだ。

20 : 名無しの下級臣下 ID : I d n q 8 7 0 a F

発表あったときはまだ何ヶ月も先かって思ったけど意外とすぐだったな

22 : 名無しの下級臣下 ID : L S R Y 6 W i H K

魔王様大丈夫かな

24 : 名無しの下級臣下 ID : 4 6 r Y I C c 8 G

ダイジョブでしょ

配信初日から観てる古参だけど、だいぶコミュ障改善してきてる気がする

27：名無しの下級臣下 ID：7tcHfl+yK

でたーw

後方古参面奴www

28：名無しの下級臣下 ID：7nGK4j0PI

トウウィッターでノゾミちゃんと二人で練習してたって言ってる  
タマゲたわ

29：名無しの下級臣下 ID：PgLD2DB/u

大好きなノゾミちゃんからコラボのお誘い断ってた昔の魔王様が見たらなんて言うだろうな

31：名無しの下級臣下 ID：J7lswqJko

>>>29

これか

なつつw

白月ノゾミ／@Shiratsuki|Nozomi

返信先：@nina|nanaulmさん

呪いもできるんだね！さすが魔王様！

ニーナちゃんのお話とっても面白かったし、今度一緒にコラボ配信  
とкаしたいな！

ニーナ・ナナウルム／@nina|nanaulm

返信先：@Shiratsuki|Nozomiさん

ごめんなさい。我、いわゆるコミュ障で…ちよつと……

34 : 名無しの下級臣下 ID : E6hcVWIqJ  
今改めて見ると相当コミユ障だなw

36 : 名無しの下級臣下 ID : NOEiWPB+6  
魔王様成長したんやなって・・・(しみじみ)

39 : 名無しの下級臣下 ID : M8Yc3zRpV  
やつぱり魔王君の成長を…… 最高やな!

41 : 名無しの下級臣下 ID : 9FIk3xKVg  
今更基本的なことでスマン

透明のスクリーンにモデルを映してライブをするのはわかったんだけど、それってリアルタイムでライブが歌って踊るの? 事前録画なん? パブリックビューイングみたいな感じ?

なんかいまいちバーチャルもののライブがよーわからんのだが

44 : 名無しの下級臣下 ID : KUEAsSh+c

>>>41

基本的にはリアルタイムトラッキングのはず

ただ、同時にトラッキングする人数が多くなればなるほどラグとか色々不具合がおきる。もし出演ライブー全員での曲とかがあるなら事前録画かもな

47 : 名無しの下級臣下 ID : yTqCYdcuY

>>>44

はえー、サンガツ

技術の進歩ってすげーな

48 : 名無しの下級臣下 ID : Ped34Mc13

?? 「かがくのちからってすげー!」

49 : 名無しの下級臣下 ID : g C V x O 2 Z t b

バーチャル系はボーカロイドのライブしか観たことないけど、マジでそこに居るみたいで感動するで

会場の一体感とかすこ

51 : 名無しの下級臣下 ID : h l 2 8 H + l n S

いーなー

現地チケット取れなかったから俺はオンラインの観戦チケットなんだよな

52 : 名無しの下級臣下 ID : J H p b S m o P S

オンラインで視聴するのも結構良いぞ？

リアルタイムでユーザーのコメントが流れるし、「一緒に観てる」感  
は結構あるで。コメント見ながらライブ見れるのは「ならでは」や

53 : 名無しの下級臣下 ID : Q b e L E 2 l j T

現地チケは結構競争率エグかったからな

ちなワイはオンライン組や・・・(悲)

55 : 名無しの下級臣下 ID : O w P l 3 I Q p W

ワオも・・・(悲しみ)

57 : 名無しの下級臣下 ID : F b V E O X I i A

ていうか魔王様の3Dモデルって初出なんやろ？  
くっそ楽しみなんだが

59 : 名無しの下級臣下 ID : l u Q m Y a K i 9

天使と勇者も初出だな

60 : 名無しの下級臣下 ID : z c v U N w I 9 J

最近のキラキラライブ3Dの出来結構良いからな



62 : 名無しの下級臣下 ID : s o 8 I / o T A U  
なお最初の1期生の3Dは：

65 : 名無しの下級臣下 ID : g 0 j E C E j e W

>>>62

その後のアップデートでクオリティ上がったから・・・(汗)

67 : 名無しの下級臣下 ID : 9 9 c T u m 3 M a

>>>62

もうゆるしてやれよwww

70 : 名無しの下級臣下 ID : X P v J n r 9 3 5

あれは嫌な事件だったね：

71 : 名無しの下級臣下 ID : x n C M F Z A j K

一番最初の1期生のはひどかったなw

お世辞にも良いとは言い難かった

73 : 名無しの下級臣下 ID : J d + k j T D g P

顎が凶器

74 : 名無しの下級臣下 ID : P + d D I 7 v I e

マジで顎で人殺せそうな造形やったな

76 : 名無しの下級臣下 ID : k k h X i v Q Y G

3Dだともろ中の人の性格というか人間性が出るから楽しみだけで解釈違い起きそうで怖い

78 : 名無しの下級臣下 ID : B J F s 6 R 7 2 i

全部ひっくるめて愛すればいいじゃん？アゼルバイジャン

79：名無しの下級臣下 ID：YSZPUY34d

この前のオフコラボの天使の振り返り配信で魔王様が身長低い幼女だとはつきりしたので結構安心してる

81：名無しの下級臣下 ID：Fo8T7jwFq

ていうか3Dモデルで解釈違ってそうそう起きない気がするけどな

普段の配信みてればだいたいそれが動きに反映されてる気がする。

84：名無しの下級臣下 ID：YMcduRFJh

(天使は実はガニ股かもしれんな・・・)

86：名無しの下級臣下 ID：6wooj/jZD

>>>84

(それは否定できない・・・)

88：名無しの下級臣下 ID：nVSNegGwK

まあ別に天使はガニ股でもああそうかと思わんなw

91：名無しの下級臣下 ID：gPe5K18sC

わかってねーな

ああいう男勝りな感じの女子がときおり見せる乙女らしさにキュンと来るんだろ

92：名無しの下級臣下 ID：nap e2JMI

乙女らしさ(性癖暴露大会)

95：名無しの下級臣下 ID：aFZiv558/

(勇者は首がぐるんぐるん周るかもしれない・・・)

96：名無しの下級臣下 ID：ZSb4S156b

>>95

(それは全く否定できない)

98：名無しの下級臣下 ID：okb5GWq2X

否定しろw

100：名無しの下級臣下 ID：fG8firKXq

否定しろよw

103：名無しの下級臣下 ID：i7WcTuF0o

(ファ○チキください)

105：名無しの下級臣下 ID：DbR7bR4kM

ファ○マに行ってきてください

107：名無しの下級臣下 ID：vAu4Xe5RJ

「こいつ、脳内に直接……!!!

108：名無しの下級臣下 ID：zpanpcr4E

みんな、有給は持ったな?!

109：名無しの下級臣下 ID：yIXnTr2if

>>108

行くぞオ!

110：名無しの下級臣下 ID：Sneev0izw

はぁ、早く来週にならんかな

## 44 配信目 本番

セミのなく声もうるさくなってきた夏真っ盛り。  
ついにキラキラフェスティバルの当日を迎えた。

かく言う我は例にもれず、控室でガクガクブルブル状態で緊張していた。

いや、うん。

しようがないのじゃ。

なにせこのキラキラフェスティバルを行う鳳凰館ほうおうは1万人収容可能な大規模な施設なのだ。チケットもすべて完売。オンラインチケットもかなりの数が売れていると聞いている。

すなわち、我はこれから1万以上の人と対峙しなくてはいけないわけだ。

まるで人間と魔族が繰り広げた戦いの中でも1番苛烈と名高いハーゲイエスの戦いのように。

胃がい、いたい……

私の胃腸のヒットポイントがやうあい。一応胃薬飲んだんじゃけどのお……

練習のときはイケルイケルって思っても本番になると急に緊張しだす現象まじでやめてくれ。

「ニーナちゃん、大丈夫?」

そんなふうにガクブルな我を見かねたのか、みんなの天使、ノゾミちゃんが声をかけてくれた。ふわっと包まれるような優しい声に幾ばくか私の不安が和らぐ。

「ちよ、ちよつとばかり緊張してしまいましたよなじゃです」

「ふふつ、ニーナちゃんつてば、緊張しすぎて語尾が不思議ちゃんね」  
緊張と動揺のあまり、いつもののじゃ口調と丁寧口調が変なふうに合わせて謎の語尾を錬成してしまったが、それにノゾミちゃんはクスリと笑う。

そのさまはまさに天使のほほえみ。

思わずノゾミに惚けてしまう。

思えば、モニターを介して、いち視聴者として観ていた大好きな配信者と、こうしてライブをやることになるとは人生は何ともわからないものだ。

他人と話すことがままならなかった我がその配信者と、（まだぎこちないが）こうして話すことができるようになったのは、まあ、結構成長したなと自分を褒めたい。

けれど、やはり1万の人を相手にしたライブというのは今まで経験してきたどの体験とも全然違う。

我、大丈夫かな？

幾分か過去の魔王としての自覚を取り戻してきたとはいえ不安だ。コミュ障にライブって無理難題なのじゃ……

でも、やると決めたからには覚悟をキメねば……！ 弱気になつてはいかん。

そんなふうには決意を新たにしていると、不意にノゾミちゃんが私の頭を腕で包み、すつと抱き寄せた。

「うえあ?!」

あまりに不意打ちだったため変な声が出た。

「そんなに緊張しなくてもいいわ。

いっぱい練習したし、ライブの1番手の私達1期生が会場を温めておくんだから。ニーナちゃんはそのあと、私と一緒にデュエットを楽しむだけ。そのあとはリリイちゃんとレイちゃんと歌ってフィニッシュ」

まるで年上のお姉さんが小さな子供をあやすように、優しく微笑む。

「ね？ 大丈夫そうでしょ？」

「ひゃ、ひゃい……！」

少しびっくりしたが、おかげで少し、いや、だいぶ緊張がほぐれた気がする。

そうだ。

今日この日のために練習をいっぱいしてきたのだ。

「お、なんだニーナ、ビビってんのか〜？」

ノゾミちゃんと甘美なひとときを過ごしていると、控室に入ってきたリリイが私の頬を後ろから両手で挟んでうりうりする。

「や、やみえんつか！」

「リリイ、あまりニーナちゃんをいじめてはだめよ〜」

糸目でニコニコしているレイがいつものゆるふわな語調でリリイに言うが、リリイはうりうりするのをやめない。

「ええい！ いい加減にやめんか！」

「はっはー！ でもいい感じで緊張ほぐれただろ？」

「む、むう……」

リリイがにししと笑う。

こやつは…… まあ、リリイなりに気にかけてくれているのは分かるし、実際緊張若干ほぐれたけど。

「やつほーまーちゃん、案の定緊張してるのね」

むう……と頬を膨らませていると、控室の扉が開き、ちーちゃんこと近野千香が入ってきた。

「今日もナチュラル寄りのメイクできれいにキメている。」

「ちーちゃん」

「ちーちゃんパイセンじゃん。どもー」

「どうもですー。まーちゃんがお世話になつてまーす」

リリイと軽い挨拶をし、ノゾミちゃんやレイにも次々と挨拶をしていく。

軽々としたフットワークにこれがコミュ強なのだと理解する。

「私もまーちゃんと一緒のライブしたかったなく。まあ、一番最後に全員でやるのだけど」

「悪いな」

「あ、いや。別に妬んでるとかじゃなくて、純粹にリリイさん達が羨ましいだけなのだけわ。」

それにまあ、普通に考えたらまーちゃんがずっと推しているノゾミ先輩と、同期のリリイさんとレイさんを差し置いてやろうとも思わないわ」

それから一呼吸おいて、ちーちゃんは口を開いた。

「一番最初はノゾミ先輩とでしたね。」

ノゾミ先輩、まーちゃんのことよろしくお願いします」

「もちろん！ まかせて、ニーナちゃんと一緒に最高のステージにするわ！」

ノゾミちゃんが両手を胸の前で構えて、  
「頑張るぞい」のポーズをする。

かわいい。

リリイやレイにも同じようによろしくおねがいますとちーちゃんは腰を折り、リリイとレイはそれに「まかせろ」「まかせて」と笑顔で答える。

まるでちーちゃんは私の保護者みたいだなと思わず心のなかでツツコミを入れてしまったが、こんなにも私のことを思ってくれる友がいるなんて、我はなんて果報者じやろうか。

「ちーちゃん」

「ん？ 何、まーちゃん？」

「いや、その…… ありがとうなのじゃ」

「……！」

なんだかちよつぱり恥ずかしかったが、精一杯の笑顔でありがとうと伝える。

うん、やつぱり真正面から感謝を伝えるのは慣れんな！

にははと照れていると、ちーちゃんもなんだか顔を赤面させている。

なぜお主が照れる。

「白月さーん！ そろそろスタンバイの方、よろしくおねがいしますーす！」

「あ、はーい！ 今行きまーす！」

それじゃあ、ニーナちゃん、先に行ってるね」

スタッフさんに呼ばれて、ノゾミちゃんが控室を出ていった。

「ていうか、ニーナも1期生の次だろ？ 準備しとけよ」

「お、う、うむ」

\*\*\*

定刻になり、会場に設置された巨大なモニターに数字が表示され、カウントダウンが始まる。

5・4・3・2・1・・・

カウントが0になった瞬間に、会場の照明が一気につき、きらびやかにあたりを照らす。

会場に訪れたリスナー達がペンライトを振りながら歓声をあげた。

「す、すごいのお……」

トラッキングルームのすぐ横に設置されている控室のモニターで会場の様子を観て、口から自然とその言葉が溢れた。

なんとなく理解はしていたが、バーチャルじゃない、まさに“本物のライブだ。”

出迎えの歓声がやまぬまま、1期生5人が登場し、曲を披露する。1期生が映し出されている透明なスクリーンの幅いっぱいを使うように、5人で踊って歌いはじめる。

あたかもそこに存在するように映し出されている1期生は、“バーチャル”を通してはいるが、本当に楽しそうだ。やはり我はノゾミちゃんのファンなのでどうしてもノゾミちゃんばかりを観てしまうが、ノゾミちゃんも楽しそう。

ライバーがときどきお互いに目配せというか、目を合わせている様子とか、もう本当に素晴らしい！

これがエモいか……

あつという間に4〜5分くらいの曲が終わってしまった。

「皆さん、こんにちはー!!!」

「今日はキラキラフェスティバル in 鳳凰館へ来てくださってありがとうございましたーすーすー！」

皆、盛り上げていきましょーっ！」

会場のリスナーを焚き付けて、ボルテージを更に上げる。

うおおお……



このあと私の番だと思うと、めつつつつちや緊張してきた……

「ニーナさん、スタンバイおねがいしまーす」

「ひゃ、はいー!」

曲が終わって、1期生たちはまだライブ特有のトークをしているが、我は隣のトラッキングルームに向かう。

トラッキングルームにはノゾミちゃん含む、1期生の方たちが当然いる。

先程控室で見ていたトークの続きをされていて、5人ともすごく楽しそう。5人のじゃまにならないように隅の方で出番をまつ。

ふいにノゾミちゃんがこちらに気がついて、ニコツと微笑んできた。

ああ、もう、そういう仕草全てが天使なんだけど？

カワイイかよ。

……かわいい(確信)

「それじゃあ、みんな、どんどんいくよー!」

しばらくのトークの後、会場が暗転し私の出番がいよいよ始まる。

ノゾミちゃん以外の1期生4人がはけ、我はノゾミちゃんとともに所定の位置につく。

……おちつけ、自分。

練習いっぱいしたんだから大丈夫だ。

暗転のまま、曲のイントロ部分が始まる。

——いよいよだ。

「ニーナちゃん」

隣のノゾミちゃんがこちらをみて、かろうじてマイクが音を拾わないくらいの小声でつぶやく。

「一緒に楽しもうね……!」

そう。

楽しむ。

そうだ、何を恐れることがある。

今からするのは、〃推しとのデュエット〃という最高に楽しいひと時だ。

ノゾミちゃんのする微笑みには全然及ばないが、自分を鼓舞するために我もニヤリと無理やり笑い、ノゾミちゃんに小声で返す。

「ああ、当然じゃ……！」

ほどなく、イントロが明け、軽快な曲調が始まった――。

モニター越しに見る会場のリスナーたちの様子も見ながら、練習した歌とダンスを披露する。

ときにノゾミちゃんとのアイコンタクトも交え、ステップを刻む。

ああ――、楽しい。

純粹にそう感じた。

それに、我とノゾミちゃんの歌とダンスが、会場をこんなにも沸かしていると思うと、充足感に体が満ち溢れる。

コミュ障をこじらせ、出るのが少し億劫おっくうだったライブが、こんなにも幸せだとは。

画面越しで見る会場。

我たちの歌で沸く、リスナーたち。

キラキラと照らす照明の光。

周りのものすべてが輝いて見えた。

この瞬間が永遠に続けば良いのに――。

\*\*\*

「はあ……はあ……」

あつという間に楽しいひと時が終わった。

結構動きのあるダンスだったので、自然と息が切れるが、何の不快感もない。達成感しかない。

拍手や、わあく！という歓声が会場を包む。

「はい、ありがとうございましたー！」

改めましてこんにちは！ さっきの曲から続けて登場の白月ノゾミですー！ そしてー……」



みんなやスタッフさん、それに他のライバーさんのおかげじゃ。ありがとう。

えっと…… その……

み、みんな、大好きじゃー!!!」

い、言つてやったぞ!

今日のMCではリスナーのみんなにも感謝の気持ちを伝えると決めていたからな!

我の「大好きじゃ」の声に反響するように、会場が沸く。

「ふふっ。私もニーナちゃんのこと大好き」

「の、ノゾミちゃん……!」

ノゾミちゃんがぎゅつと抱きついてきた。

おいおいおい、我、幸せの絶頂期じゃん……!」

\*\*\*

そのあとも少しMCをして、我らの出番の終わりが近づいてきた。

「さあ、お次の準備もできたようです! キラキラフェスティバルはまだまだこれから! みんな、いーっぱい楽しんでってね!」

「キラフェスはまだまだ始まったばかりじゃ! 皆のもの、どうか心ゆくまで楽しんでくれ!」

興奮冷めやらぬまま、我らはそのまま舞台の外へ捌けていく。

ノゾミちゃんと先程のデュエットの感想を言い合いながら、我はいろいろなことを思い出していた。

はじめはV t u b e rになるなんてどうなるかと思っただけけれど、存外楽しい。

コミュ障はまだちよつとだけ残っているけれど、随分と改善した気がする。コミュニケーションの輪が広がって、ノゾミちゃんやレイ、リレイ達とも、と…友達になれた……と思う。

ちーちゃんともお互いがV t u b e rになっているなんて不思議な状態で再会できたし、キラキラライブのスタツフさんやリスナーさんとの交流も楽しいと感じている自分が居る。

そんなふうに思いを馳せると、自然に口角があがった。

ああ——、V t u b e rになってよかったな。

## 45 配信目 BARキラキラライブ

女の子は自分のスマートフォンに映された7桁の数字と、当選番号が映された会場のモニターを何度も何度も目線を動かして確認する。

(あああああああ当たった——!?)

嬉しすぎて小躍りしそうになるのを必死に抑えるが、女の子の口元は嬉しさを隠しきれず緩んでいた。

女の子が当選した番号、それは“BAR<sup>バー</sup>キラキラライブ”の当選番号だ。

キラキラフェスティバルで前半のライブが終わり、後半の部が始まるまでの間にこの“BARキラキラライブ”というイベントが開催される。

キラキラフェスティバルのチケットを買いと無料で各種イベントへの参加申し込みができるのだが、当日発表される番号と見事一致していればそのイベントへ参加することができるというものだ。

女の子が申し込んだ“BARキラキラライブ”は、バーテンダーとして働いているという設定のライターと話すことができる。

そして女の子が申し込んだのは、当然、一番に自分が推している魔王さまこと、ニーナ・ナナウルムだ。

特徴的な“のじゃ”口調と、コミュニケーションながら尊大に振る舞うというかわいいギャップに一目惚れして以来、配信を欠かさず見ている。

かく言う女の子もコミュニケーション<sup>わづら</sup>を患<sup>わづら</sup>っており、なかなかうまく人と話すことが出来ないのだが、憧れの魔王さまと話すために今日のイメーヂトレーニングに抜かりはない。数分間のおしゃべりだが、有意義なものにするんだと自分を奮い立たせる。

(ウヘヒヒ…… 魔王さまとお話できる！ ウヒヒ……)

\*\*\*

イベント開始の時間——。

「魔王さま、コミュ障でこのBAR大丈夫？ やってける？」

「大丈夫に決まっておろう！ 私は魔王じゃからな！」

まあ、実は言うのと昨日まではこのイベント若干というかめっちゃ不安じゃったけど、ライブ終わってからなんか吹っ切れたのう！ 画面越しなら饒舌になることいと易しじゃー！」

「もうすぐ自分、大学受験で…… 元気がでるような励ましのお言葉いただけたら嬉しいです」

「いやもうお主受験する時点でめっちゃ立派じゃよ。我なんて高校卒業したら進学もせず就活もせずにニートやってたからのう。」

ただそうじゃな…… 励ましの言葉か。

お主はきつと勉強中はスマホを封印したり、ゲーム時間やラノベを読む時間を減らしたり、頑張ってきておるじゃろ？ だから主ならきつと大丈夫じゃ」

ついにイベントがはじまった。

順番に番号を呼ばれ、ステージの上で当選した人たちが思い思いの話を魔王さまとしている。

一人あたりに割り振られた時間は数分間。

これを多いと見るか少ないと見るかは人によつて違うだろうが、ここにいる多くの人がもっとライターと話したいと思っっているだろう。自分もその1人だ。

いつもモニターのの中で見ていた人と直接——もちろん魔王さまは透明なスクリーンに投影されているのでそういう意味では直接ではないが——話すことができる。こんなにも胸が踊ることもそうないだろう。

魔王さまことニーナに話す内容は考えてきてある。

ああでもないこうでもないで時間のなかで必死に考えた内容だ。

「では2434114番の方ー！ ステージにお上がりください」

「！」

来た。

ついに来てしまった!

ドキドキと鼓動を早くする心臓を感じながらステージに上って  
バーカウンター風の席に座る。

緊張している自分を察してくれたのか、目の前のスクリーンの魔王  
さまがニコリと優しく微笑んだ。

「そう緊張せんでもよいのじゃぞ。取って食ったりするわけじゃない  
からの」

「は、はい」

「いやあ、我が他の人に『緊張するな』とか言うの違和感ありまくり  
じゃの。」

……それで、お主とは何を話そうか。

励ましの言葉が欲しいとか、今日のライブの感想やら世間話やらを  
話したり、前の奴らは色々な話題を持ち込んできたのじゃが、お主は  
何か話したいことはあるかの?」

——よし、言おう!

女の子は息を小さく吸った。

「あ、あの! これは私じゃなくて、友達の話なんですけど、その子、  
V t u b e r がとっても好きで、V t u b e r に出会って人生が変  
わったとかも言っていて、魔王さまが大大好きで……」

「うむ」

「その子、V t u b e r が好きすぎて、自分もあの楽しい空間に行きた  
いって思っ、V t u b e r の企業に応募しようとしています。」

あ、まだライターとして応募するか、スタッフとして応募するか決  
めてないんですけど、あ、決めてないらしいんですけど、いまいち応  
募する勇気が出なくて……

実はその子も少しコミュニケーションを取るのが苦手で、そんな  
で応募して良いのかなって…… 社会人としてどうなのかって……」

言ってしまった。

言っちゃった。

女の子はいざ言ってみると少し後悔してしまっていた。

いきなりこんなにまくし立てて言ってしまうし、V t u b e r にな



りたいとかその企業でスタッフとして働きたいとかいきなりこんな事話されて、きつと魔王さまは困ってしまうだろう。

——もつと無難な話にすればよかった。

「ふむふむ」

少し憂鬱な気持ちになってしまった女の子とは対象的に、魔王さまは真剣な顔つきになった。(魔王様は3Dモデルだから仔細まで表情はわからないが。)

魔王さまは顎に手を当てて少し考えると、優しい眼差しで答えてくれた。

「そうじゃな…… その『友達』はきつと本当にV t u b e rが好きなのじゃろう。」

『友達』は日々の抑圧された生活に嫌気がさしておつた。やりたいたいことも目標も特に無くただ惰性で過ごす日々。毎日毎日同じことを繰り返す日々はどんどん色が落ちていった。

そんな折、V t u b e rというコンテンツに出会い、日々がどんどん色づいていった」

「えっ？」

『なんでそんなことまで分かるんですか?!』と思わず口にする、魔王様は『我は魔王じゃぞ?』と得意げに笑う。

『V t u b e rというのは見た目をいくらでも『創る』ことができる。だからこそ、創る事ができない『魂』が魅力的であることが必要じゃ。まあ、これはある人の受け売りじゃが……』

もちろんライターだけではない。スタッフになるにしても、『魂』を込めて共に世界を『創っていく』という情熱や想いが必要じゃ。

つまりその点、『友達』は充分魅力的じゃな。性格も良いし、可愛い声もしておるおなじじゃ。V t u b e rのことがとつても好きなようじゃし。少なくとも、我には魅力的に視えるの。

我の人を視る目はたしかじゃ。

もし、その『友達』が自分に自信がないとか言っていたらもつと自信を持つても良いほどお主は才に溢れておると言っておけ」

「は、はい……」

魔王さまは一呼吸おくとニツと笑った。

「なにせ超絶コミュ障の我がライバーになって、こんな大きなイベントに来れたんじゃないかな！ 不可能だと思って可能性を潰してしま  
うのはもったいないぞ——！」

## 第二章 コミュカ L.V. 2

46 配信目 【#魔王様の雑談】今夜も色々適当に！

【キラキラライブ／ニーナ・ナナウルム】

「我つてばもう向かうところ敵なしじゃと思う」

…何の話？

…唐突にどうした？

…さっきまでの味噌汁の話題どこにいった？

…ん？

…何が？

…味噌汁のこと？

…？

おつといかんいかん。

盛り上がり盛りに盛り上がっていた味噌汁の話題をほっぽり出してつい唐突に喋ってしまった。

ちなみに我は味噌汁には豆腐を入れない派閥なんじゃが、豆腐を入れる派の勢いが凄くてコメント欄も結構盛り上がっていた。

というか今日まで全然気にして生きてこなかったけど、普通のご家庭では味噌汁に豆腐って入れるものなの？ もしかして我つて少数派？ マイノリティ？ いや、言い換えれば孤高の存在か…… くくく

…悪くない。悪くないか？

……つと。そういう話は一旦置いておいて話を戻すと、我、マジでもう敵なしなんじゃと思うんじゃよね。

「いや我さ、今日の雑談でも散々言ってきたのじゃけど、コミュ障だいが治ったと思うんじゃよ」

…それはそう

…確かに初期から見たら見違える

…大人になったな

…だいが喋れるよね

：確かに

：通話ならもうだいたい喋れるよね

：だいたいキョドらなくなった

：人権あるくらいには喋れてる

『通話ならもうだいたい喋れるよね』って言うてる者がおるように、我、通話でならだいたいいけるんじゃないよ。

ほら、つい3日前にもレイとリレイと3人で通話しながら一緒にゲームしたんじゃないよ。で、我は思ったね。もう我はコミュ障ではない、コミュ強じゃと。

我の唯一の弱点であるコミュ障が治ったということは、我は最強完全体になったというわけじゃ」

：ゲーム一緒にできたのは同期だからでは？

：言い過ぎで草

：強い言葉を使うと弱く見えるよ

：過信は禁物

：蛮勇は勇気とは違う

：オフコロボした唯一のライバー達だからじゃん？

：同期ですらやつとだからなあ：

散々な言われようじゃ。ひどい。

まあでもある程度言われるのも仕方のないことじゃ。なにせニナ・ナナウルムとしてデビューしてから今までの間にコミュ障を晒しまくってたんじゃないからな。うんうん。臣下の皆がそう思うのも無理からぬ事じゃ。

しかし臣下の皆は知らない。

我がもともと大勢の魔族を引き連れて人間と戦っていた本物の魔王じゃと。

我は自分のことじゃからよーく分かる。前世がそういうコミュカレベルマックスなところにいたわけじゃから、ある程度の訓練があればコミュ障からの脱却なんて容易いと。

つまり何が言いたいかと言えば、キラキラフェスティバルという一大イベントを完璧に乗り切った今の我はコミュカ<sup>りよく</sup>レベルが50レベルくらいは上がっていると思う。なんならレベル999くらいあるかもしれない。

「ふふふ……」

：まあでもそれなりには成長したよね

：同期との打ち合わせに参加しなかったのが懐かしい

：キラキラフェスティバルもちやんと成功させたしな

：イベントもよかったよ！

：レベル1くらいは上がったかな

：BARキラキラライブ出来たし、まあ……

『BARキラキラライブ出来たし』ってコメントあるけどそうなんじゃないよ。

我、見知らぬ人とお話できてるんじゃないよ？　なんか人生相談みたいなこともしたし、世間話的なこともしたしの。

で、じゃ。

我、そろそろ他の色々なライバー達とのコラボを積極的にしても良い段階な気がするんじゃないよね。ほら、今まではマトモにコラボ配信したのって同期のリリイとレイしかいないし」

：蛮勇はやめろ

：俺たちも色んな人とのコラボ見たいけど……

：大丈夫かなあ

：がんばれ！

：当たって砕けろっていうしね！（玉砕する未来）

：過信は禁物とはこのこと

：がんばれ！（無理やろなあ……）

：いけるで工藤！

：じゃあ手始めにノゾミちゃんと対面コラボしよか

あれ……　おかしいのう。

我が他のライバーとコラボを積極的にしようと言えば、コメント欄がものすごい勢いで『やめておけ』『もうちよと慎重に』『無理そう』という言葉達で埋め尽くされている。

まったく。臣下の皆は心配性じゃな。

案ずることはなにもないのにのう。

まあたしかに、臣下の皆は我が前世で魔王をやっていたということ は分かるわけではないの。我が魔族軍の皆の前で演説をしていたこと や人間軍との戦いで最前線で指揮をとっていたことなんて知る由もないじやろう。

皆の心配はありがたい限りじやが、我にはそういった経験値がある のじや。失敗する要素などどこにもない。皆無じや。

一時的にコミュ障になってしまっただけで、我つてば元は陽キヤじやし。

ふふふ……

昔の感覚が戻ってきたわけじや……

これが全能感。

どんなことをやっても、何をやっても成功する気しかしてこない。

そう、私の辞書に『失敗』の二文字は載っていないのじや。

あるのはただ『成功』のみ。

「ふふふ……」

この試みが成功すればもう一人で寂しくゲームをする必要はない のじや。

レーペックスレジェンズもパーティを組んでボイスチャットしな がら連携取って…… ふふふ…… これで晴れて陽キヤの仲間入り ……

「案ずるな皆のもの…… キラキラフェスティバルを成功させた我に 不可能という言葉はもはやありえない。

善は急げと先人は言った。

さあ、さつそくライバー専用の連絡アプリで突発コラボをしてくれ そうな人を探すのじや！ フフフ…… フハハツハハ！ ハハ……

ゲホツゲホツ…… む、むせた……」

：先が思いやられる

：魔王様がそう仰るなら……

：頑張つて欲しいけど心配

：同期のどちらかは誘つたほうが良いんじゃないか？

：誰とコラボするんや……

## 47 配信目　だだだ大丈夫だ、も問題ない（震え声）

「やっぱり、今回も駄目だったよ……」

：草

：開幕10割で草

：配信始まってすぐに敗北宣言はコミュ障の特権

：大丈夫だ、問題ない

：エルシャ○イ

：草

：あいつは話を聞かないからな…（蛮勇）

：ワイらはさんざん止めたんやで

：まあ、良いやつだったよ…（追悼）

配信を開始して悲壮感満載でしゃべる。

何がやっぱり駄目だったのか――。

それはもちろん、数時間前のコラボ配信だ。

キラキラライブの一大リアルイベント、キラキラフェスティバルで行われたライブも大成功させ、キラキラフェスティバルの合間で行われた『BARキラキラライブ』というファンとの交流イベントも大成功させた我は端的に言って調子に乗っていたんじゃないやろう。

もうコミュ障は完治したから大丈夫、そう思っていたのじゃ。

コミュ障が治ったのじゃから他のライバーとコラボして友達100人できるかなチャレンジも容易いじゃろうと思っただけじゃ。

「我はまだコミュ障陰キャヒキニート属性から脱却できないのか――」

：いやまあ割と良かったと思うよ

：そんな落ち込むな

：開幕はアレだったけど途中からいい感じやったぞ

：他人とコラボできて偉い！

：コラボできたので+1億点

：偉大な一歩だから（フオロー）



モニターに流れるみんなのコメントを横目に、我は部屋の窓から空を眺める。

澄み渡る青空を気持ちよさそうに泳いでいる鳥をぼーっと見る。鳥は自由じゃな——。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

\*

遡ること数時間前——。

「それじゃ始めるニヤ。」

んんっ。ニヤツハロ〜。靴長猫美ニヤ」

「こんばんは〜、八百万やおよろず高等学校ゲーム部所属のにのまえふみよ一三四です。皆よろしくね〜」

善は急げとライバー専用のチャットアプリで我とコラボしてくれる人を募集したところ、すぐに反応してくれたライバーが二人いた。

一人は靴長猫美。

名前からも察することができるが、童話『長靴をはいた猫』がモチーフのライバーで、立ち絵も長靴を履いている。ネコミミ娘の獣人族じゃ。

とても可愛らしい見た目とは裏腹に、よく『腹黒ネコ』『物語をかき乱す糸目キヤラ』とリスナーから言われている。ゲームのNPCに対する行動や少し胡散臭い喋り方などからそんなふうに言われているのだが、実際悪い顔をして楽しそうにゲームをプレイしている。

我も時々配信を見ているから知っているのじゃ。

もう一人はにのまえふみよ一三四。

彼女はキラキラライブの3期生で八百万やおよろず高等学校のゲーム部に所属している高校2年生の女の子だ。ゲーム部に所属しているというだけあって、基本的にどのジャンルのゲームでも上手にプレイする。

おっとりとした喋り方が特徴的なライバーで、ゲームというインドアな趣味もあるが、ソロキャンプというアウトドアな趣味もあって雑談配信ではよくキャンプの話もしている。この前の雑談配信では案件でもなんでも無いのにオススメのキャンプ道具の紹介をしていた。

この二人が私の突発コラボ募集に手を上げてくれたわけじゃ。

そして今日は2時間程度、三人一組で遊べるFPSゲーム「レーペックスレジェンズ」で遊ぶことになったわけで、普通に彼女たちをリスナーとして知っているから一緒にゲームできるのはリスナーとして嬉しい、嬉しいのじゃが……

「ほらニーナちゃん。自己紹介しなくて良いのニヤ？」

「ゆっくりで大丈夫だよ」

いやね、もうね、心臓バクバクなんよ。

エンジン音かっというくらいドドドドドって心音がうるさいんじゃない。

あれ、おかしいな。

我ってコミュ障から完全脱却したんじゃないか？

ああ！ これはあれか！

武者震いのなサムシングか！ それなら納得じゃな！ 叡<sup>えいち</sup>智も極

め、武も極めた我が戦いの前に嬉しくて震えてしまうのは当然のことじゃな！ なにも案ずることはないな！

そうじゃな！ これからするのは配信の冒頭で軽く自己紹介するだけのことじゃもんな！ 何も難しくないな！

アツハツハ！ 楽勝楽勝！

「こー、こんにちわ→なのじゃ。こー、今日はよよろしくお願いしましゆなのじゃ……」

ホーリーシット！

オーマイゴッド！ 聖属性の神なんて私の敵じゃけどー！

「あはは、緊張してるねニーナちゃん」

「まあニーナちゃんのこれまでを知ってれば当然予想できた反応ニヤ

」

：草

：草

：これは大草原

：やっぱりこうなったねw

：挨拶できて偉い！

：ネコと234の前で挨拶できて偉い！

：緊張してるけどこの子かわいい

猫美と二三四、それにリスナーたちの生暖かい視線がづらい。

顔がヒートデーモン並に熱い。

緊張して声が上がらずし噛みまくるし、なんじゃこの挨拶は!?! 我自  
分にびっくり!

なんでキラキラフェスティバルのイベントのときにはすらすらと  
知らない人でもお話できていたのに、今日になってこんなコミュ障  
晒してんの？ バカなの？ 死ぬの？ コミュ障脱却どこ……ここ  
？

キラキラフェスティバルでペラペラ饒舌になって喋れたのはライ  
ブステージをノゾミちゃんと成功させてアドレナリンドバドバで奇  
跡的にかつての勘を取り戻せたからなの……？

なにがコミュカレベル999じゃよ……

完全にコミュカレベル1か2くらいじゃあ……

「ほらほらニーナちゃん、ボクたちまだ初めて喋ったばかりだから  
緊張するのはしょうがないよ。今日一緒に遊んで気軽に話せるく  
らい仲良くなるうね」

「そうなのニヤ。気を落とすこと無いのニヤ。

ニヤーたちとの仲は伸びしろしか無いのニヤ」

「よ、よろしくなのじゃ……」

：てえてえ

：これが尊いですか？

：ネコと234の気遣いがてえてえ

：何だこの甘い空間

：はあく、好き。

：てーてー

「それに、今日はボク、すごく楽しみなんだ。」

ニーナちゃんレーペックスすごく上手なんでしょ？ 配信、アーカイブでだけ見たよ。ボクもマスターランクまではいったことがあるんだけど、ニーナちゃんみたいにプレデターになったことなんて無いからそんな上手い人とできて今日は嬉しいよ。」

「にやにや！ そういえばニーナちゃんFPS激ウマだったのニャ！」

ふっふっふ…… ニーナの旦那あ、今日は期待してますぜなのニャ？ 敵チームをボコボコにぶちのめすのニャ……。」

「わ、我も二人とゲームできると、とても嬉しい、のじや。」

通話してレーペックスするの自体初めてじやし、パーティくんややるのも初めてじやし、楽しみ……なのじや」

：魔王様…… (泣)

：おいたわしや我が主……

：ニーナさんそんな強いんだ

：→世界44位ゾ

：フレンドとやるの初めてなの草

：がんばえ